ISSN 2186-7763

おきなわ薬剤師会報

No.289.　2017(平成29年)　8・9・10月号

沖縄県薬剤師会

／目／次／

第76回通常総会	第76回通常総会会長挨拶	亀谷　浩昌…（ 1 ）
	新理事・新監事紹介	（ 2 ）
	第76回通常総会開催	大城　喜仁…（ 5 ）
	第76回通常総会懇親会	大城　喜仁…（ 9 ）
第76回通常総会資料	平成28年度会員・薬局等の業態現況報告	（10）
	平成28年度事業経過報告および平成28年度決算	（11）
	議題審議及び質疑応答の概要	（29）
熟年の集い	第10回熟年の集い	座覇　里奈…（38）
医療保険	平成29年度調剤報酬請求業務講習会報告	宮城　幸枝…（42）
学術研修	平成29年度新任・新人薬剤師研修会報告	名嘉　紀勝…（44）
実務実習	平成29年度第Ⅰ期薬学生実務実習報告	我喜屋美香…（46）
	実務実習薬学生　平成29年度第Ⅰ期生からの体験記・感想	（47）
	津波古光・小橋川花・國吉大輝・稲福千子・新里征四郎・小槻真子 伊波礼菜・亀川美鈴・岸本卓・小宮雛子・金城奈美乃・知念沙綾 嘉手苅美聡・巨勢紀羽・内山さくら・大城心奏・平良佳穂	
地域保健	なごみ会主催　第7回県民健康フェア2017報告	（58）
	笠原大吾・大城賢治・伊佐要一・高田禎子・金城礼尽	
学薬部会	平成29年度学校薬剤師部会総会・講習会報告	田仲　周子…（65）
女性薬部会	女性薬剤師部会主催　第22回漢方講座報告	喜納徹太郎…（66）
	平成29年度　第2回「妊婦・授乳と薬」研修会報告	玉城仙子・伊佐要一…（67）
啓発･普及活動	琉球新報社「こども新聞」こども記者から取材を受ける	大城　喜仁…（72）
	宜野湾市初任教員研修会・職業人講話	大城　喜仁…（73）
	「グッジョブ・miniスクール」における薬剤師職能の啓蒙活動について	新垣　　梓…（74）
	しごとミュージアム2017参加報告	宮城　豊英…（75）
月例相談会	第145回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会）	山内　優香…（76）
	第146回健康とおくすり相談会報告（那覇地区薬剤師会）	糸満　竜樹…（77）
地区だより	平成28年度中部地区薬剤師会総会報告	佐藤　雅美…（79）
	第15回北部地区薬剤師会定時総会報告	北部地区薬剤師会事務局…（80）
新入会員	平成29年度沖縄県薬剤師会新入会員	（82）
DI	薬事情報おきなわ №246	薬事情報センター…（83）
リレー随筆	沖縄の方言	金城　智史…（97）
薬草学	身近な薬草を知ろう　第33回　ムラサキオモト	狩俣　イソ…（98）
投稿	すこやか薬局主催　すこやか薬局ベビーフェスタ2017報告	安次富　大…（100）
薬連だより	平成29年度沖縄県薬剤師連盟評議員会報告	山城　英人…（102）
	本田あきこ　オレンジ日記「都道府県訪問の旅」	本田あきこ…（103）
	国会レポート　～衆議院解散・総選挙～	藤井もとゆき…（104）
転載記事	琉球新報社「こども新聞」こども記者から取材を受ける	（105）
	なごみ会主催　第7回県民健康フェア2017告知・開催記事	（106）
	内間小の平和学習	狩俣　イソ…（107）
	県現代俳句協会「沖縄歳時記」発刊～宮里晄子先生が紹介される	（107）
会務報告	平成29年6月～9月分	（108）
	沖縄県薬剤師連盟会務報告（平成29年6月～9月分）	（117）
訃報	具志堅博一先生、上原盛和先生、中村優先生、ご冥福をお祈り申し上げます	（117）
会員作品	誌上ギャラリー（裏表紙）について	（118）
編集後記		（118）
お知らせ	地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！	（81）
	会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について	（117）

・表紙

「ニューカレドニア　ヌメアの薬局」photo by 吉冨 弓江（(株)琉薬）

題字：豊平峰雲（とよひらほううん）

撮影地：ニューカレドニア　ヌメア

ショッピングモール内の薬局で、目の前にいろいろな路線のバス停があることから、多くの人が行きかっていました。

第76回 通常総会
会 長 挨 拶

会長　亀谷 浩昌

沖縄県薬剤師会第76回通常総会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

代議員の皆様におかれましては、何かとご多忙のところ本総会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃から当会の事業活動・運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、会員の資質向上と薬剤師職能を世間の皆様に分かって頂く事を2大目標に、私が会長職に就いてから2年が経ちました。この間、常勤の会長として出来る限り会員の皆様のお役に立てるよう努めて参りました。会長として当会を見てみますと良いところは勿論たくさんありますが、まだまだ整備しなければならないことも多々あります。会務を進めながら気づいたことを改善・是正しているところです。目を外に転じれば、薬剤師にとって厳しい状況が変わらず続いていますが、国民及び医療の仲間から期待されていることも多いと思います。かかりつけ薬剤師、健康サポート薬局、地域包括ケアシステムへの参加等について実現を図って参ります。そのためにも会員の皆様のお役に立てるよう当会としてできることは何かを模索してまいります。会員の皆様には色々とご相談させていただくことも多々あるかと思いますが、どうぞご協力をお願い致します。職員と共に頑張ってまいります。

まだ2年先の話ですが、日薬は藤井基之参議院議員に続く第2の議員を誕生させるべく、組織内統一候補を選定しました。県薬はこれにも全力を注ぐつもりです。力を結集すれば実現できる目標と思いますので共に頑張りましょう。

結びにあたり、各地区薬剤師会、そして会員の皆様の益々のご活躍とご発展を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

新理事紹介

①生年　②出身校　③勤務先　④担当職務・地区・職種部会

会　長　亀谷（カメヤ）　浩昌（ヒロマサ）

①昭和24年生
②金沢大
③沖縄県薬剤師会
④統括

副会長　江夏（エナツ）　京子（キョウコ）

①昭和23年生
②名城大
③あかみち薬局
④組織強化

副会長　前濱（マエハマ）　朋子（トモコ）

①昭和38年生
②名城大
③つる薬局
④学校薬剤師部会代表・広報試験検査センター

副会長　外間（ホカマ）　惟夫（ノブオ）

①昭和33年生
②第一薬科大
③琉球大学医学部附属病院
④病院薬剤師部会代表・学術

常務理事　山里（ヤマザト）　勇（イサム）

①昭和24年生
②名城大
③(株)ダイコー沖縄
④卸部会代表・財務

常務理事　村田（ムラタ）　美智子（ミチコ）

①昭和25年生
②九州大
③やすおか薬局
④女性薬剤師部会代表

常務理事　川満（カワミツ）　直紀（ナオキ）

①昭和47年生
②北陸大
③ミント薬局
④医療保険・会営薬局

常務理事　笠原（カサハラ）　大吾（ダイゴ）

①昭和33年生
②東京薬科大
③福寿薬局
④地域保健

（新）

常務理事　西川（ニシカワ）　裕（ユタカ）

①昭和56年生
②摂南大
③そうごう薬局
④医薬分業

理　事　成川（ナリカワ）　賢一（ケンイチ）

①昭和52年生
②東北薬科大
③しろがね薬局
④北部地区代表

新理事紹介

①生年　②出身校　③勤務先　④担当職務・地区・職種部会

理　事　佐藤（サトウ）　雅美（マサミ）

①昭和38年生
②第一薬科大
③(株)薬正堂・すこやか薬局グループ
④中部地区代表

（新）

理　事　渡具知（トグチ）　一枝（カズエ）

①昭和24年生
②九州大
③こくら虹薬局
④那覇地区代表

理　事　新垣（アラカキ）　秀幸（ヒデユキ）

①昭和39年生
②東北薬科大
③新垣薬局
④南部地区代表

理　事　下地（シモジ）　仁（ヒトシ）

①昭和33年生
②北陸大
③シモジ薬局
④宮古地区代表

理　事　幸地（コウチ）　良信（ヨシノブ）

①昭和36年生
②第一薬科大
③幸地薬局
④八重山地区代表

理　事　我喜屋（ガキヤ）　美香（ミカ）

①昭和32年生
②昭和薬科大
③おもろまちメディカルセンター
④実務実習

理　事　荒井（アライ）　千春（チハル）

①昭和33年生
②北海道医療大
③あにも調剤薬局
④在宅医療

理　事　吉冨（ヨシトミ）　弓江（ユミエ）

①昭和38年生
②北海道薬科大
③(株)琉薬
④医療安全対策・薬事情報センター

理　事　吉田（ヨシダ）　洋史（ヒロフミ）

①昭和48年生
②大阪薬科大
③吉田薬局
④災害対策担当

（新）

理　事　上原（ウエハラ）　卓朗（タクロウ）

①昭和57年生
②名城大
③メイト美里薬局
④青年部会代表

新監事紹介

①生年　②出身校　③勤務先

①昭和23年生
②昭和薬科大

トモリ　ヒロカズ
友利　弘一

（新）

①昭和23年生
②昭和薬科大
③(株)琉薬

カミヤ　アサオ
神谷　朝雄

ご退任されました監事・理事の先生方、お疲れ様でした！

大城　桂子　　宮城　敦子　　姫野　耕一　　石川　恵市

（順不同、敬称略）

左より、退任役員を代表して言葉を述べる大城桂子監事
石川恵市理事、宮城敦子常務理事、姫野耕一理事

旧理事で記念撮影

第76回通常総会開催

日時：平成29年6月18日（日）13:30 ～ 16:30
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

川満直紀常務理事の進行で通常総会を開催する旨の案内が定刻の午後1時30分にアナウンスされ開会する。通常総会は、代議員以外の会員が傍聴できる席も特別に用意された。

開会挨拶の前に、会員物故者4名（久場とよ氏、新垣秀昭氏、桑江由利子氏、大城真淳氏）の先生方のご冥福を祈るため、起立黙祷した。

江夏京子副会長が、第76回通常総会開会を告げる。

定款第15条の規定により、議長、副議長を選出。議長は那覇東支部の西川裕代議員、副議長に宜野湾支部の新垣慶朗代議員が選出された。両氏の挨拶の後、議長が事務局に出席人数を確認するよう指示。事務局より報告を受けた新垣副議長が、代議員総数48名に対し出席代議員が43名で、過半数以上の出席により定款第17条の社員総会成立要件を満たしていることが述べられ、総会の成立を宣言した。（途中参加含め最終的に45名の代議員が出席）。

宮城敦子常務理事より同会の日程を資料に基づいて説明がなされ、続いて亀谷浩昌会長が挨拶をされた。

議題に入り、報告事項第1号から第2号、議案事項第1号から第3号までの報告と説明を各担当理事、監事及び選挙管理委員長が滞りなく行った。

休憩を挟み、再び議長と副議長が登壇して質疑応答の時間に入った。質疑応答は、前半に地区薬剤師会代表質問、後半に一般関連質問という構成である。地区薬剤師会代表質問の順番は、去る5月の定例理事会にて地区代表理事によるクジ引きにより決定されたこと、1地区あたりの代表質問は質疑応答を含め計7分であること、時間超過で質問できなかった事項に関しては、一般関連質問の際に質疑応答の時間を設けることが議長より説明された。代表質問は、

① 八重山地区（荒谷敏巳：石垣支部代議員）
② 南部地区（川上雄一朗:南風原支部代議員）
③ 北部地区（玉城 純：名護支部代議員）
④ 宮古地区（古謝真己：平良支部代議員）
⑤ 中部地区（江夏恭範：うるま支部代議員）
⑥ 那覇地区（平良博文：那覇北支部代議員）

の順で代表質問が行われ、これらの質問に対し各担当理事が順次答弁を行った。

続けて、一般関連質問の時間に入った。同時間は前述の議案及び地区代表質問に関連する質疑応答の時間として設けられている。これら地区代表質問ならびに一般関連質問の質疑応答内容については後頁を参照いただきたい。

最後に議案第1号から第3号の採決に入った。議長が一議案毎読み上げ、挙手にて議決していった。

議案第1号、第2号、第3号ともに全員賛成で承認された。

今回、新役員が承認されたことで、新任の監事1名（神谷朝雄氏）と理事3名（上原卓朗氏、渡具知一枝氏、西川裕氏）を登壇させ紹介した。次に、退任する監事1名（大城桂子氏）と理事3名（石川恵市氏、姫野耕一氏、宮城敦子氏）を登壇させ、その中で長年に亘って本会を先導してきた大城桂子監事が退任役員を代表して挨拶をした。

最後に、外間惟夫副会長より、新体制のもと、更なる会発展のために尽力することが述べられ、閉会した。

（報告：事務局 大城喜仁）

第76回通常総会

開会の辞
江夏 京子 副会長

日程説明
宮城 敦子 常務理事

報告第1号
前濱 朋子 副会長

報告第2号
友利 弘一 監事

議案第1号
山里　勇 常務理事

議案第2号
野崎 真敏
選挙管理委員長

議案第2号
神谷 朝雄
監事立候所信表明

議案第3号
亀谷 浩昌 会長候補者

閉会の辞
外間 惟夫 副会長

司　会
川満 直紀 常務理事

＜地区薬剤師会代表質問演説＞

荒谷 敏巳
石垣支部代議員
（八重山地区代表）

川上 雄一朗
南風原支部代議員
（南部地区代表）

玉城　純
名護支部代議員
（北部地区代表）

古謝 真己
平良支部代議員
（宮古地区代表）

江夏 恭範
うるま支部代議員
（中部地区代表）

平良 博文
那覇北支部代議員
（那覇地区代表）

＜地区薬剤師会代表質問回答＞

村田 美智子 常務理事
（自殺予防対策関連
質問回答）

笠原 大吾 理事
（健康サポート薬局関連
質問回答）

吉田 洋史 理事
（災害対策関連質問回答）

議長：西川　裕 代議員(左)　副議長：新垣 慶朗 代議員(右)

役　員　席　側

代 議 員 席 側

新任理事紹介左より
渡具知 一枝 氏、西川　裕 氏、上原 卓朗 氏、神谷 朝雄 氏

総会終了後、新理事による臨時理事会が開催された

＜第76回通常総会次第＞　　司会　常務理事　川満　直紀

○物故会員への黙祷
○開会の辞　　副会長　江夏　京子
○議長・副議長登壇挨拶　　議　長　西川　裕
（点呼・宣告）　　副議長　新垣　慶朗
○日程説明　　常務理事　宮城　敦子
○会長あいさつ　　会　長　亀谷　浩昌
○報告　第1号　平成28年度会務並びに事業経過報告　　副会長　前濱　朋子
第2号　平成28年度会務並びに会計監査報告　　監　事　友利　弘一
○議案　第1号　平成28年度決算承認の件　　常務理事　山里　勇
第2号　一般社団法人沖縄県薬剤師会監事選挙について
選挙管理委員会委員長　野崎　真敏
第3号　一般社団法人沖縄県薬剤師会理事選出承認の件　会長候補者　亀谷　浩昌
○地区薬剤師会代表質問
順番：①八重山地区　②南部地区　③北部地区　④宮古地区　⑤中部地区　⑥那覇地区
○一般関連質問
○採決（議案第1号～ 3号の採決）
○閉会の辞　　副会長　外間　惟夫

［第76回通常総会出席者］

敬称略

＜理事・監事＞

○亀谷　浩昌（会長）　○江夏　京子（副会長）　○前濱　朋子（副会長）
○外間　惟夫（副会長）　○宮城　敦子（常務理事）　○山里　勇（常務理事）
○村田美智子（常務理事）　○我喜屋美香（常務理事）　○川満　直紀（常務理事）
○成川　賢一（北部地区代表）　○佐藤　雅美（中部地区代表）　○姫野　耕一（那覇地区代表）
○新垣　秀幸（南部地区代表）　○下地　仁（宮古地区代表）　○笠原　大吾（地域保健担当）
○荒井　千春（在宅医療担当）　○吉冨　弓江（医療安全担当）　○吉田　洋史（災害対策担当）
○石川　恵市（青年部会）　○大城　桂子（監事）　○友利　弘一（監事）

＜代 議 員＞

☆：議長、◎副議長

○玉城　純（名護支部）　○上原　幸代（那覇東支部）　○武富　弘記（浦添支部）
○友寄　安彦（名護支部）　☆西川　裕（那覇東支部）　○西田　久（浦添支部）
○江夏　恭範（うるま支部）　○真崎しのぶ（那覇東支部）　○日高久美子（浦添支部）
○川平　浩子（うるま支部）　○渡具知一枝（那覇東支部）　○小湾　勝敏（糸満支部）
○福地　健治（うるま支部）　○仲村喜久子（那覇東支部）　○松本　圭五（糸満支部）
○阿嘉　貫哲（沖縄支部）　○平良　博文（那覇北支部）　○高良　武和（糸満支部）
○鈴木　直志（沖縄支部）　○宮本　直樹（那覇北支部）　○上原　陽子（南風原支部）
○普久原　隆（沖縄支部）　○廣川　直子（那覇北支部）　○川上雄一朗（南風原支部）
○諸見里めぐみ（沖縄支部）　○座安　雄一（那覇中央支部）　○川上　善久（南風原支部）
○石垣　満子（沖縄支部）　○仲里すが子（那覇中央支部）　○金城絵理子（南風原支部）
○村田　成夫（嘉手納支部）　○服部　大（那覇中央支部）　○楠見　康夫（南風原支部）
◎新垣　慶朗（宜野湾支部）　○吉田　和子（那覇中央支部）　○城間　盛伸（南風原支部）
○新川　祥平（宜野湾支部）　○國吉　直子（小禄支部）　○古謝　真己（平良支部）
○仲座　方利（宜野湾支部）　○具志堅興信（小禄支部）　○荒谷　敏巳（石垣支部）
○大塚成一郎（首里支部）　○池間　正（浦添支部）
○吉村　瑞枝（首里支部）　○大城　博次（浦添支部）

第76回通常総会

＜懇親会＞

日時：平成29年6月18日（日）16:45 ～ 18:30
会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

通常総会を無事に終え、会場を研修室に移し懇親会が催された。司会の村田美智子乗務理事により、会が進められた。

江夏京子副会長の開会の辞に続き、亀谷浩昌会長の挨拶、砂川靖沖縄県保健医療部長が来賓の挨拶をされ、大城桂子監事の乾杯の音頭で歓談に入った。

歓談が落ち着いた頃、日本薬剤師会有功賞伝達授与と当会職員への永年勤続表彰が執り行われた。日本薬剤師会有功賞は長年に亘る薬剤師会への貢献を称えるもので、比嘉真三氏（第16代会長）が受賞され、感謝の言葉と受賞の喜びが述べられた。また、永年勤続表彰は、20年勤続表彰として當山直樹氏（会営薬局医療センター前医療事務）が表彰された。

大いに盛り上がった懇親会は、前濱朋子副会長の挨拶で閉会となった。

（報告：事務局 大城喜仁）

来賓の方々と記念撮影

司　会
村田 美智子
常務理事

来賓挨拶
砂川　靖
沖縄県保健医療部長

乾杯の音頭
大城 桂子
監事

日本薬剤師会有功賞受賞
比嘉 真三 氏

職員永年勤続表彰受賞
當山 直樹 氏

第76回通常総会資料

報告第1号　平成28年度会務並びに事業経過報告

1. 平成28年度 会員・薬局等の業態現況報告

(1) 会　員　数

平成29年3月末現在

① 正　会　員	1,157 人	
(内 訳)	(A会員594人、B会員537人、特別会員A 8人、特別会員B 16人、特別会員C 2人)	
名 誉 会 員	2 人	中村昌義、金城保景
薬 局 開 設 者	226 人	
一 般 販 売 業	14 人	
卸売一般販売業	22 人	
勤 務 薬 剤 師	755 人	薬局(682)、病院(71)、製輸(2)
そ　の　他	138 人	行政(4)、教研(2)、他職勤務者(14)、無職(116)、学生(2)
② 賛 助 会 員	70 人	
合　計	1,227 人	①(1,157人) + ②(70人)

(2) 薬局開設者等（前年度との比較）

平成29年3月末現在

	平成27年度	平成28年度	増　減
薬 局 開 設 者	229 人	226 人	-3 人
一 般 販 売 業	15 人	14 人	-1 人
卸売一般販売業	21 人	22 人	1 人
勤 務 薬 剤 師	711 人	755 人	44 人
保 険 薬 剤 師	949 人	1,001 人	52 人
そ　の　他	123 人	138 人	15 人

(3) 保険薬局等（前年度との比較）

平成29年3月末現在

	平成27年度	平成28年度	増　減
保 険 薬 局	538 件	540 件	2 件
処方箋応需薬局	529 件	533 件	4 件

第76回通常総会資料

平成28年度事業経過報告

1. 創立90周年記念事業

大正15年に設立した本会は、先の大戦をはさんで会名称が幾度か変遷し、他薬剤師会にはない多様な歴史を経て、平成28年10月10日、創立90周年を迎えた。

創立90周年記念事業として、平成28年11月６日に開催された第30回沖縄県薬剤師会学術大会の終了後、沖縄県薬剤師会創立90周年記念祝賀会を沖縄県薬剤師会館ホールで開催した。会館ホールは普段の研修会会場から祝賀会会場として趣を変えるため、紅白幕で華やかに設営された。

祝賀会のオープニングセレモニーと主な余興として、琉球子ども舞踊集団「童夢　花わらび」が伝統舞踊を披露した。江夏京子副会長による開会の辞、亀谷浩昌会長の主催者挨拶のあと、乾英夫日本薬剤師会副会長、藤田次郎琉球大学医学部附属病院長、砂川靖沖縄県保健医療部長から祝辞を頂き、安里哲好沖縄県医師会長には乾杯の音頭を執って頂いた。また、創立80周年以後の10年間で特に本会の活動にご尽力頂いた神村武之、松山朝雄、山城志津の3氏に、創立90周年記念特別表彰を授与した。120余人の多くの関係者および招待者が参加し、盛大な宴となった創立90周年記念祝賀会は、外間惟夫副会長の閉会の辞をもって無事終了となった。

2. 医薬分業対策

平成28年度は厚生労働省から「患者のための薬局ビジョン」が公表され「かかりつけ薬剤師」制度が開始された。地域におけるかかりつけ薬剤師の役割に期待が高まり､その要件の1つに「医療に係る地域活動への参画」が掲げられ、県薬剤師会および各地区薬剤師会主催の健康とおくすり相談会が活発に開催され、薬剤師職能に対する意識が高まった年でもあった。

8月には、医薬分業対策委員会主催研修会として、栃木医療センターの管原健一氏をお招きして「ポリファーマシーの取り組みと今後の薬薬連携について」と題してご講演頂いた。続けて県内広域病院薬局長と各地区薬剤師会長、分業担当者が参加し､「診療報酬改定に伴う薬薬連携のあり方」のテーマで医薬分業対策会議を開催した。管原健一先生にも参加して頂き、今後の薬薬連携についてのディスカッションを行うことができた。

10月には、各基幹病院のFAXコーナー職員と各地区担当者が参加するFAXコーナー担当者意見交換会を開催した。事前アンケートの結果に基づきFAXコーナーの現状についての意見交換を行い、今後のFAXコーナーの取り組みを認識する事ができた。

2月には厚労省保険局医療課薬剤管理官の中山智紀氏をお招きし､「保険薬局・保険薬剤師の今後の方向性と期待」と題してご講演頂いた。

健康サポート薬局の要件の1つである夜間･休日調剤に取り組んでいる「会営薬局医療センター前」は8年目を経過し、地域医療の一翼を担っている。

不動在庫・備蓄ネットワークシステムの運用も８年目になり、現在162薬局が参加している。

3. 生涯学習

平成28年度新任・新人薬剤師研修会は7月10日に沖縄県薬剤師会館ホールで開催され76名の参加があった。研修「医薬品情報業務について」は、株式会社琉薬の吉冨弓江氏が担当し、卸におけるDI業務の紹介、情報検索の基本、検索サイト紹介や事例Q&Aなど多岐にわたる有益な講義で

あった。研修「薬歴の書き方について」は、初めて病院薬剤師に講師依頼し、浦添総合病院の浜元善仁氏が薬歴の必要性、目的、より良い薬物治療を提供するツールであること等の具体例を示しながらの講義であった。研修「フィジカルアセスメントについて」は、琉球大学医学部附属病院の佐久川卓氏が担当し、興味を持った体験談からのフィジカルの必要性、失敗談や症例提示などを参加者に質問しながらの実践的な講義であった。また、学校薬剤師部会の上原卓朗氏、青年薬剤師部会の西川裕氏、女性薬剤師部会部会長の村田美智子氏から各部会の活動について紹介があった。今年の研修会も1 ～ 3年目の新人薬剤師や薬学生の参加が見受けられた。今後も、講師やテーマを工夫することにより、連続聴講しても実りのある研修会となるよう努力したい。

沖縄県薬剤師会学術大会は、「薬剤師が拓く　医薬の未来」というテーマで、11月6日に沖縄県看護協会ホールで開催された。沖縄県薬剤師会が創立90周年、学術大会の開催が30回目という記念の年でもある同大会は、過去最高となる318名（県薬会員215名、病薬会員93名、薬学生10名）の参加があった。会員発表では、病院診療所部門8演題，保険薬局部門6演題，その他1演題の合計15演題の発表があった。ランチョンセミナーは、塩野義製薬株式会社との共催で、琉球大学医学部附属病院整形外科助教の六角高祥氏に「慢性腰痛症治療の実際」をご講演頂いた。そして、創立90周年記念講演Ⅰでは、琉球大学医学部附属病院の藤田次郎病院長に「顔の見える薬剤師をめざして～チーム医療における薬剤師の役割～」と題して、薬剤師に対して調剤のみではなく顔の見える薬剤師を目指して頑張って欲しいとの熱い期待とエールを頂いた。創立90周年記念講演Ⅱには、藤井基之参議院議員に「薬剤師のレゾンデートルとは？」を、乾英郎日本薬剤師会副会長からは「21世紀に期待される薬剤師の役割」と題して、歴史的・社会的背景の構造変化から今後の薬剤師への期待と役割、そしてかかりつけ薬局と健康サポート薬局の機能についての講演があった。会員発表終了後、会場を沖縄県薬剤師会館ホールに移して、発表者全員に発表認定証を授与､優秀な発表者には奨励賞を授与した。病院診療所部門では浦添総合病院の森川仁美氏の「当院におけるプレアボイド報告への取り組み」、保険薬局部門ではヴァインドラッグあがり浜薬局の盛本直也氏の「患者様の求める“かかりつけ薬剤師”とは」が選ばれた。今大会は、発表内容やスライド作成は比較的良くまとめられていたが、発表時間の超過、利益相反開示や倫理規定に関する項目が無いなど、大会運営や奨励賞の評価方法に関して今後改めて検討したい。

その他の研修会では、「薬剤師のための症例検討入門研修会」を、糖尿病をテーマをとして3回開催した。10月22日の最後の研修会では、講義後のSGDで全グループが治療計画立案まで到達し、講師の大澤友二氏から「素晴らしい内容」との講評を頂き､盛会の内に終了した。次年度からは、臨床薬理学に関する研修会を年5 ～ 6回程度開催する予定である。また､福岡県薬剤師会主催の「認定薬剤師取得のためのセミナー」に本県からも20名枠で参加できることとなり、現在、腎臓病薬物療法認定薬剤師の参加を募集している。

日本薬剤師会生涯学習支援システム（JPALS）は平成24年4月からスタートしているが、自己学習の成果として今後もさらに推進したい。JPALSの使用は、日本薬剤師会会員は無料であり、かかりつけ薬剤師や健康サポート薬局に関する研修の学習として有用であるため、今一度原点に返ってJPALSの普及に努めていきたい。日本薬剤師研修センターとの連携として、JPALSとの相互乗り入れや健康サポート薬局研修の修了書の発行があるが、JPALSと研修センター認定は生涯学習の両輪として更なる普及に努めていきたい。

我々薬剤師は、薬の専門家として国民の健康の保持・増進に寄与する責任がある。最近の薬剤師に対する厳しい非難を解消するためには、薬剤師が「国民の目に見える形」で医療への貢献を示す必要がある。そのためにも、生涯にわたり、研修・研鑽に取り組む事は重要である。今後も

実りある生涯学習活動を継続していきたい。

4. 医療安全対策

平成28年度医療安全講習会を平成29年2月26日（日）に本会館ホールで次の内容で開催した。

①「官民一体となったテロ対策の推進について」 沖縄県那覇警察署警備課
②「感染性廃棄物等の処理について」 沖縄県環境部環境整備課
③「指定代理人店の紹介、団体保険制度のご案内（休業補償保険)」
　損害保険ジャパン日本興亜株式会社沖縄支店、ヒューマン＆アソシエイツ沖縄
④「医薬品副作用被害救済制度等について」 PMDA健康被害救済部

当初は②④の予定であったが、①③からの依頼を受けたため4題となった。参加者は134名で、昨年より10名ほど多かった。尚、「受講認定証」から「受講修了証」に表記を変更した証を受講者に発行し、職員等への伝達講習をするよう促した。

医療事故調査制度が施行して1年が経過し、一般社団法人日本医療安全調査機構が「医療事故調査開始1年の動向」を発行した。3月に連絡協議会が開催され、亀谷浩昌会長、吉田典子氏、吉冨弓江理事が出席した。今のところ、沖縄県内において薬剤師に外部委員としての参加要請はないが、医薬品に関わる事例が発生した際には必ず連絡していただけるよう、お願いした。

5. 医療保険

平成28年度は、調剤報酬改定があり、調剤基本料はじめ、大幅な改定となった。基準調剤加算も一つに統合され算定要件が厳しくなった事により、算定薬局は40軒にとどまった。後発医薬品調剤体制加算は、ハードルが上がったにもかかわらず90%以上の薬局が1か2を算定できており全国一となっている。

7月3日には「適正な調剤報酬請求業務」と「個別指導・共同指導における指摘事項について」の講習会を浦添市てだこホールにて開催した。同じく7月13日に八重山地区、7月20日には宮古地区で講習会を開催した。

沖縄県における平成28年度の個別指導は、集団的個別指導が42件、新規集団指導が31件、既存の薬局個別指導が21件実施された。特に問題となるような薬局はなかった。しかし未だに薬歴簿の指導要点記載が不十分な例が多く見受けられた。誤った調剤報酬請求も散見され、返還の対象になった事例もあった。また、平成29年3月2・3日に沖縄県において2薬局への共同指導が実施された。

今年度から、おきなわ薬剤師会報に「調剤報酬請求業務Q&A」を連載している。

6. 地域保健開局

(1) 患者のための薬局ビジョン

平成28年度に国より沖縄県が委託を受けた当該事業を当会が受けてこれを実施した。内容は、「薬局・薬剤師によるアウトリーチ型健康づくり推進事業」であった。概略は、沖縄県の離島・へき地において、以下①～⑤に配慮し各島で実施した。

①　身体状態の測定及び標準値等の解説により、地域住民が自分の身体の変化を知り、正しい生活習慣の習得、セルフメディケーションの考えを醸成するきっかけをつくる。
②　薬を使用している住民に対しては、薬の使用方法等の相談応需、お薬手帳の利用促進、健康食品等に関する正しい情報の提供など薬や健康食品の適正使用を促す。

③　薬を使用していない住民に対しては、健康食品等に関する正しい情報を提供し、適正使用を促すことで、健康づくりの指導・助言を行う。
④　身体情報のデータについては、本人に対する指導・助言への使用だけではなく、それを活用して地域の問題点等の検討を行い、解決の方向を住民と共有化していく。
⑤　離島の選択としては、沖縄県企画開発部資料に基づいた分類より3つの異なる形態の離島を選択した。

（開催場所・日程）
黒　　島（沖縄県八重山郡竹富町）：平成29年2月 5日（日）
多良間島（沖縄県宮古郡多良間村）：平成29年2月26日（日）
津 堅 島（沖縄県うるま市勝連）：平成29年3月12日（日）
ちなみに、これらの離島には薬局は1軒もない。

具体的内容としては、島民の健康に対する意識を高めるため、県薬剤師会としては、各種機器（骨密度計、体成分測定器、血管脈波測定器、HbA1c測定器などを使用する）による健康測定を行い、そのデータから必要な指導を計画した。すなわち標準値を超えるような値が出た場合の受診勧奨、または診療所の医師並びに保健師への健康相談の促しを行い、測定値に何らの異常がない場合には、健康増進の為に（または薬を使わないようにするために）心がける内容を指導した。データは、それぞれの測定値の平均値を求め、沖縄県民のデータと比較した。また、島民の主観的健康観ならびに啓発活動実施前後における健康に関する意識変容などのデータを聞き取り、アンケートを集計した。参加した地区薬剤師会の薬剤師はもちろん、連携した他職種の各団体からは初めての企画に対する参加の感想並びに意見を聴取することにより、離島で引き続きこのような取り組みを実施するための計画に資する方策を検討した。

以上を「患者のための薬局ビジョン推進事業報告書」にまとめた。

(2) 健康サポート薬局

平成28年8月14日ならびに9月22日に沖縄県薬剤師会にて『健康サポートのための多職種連携研修会Ａ』及び『健康サポートのための薬剤師の対応研修会Ｂ』を実施した。研修会は、2回とも午前中に研修Ａを行い、昼食をはさみ研修Ｂを連続して行った。研修Ｂの免除者37名以外は同日に研修Ａ及びＢを受講してもらった。8月14日は受講者57名、9月22日には66名の受講があった。また、8月14日に開催された、研修Ａでは“当県における健康課題と健康増進施策、健康サポート薬局への期待”の講義を沖縄県保健医療部健康長寿課　課長　山川宗貞氏に講演して頂き、“各者への取り組み”の講義を障害者支援施設ソフィア　副施設長　城間定治氏及び沖縄県栄養士会管理栄養士 並里ななえ氏が講演された。9月22日は、研修Ａのうち上記の講義はあらかじめ許可をいただきビデオ撮影した画像を視聴してもらった。一方、研修Ｂについては両日ともにグループワークを含めすべて省略することなく実施した。参加者のグループは地域ごとに分けて編成し、地域の社会資源について効果的に討論できるよう配慮した。

受講証明書は、アンケートと引き換えにその日のうちに手渡した。

修了者のうち、その後の知識習得型研修（e-learning）も終了した者は13名で、健康サポート薬局の申請を行い認められた薬局は2軒であった（平成29年3月末現在）。今後更なる申請と承認に向けて会員薬局のサポートを行う予定である。

(3) 自殺予防・対策事業

平成10年に全国の自殺者が3万人を越えて以来、毎年3万人以上の自殺者が続く中、平成18年に自殺対策基本法が成立、自殺予防総合対策センターが設置された。平成21年には地域自殺対策緊急強化基金（100億円）も設置され、沖縄県も自殺対策連絡協議会を立ち上げ、本会も同協議会に参加し、各関連機関とともに沖縄県の自殺予防事業に協力してきた。県内における自殺者は、平成10年以降300人を超える状態が続いていたが、全国の自殺者が3万人を切った平成24年、沖縄県も267人と15年ぶりに300人を下回ることができた。しかしその後、平成27年全国が24,025人と徐々に減少してきたことに対して、沖縄県は平成25年度に278人、平成26年度に284人、平成27年度281人と微増傾向にあり、自殺が依然深刻であることに変わりはない。沖縄県自殺対策連絡協議会においては､今後も取り組んでいく事業として位置づけられている。当初目標とした数値(平成18年度県内自殺死亡率の10%減）は、平成24年度で達成できたため、平成25年度以降は平成18年度の30%以上の減に向けて取り組んでいる。

地域保健開局委員会が取り組んだ平成28年度の自殺予防対策事業は、例年通り、主として会員店舗における自殺予防啓発ポスターの掲示と、ゲートキーパーとしてのスキルアップ研修会の開催であった。研修会は平成29年3月12日に38人の参加によって行われた。沖縄県保健医療部健康長寿課精神保健班の本村しのぶ氏からは、自殺の現状（国･県)、自殺総合対策推進の枠組み（国･県)、県および市町村の取り組みについての報告と説明を頂いた。沖縄県医師会常任理事・かいクリニック院長の稲田隆司医師からは、「自殺の背景にあるアルコール関連問題･抑うつをめぐって」というテーマで、先生が過去に経験された24症例をご提示頂き、ゲートキーパーとしての「気づき」に大いに参考になるものであった。アルコール依存者は常に「お酒」と「生きがい」の綱引きをしている状態であること、その意味で定年後の人生のQOLも大事であるという指摘があった。アルコールに限らず、「抑うつ」の背景にある様々な問題の提示があり、ゲートキーパーとしての広範囲にわたる知識と技術の習得ができた。

(4) 禁煙事業について

平成19年に発足した禁煙支援薬局･薬剤師の認定制度（3年毎更新）は､現在､認定薬剤師は56名、禁煙サポート薬局は9軒である。以前より、禁煙支援に携わる薬剤師のモチベーションを高く維持するための工夫が必要であることが本年度も確認された。また、平成28年度も、禁煙サポート薬局支援継続事業として「第212回全国禁煙アドバイザー育成講習会」と共同開催した。

日本禁煙科学会学術総会（京都）には4年前の沖縄大会から継続して参加しており、全国の禁煙に関わる多職種間での情報交換を行った。

4年前に設立された“こどもの禁煙研究会”の事業の推進に県薬剤師会として貢献した。また、県内の禁煙事業を多職種で集まって報告を行う“沖縄県禁煙協議会総会”に継続して参加し、県薬剤師会の取り組みを報告した。

一方、学校薬剤師を中心とした教育現場における防煙（はじめの1本をすわせない）活動については継続して行われた。これらの活動が小学校から高等学校の児童・生徒に対して継続して展開していることは、喫煙防止に大いに貢献するものである。未成年の禁煙支援に対しては、継続して県に対してその補助事業を申請しているところである。ブリンクマン指数の廃止により、未成年をはじめとしてあまり多くない本数の喫煙者の禁煙治療が、保険を使用できるようになったことの意義は大きいと考える。さらに、「電子タバコ」については、健康被害についても今後検討の課題となっている。

(5) フィジカルアセスメント

BLS（1次救命救急）は、平成27年度に実施した当該事業の基本となっている米心臓協会(AHA)のガイドラインがG2015に更新されたことを受けて、国内での対応に時間を要したことから、本年度は会員一般向けの講習会は実施できなかった。需要は多いと思われるので新しいガイドラインに基づいた講習の離島も含めた早急の実施が望まれた。一方、“薬剤師のためのフィジカルアセスメント”は、平成28年度で、連続5年となる県薬剤師会が県病院薬剤師会と共同で行っている継続事業である。受講生の人数構成は、病院薬剤師約20名に対し、開局の薬剤師5名とほぼ定着している。最近は、那覇、中部からの受講生がほとんどであり、開催場所である沖縄クリニカルシュミレーションセンターからの距離に依存した受講生の分布となっている。

また、受講を終了した者が次年度以降のインストラクターとして講習の実施運営を引き継いでいく仕組みが必ずしも新陳代謝につながっているわけではない。さらに、講習修了者が、自分が勤務する薬局での業務に講習内容を生かせているのかは未知数である。会場費用の負担に対するアウトカムも論じられる時期に来ていると考えている。

(6) 地域ケア会議

地域包括ケアに基づく地域ケア会議の専門職メンバーとして、那覇市、浦添市、沖縄市、宮古島市、宜野湾市、嘉手納町等に薬剤師の派遣を行った。これら会議への参加報告は可能な限り県薬剤師会で集約している。

また、沖縄県内における当事業の専門職アドバイザーの養成には、沖縄県リハビリテーション専門職協会が県よりの委託を受けた事業を行っているが、沖縄県薬剤師会は当初よりこの協力メンバーの団体の一つである。本年度は依頼を受けて、合同の研修会「自立支援型・介護予防ケアマネジメントと地域ケア会議研修会」において“模擬地域ケア会議”の専門職アドバイザーとして参加した。

(7) 一般用医薬品等

本年度は、日本薬剤師会からの要請により、各会員薬局へ「医薬品販売制度対応に関する自主点検」についてチェックリストの回収並びに集計を行い、日本薬剤師会へ報告した。さらに、平成28年4月1日施行の“セルフメディケーション税制”について会員薬局･薬店への周知を行った。

また、平成27年度実施していた「薬剤師の臨床判断と一般用医薬品適正使用研修会」の講演会は、現在のところ唯一の「健康サポートのための薬剤師の対応研修」となっているため、継続して行うことが期待されている。

7. 在宅医療

在宅医療を担う薬剤師の養成・支援を目的として以下の3つの事業を行った。

(1) 在宅医療支援薬局の啓発活動

県薬剤師会ホームページに在宅医療を支援できる58ヶ所の薬局一覧を地区別に掲載した。在宅担当薬剤師名、受け入れ可能な担当地域、施設（患者宅、介護施設など)、疾病（高齢者、緩和ケア、重度心身障がい児など)、注射薬の無菌調製などと一般の方々にもわかりやすく、細やかな掲載を心がけた。

在宅医療支援薬局について病院の地域連携室への周知活動を行った。

【在宅医療支援薬局の掲載内容】

	H28/4/14現在	H29/3/14 現在
1）登録薬局数	58薬局	74薬局
2）受入可能な施設		
①患者宅	56薬局　97%	69薬局　93%
②介護施設	53薬局　91%	70薬局　95%
③グループホーム	52薬局　90%	66薬局　89%
3）受入可能な疾病		
①高齢者	53薬局　91%	69薬局　93%
②がん	41薬局　71%	64薬局　87%
③緩和ケア	36薬局　62%	49薬局　66%
④重症心身障がい児	32薬局　55%	42薬局　57%
⑤ＴＰＮの無菌調製	7薬局　12%	10薬局　14%
⑥医療用麻薬の無菌調製	6薬局　10%	9薬局　12%
⑦抗がん剤の無菌調製	1薬局　2%	4薬局　5%
4）医療材料の取扱	41薬局　71%	56薬局　76%
5）無菌調製のために設置している設備		
①クリーンルーム	4薬局	4薬局
②クリーンベンチ	7薬局	7薬局
③安全キャビネット	1薬局	1薬局
④他薬局設備を共同利用	12薬局	20薬局

(2) 薬剤師のための在宅医療教育セミナー

現在の在宅医療支援薬局の約4割が小児在宅医療を受け入れない薬局が多数みられたため小児在宅医療の講演会を実施した。

第1回　7月25日（日）　小児在宅医療　県薬剤師会館

(3) 無菌調剤室共同利用講習会および無菌調製実践講座

クリーンベンチの設置及び共同利用の推進を目的として、会営薬局うえはらの無菌調剤室共同利用およびTPN、医療用麻薬注射剤の無菌調製の実践講座を開催した。現在、県内では7ヶ所の薬局がクリーンベンチを設置しており、その中でも、会営薬局うえはら、北部地区薬剤師会営薬局では共同利用を目的として設置されている。患者さんの要望に応えられるような体制が整いつつある。

6月26日（日）、7月10日（日）　会営薬局うえはら　　各参加者12名

8. 薬学生実務実習受入

実習生受け入れ7年目になるこの年は、1期15名、2期17名、3期1名、計33名であった。大学の内訳は以下の通りである。九州保健福祉大学3名、福岡大学9名、第一薬科大学1名、長崎国際大学5名、崇城大学2名　徳島文理大学6名、徳島文理大学香川1名、明治薬科大学1名、神戸学院大学3名、東邦大学（新）1名、姫路獨協大学1名。各地区の体制も充実してきており、実習生も意欲的に取り組んでくれた。熊本地震直後ではあったが、崇城大学からの学生も予定通り実習に参加でき、学生の希望にて災害の実習を行うことができた。

2薬局において、平成31年度開始を想定しての新コア対応トライアル実習が行われた。新コア対応に向かう一連のスケジュールの中では、九州山口調整機構主催の講習会として「実務実習ガイドライン説明会」・「新たなWS説明会（WS形式）」を行った。

認定実務実習指導薬剤師養成のための講座は、初めての八重山地区開催を含め、新規3回、更新4回の開催ができた。各指導薬剤師の更新状況も順調ではあるが、一方ではライセンスを取得したにも関わらず更新にいたらなかった指導薬剤師もいたことは否めない。

他に、早期体験実習　5名（第一薬科大学2年生）を受け入れた。また認定実務実習指導薬剤師の養成のためのワークショップへは6名派遣した。新コアカリキュラム、ガイドライン周知のための研修会（日薬伝達講習会）も開催した。

9. 災害支援対応

沖縄県と沖縄県薬剤師会で災害時における薬剤師の医療救護活動に関する協定を締結した。協定の内容は、県内において地震、風水害、その他の災害等が発生した場合に、沖縄県地域防災計画に基づき本会は薬剤師班の派遣等で協力することになっている。

新型インフルエンザ等対策として、12月13日に県が毎年実施している新型インフルエンザ等対策連絡訓練があり、県からの連絡通知を受け、沖縄県薬剤師会新型インフルエンザ等対策業務計画に沿って、役員・地区薬剤師会会長等への連絡通知や事務局内対応を行った。

災害時の対策として、今年は、非常用保存食料、災害用マンホールトイレ等を備えた。

10. 関連事業

毎年度、継続して行った事業は次のとおりである。

(1)「薬と健康の週間」事業
　（10月17日～10月23日）
(2) 各種関連協議会への参加協力
(3) 関連機関団体との協議及び懇談
(4) 関係行政当局との定期的連絡協議会
(5) 日薬年金及び各種保険への加入促進
(6) 県薬会報の発行
(7) 求人求職斡旋事業及び薬剤師確保対策事業
(8) 麻薬覚せい剤及び
　薬物乱用防止対策行事への参加協力

11. 健康とおくすり相談会（月例）

回	開催日	担当	開催場所	相談員数	参加者数
第132回	5月29日	中部地区	イオンモール沖縄ライカム	56	85
第133回	6月12日	那覇地区	サンエー那覇メインプレイス	18	58
第134回	8月28日	那覇地区	サンエー那覇メインプレイス	9	40
第135回	9月15日	南部地区	イオン南風原店	11	64
第136回	10月20日	南部地区	パレット市民劇場ロビー	7	25
第137回	11月13日	那覇地区	沖縄セルラーパーク那覇	11	160
第138回	11月19日	那覇地区	浦添市保健相談センター	7	45
第139回	11月20日	中部地区	うるみん健康福祉センター	22	153
第140回	11月26日	地域保健開局委員会 那覇地区	沖縄セルラースタジアム前	5	76
	11月27日			5	79
第141回	2月 5日	八重山地区	黒島伝統芸能館	10	19
第142回	2月19日	宮古地区	多良間村コミュニティ施設	11	80
第143回	3月 5日	那覇地区	サンエー那覇メインプレイス	15	55
第144回	3月12日	中部地区	津堅公民館	13	14

平成28年度 薬事情報センター事業報告

（質問集計については2016.1.1 ～ 2016.12.31）

1. 情報提供業務

(1) 質疑応答業務（集計内容の詳細は別紙参照）

・調査件数：574件／年（会員323、一般251）48件／月

・質問者数：471人／年　39人／月

(2) WEBサイト（ホームページ）による情報提供

・ホームページ利用状況　アクセス件数：34,976

（5/8現在208,135）（月平均2,915アクセス、1日平均97アクセス）

○本年度追加・更新した主な項目

（一般向け）・研修会カレンダー　・沖縄県薬剤師会会報　・薬局マップ

・在宅支援薬局一覧　・薬剤師会Facebook開設　・会務予定

（会員向け）・ドーピング禁止薬リスト2016　・新聞報道事例集

・安全性情報等　・通知文書掲載

(3) 会報「薬事情報おきなわ」の編集・発行（隔月刊・年6回）No.237 ～ No.242を発行

(4) 会員向けメール配信業務（2016.12 ～）

2. 情報収集業務

(1) 新規図書総数48冊（購入：10冊）

(2) 購読雑誌：20誌

(3) 各都道府県薬剤師会機関誌：37誌

(4) 業界新聞：4紙（薬事日報、薬局新聞、薬事ニュース、国保新聞）

(5) メーカー・卸機関誌：10誌

(6) 厚生労働省および日薬からの各種情報・通知

(7) 製薬企業からの情報

3. 情報管理業務

(1) 当センターで独自に入力・管理を行なっているデータベース

① 沖縄県薬薬事情報センター質疑応答事例(ファイルメーカーPro)(平成28年12月現在9449件)

② ドーピング禁止薬リスト

③ 購読雑誌資料データベース：265件（2016年～ 2017年4月分）

(2) 日薬と協同作成を行なっているデータベース（文献書誌情報検索システム：Bunsaku）

・入力データ：436,587件（昨年より7,289件増加：平成28年12月31日現在）

沖縄県薬担当雑誌(「新薬と臨床」「総合診療」「臨床薬理」「おきなわ県薬会報」「産科と婦人科」)

(3) 全都道府県薬の薬事情報センター協同事業：情報バンクへの資料提供

4. 学会・研修会・会議等

(1) 沖縄県薬剤師会スポーツファーマシスト意見交換会(今後の活動について)（於：会議室）
日時：平成28年6月15日（木）（出席：吉田、笠原大吾、西平克子、小島進、玉城有子）

(2) 医療事故調査教育セミナー 2016（国際医療リスクマネージメント学会）
日時：平成28年9月3日（土）～ 9月4日（土）（於：東京大学）（参加：吉田典子）

(3) 平成28年度　都道府県薬剤師会スポーツファーマシスト担当者研修会
日時：平成28年11月25日（金）（於：TKP ガーデンシティ渋谷）（参加：吉田典子）

(4) 平成28年度　日本薬剤師会　薬事情報センター実務担当者研修会
日時：平成29年3月3日（金）（於：日本薬剤師会）（参加：吉田典子）

5. その他の研修会・会議等

(1) 日本アンチ・ドーピング機構「平成28年度アンチ・ドーピング研修会」及び
「平成28年度第3回アンチ・ドーピング教育活動講師養成講習会」
日時：平成28年10月15日（金）（於：東京北区　味の素ナショナルトレーニングセンター）
（参加：小島進、西平克子）

(2)「ツールドおきなわ大会」ドーピング検査シャペロンスタッフ（於：名護市）
日時：平成28月11日13日（日）（参加：小島進）

(3)「平成28年度　沖縄県競技力向上対策研修会」（於：県立総合教育センター）
日時：平成29月1日25日（水）（参加：平良恭子）

(4) 東京都薬剤師会「スポーツファーマシストのための講習会」(於:東京都世田谷区連合会館)
日時：平成29年2月26日（日）（参加：笠原大吾）

(5)「平成28年度　第１回スポーツ医・科学委員会」（於：沖縄県体育協会）
日時：平成29年3月14日（金）（出席：笠原大吾、吉田典子）

6. その他

(1) 琉球新報社発行・新報生活マガジン「うない」の掲載原稿審査
(化粧品、健康食品等の広告表現の審査：薬事法、健康増進法等)
平成28年1月～平成28年12月（46件）

(2) DI業務支援
・平良　恭子：平成28年4月～平成29年3月（1日／週）
・金城みどり：平成28年4月～平成29年3月（平日：9時～ 17時）
・赤嶺　朝健：平成28年4月～平成29年3月（2日／月：1日2時間）

(3) 会営薬局とよみへ出向
・吉田典子（週3回：平成28年4月～平成28年12月）
・吉田典子（週5回：平成29年1月～ 3月）（平成28年1月～ 12月：584時間）

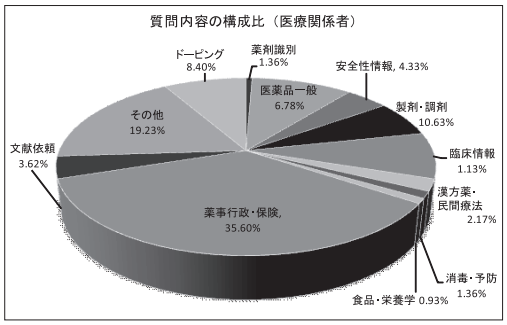
(4) (株)沖縄東邦よりホームページへのリンク依頼

2016年（平成28年）：調査件数集計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	(%)
薬剤識別	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0.6%
医薬品一般	7	2	1	3	1	5	1	0	1	4	6	2	33	10.2%
安全性情報	1	1	1	1	0	2	2	1	2	0	2	1	14	4.3%
製剤・調剤	2	0	2	2	5	2	2	5	0	0	1	0	21	6.5%
臨床情報	4	1	0	2	1	0	2	11	1	0	2	3	27	8.4%
漢方薬・民間療法	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3	0	7	2.2%
消毒・予防	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	4	1.2%
食品・栄養学	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	0.9%
薬事行政・保険	4	11	8	11	12	9	6	19	7	6	16	6	115	35.6%
文献依頼	0	0	4	2	0	0	0	0	2	0	4	1	13	4.0%
その他	2	3	3	4	3	19	4	4	3	1	7	4	57	17.6%
ＰＬ相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
ドーピング	0	7	5	0	0	4	1	0	8	1	1	0	27	8.4%
合計	21	26	25	25	24	41	22	42	24	13	42	18	323	100.0%

一般（件数）	21	12	27	16	18	24	14	25	22	29	16	27	251
（ドーピング）	1	0	3	0	0	1	0	1	3	0	0	0	9

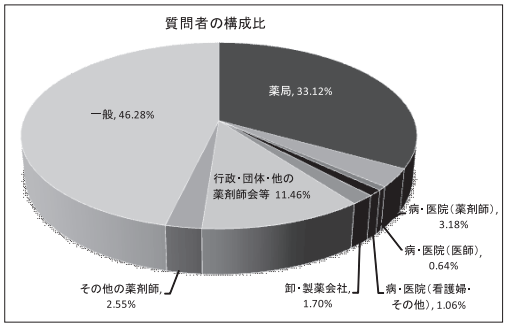
2016年：年間総質問件数　574件
2016年：月平均質問件数　48件



2016年（平成28年）：質問者数集計（質問者別）

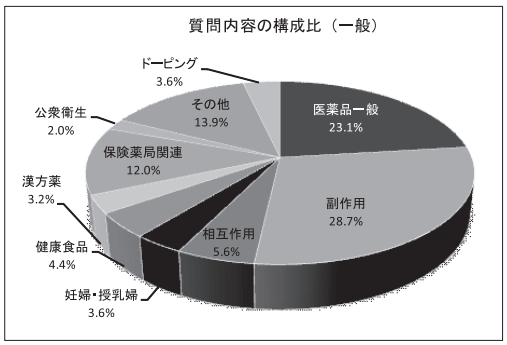
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	(%)
薬局	6	10	12	11	11	21	12	19	6	9	25	14	156	33.12%
病・医院（薬剤師）	0	2	1	0	1	2	0	2	2	2	1	2	15	3.18%
病・医院（医師）	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0.64%
病・医院（看護婦･その他）	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	5	1.06%
卸・製薬会社	1	1	0	1	1	0	0	0	3	0	1	0	8	1.70%
行政・団体・他の薬剤師会等	6	4	6	5	4	9	4	4	3	2	5	2	54	11.46%
その他の薬剤師	2	1	0	1	0	6	2	0	0	0	0	0	12	2.55%
一般	22	12	25	16	18	22	11	18	18	27	13	16	218	46.28%
合計	37	31	45	36	35	60	30	43	32	40	48	34	471	100.0%

2016年：年間総質問者数　471人
2016年：月平均質問者数　39人



2016年（平成28年）：一般からの質問の内訳（1月～ 12月）

	合 計	(%)
医薬品一般	58	23.1%
副作用	72	28.7%
相互作用	14	5.6%
妊婦・授乳婦	9	3.6%
健康食品	11	4.4%
漢方薬	8	3.2%
保険薬局関連	30	12.0%
中毒	0	0.0%
公衆衛生	5	2.0%
その他	35	13.9%
ドーピング	9	3.6%
合計	251	100.0%



平成28年度 試験検査センター事業報告

Ⅰ. 医薬品検査について

1）計画的試験

＊平成28年度の計画的試験検査については、平成28年12月15日に試験検査センター委員会で討議され、1）アシクロビル錠の溶出試験、2）ポピドンヨードの定量試験及び、3）漢方薬の細菌試験が選定された。検体の提出は188検体であった。

検査対象	検査項目	検体数
アシクロビル錠	溶出試験	18
ポピドンヨード製剤	定量試験	92
漢方薬	細菌試験	78
		188

また、漢方薬の細菌試験については第17改正日本薬局方「参考情報」を結果判定の参考とした。

2）統一試験（日薬）；平成28年度医薬品精度管理試験

＊日薬より試験実施要領及び検体が配布され、下記の試験を行った。

＊イブプロフェンの定量試験（分析法）HPLC法

平成29年3月27日提出

3）外部精度管理（厚生労働省）；平成28年度登録試験検査機関技能試験

＊国立医薬品食品研究所より検体及び試験法が配布され、下記の試験を行った。

＊イプリフラボン錠の定量試験（分析法）HPLC法

平成29年3月27日提出

4）依頼医薬品・化粧品検査

＊依頼検査の実績は以下のとおりである。

化粧品の細菌検査及び医薬品の規格試験等の依頼を受けた。

	検 査 数	検査料金
依　　頼	20	220,860

Ⅱ. 水質検査について

1）学校関係水質検査

＊学校関係の水質検査は以下のとおりである。

県立学校及び市町村の水質検査、また、琉球大学附属小学校・中学校等の水質検査を行った。

	検査数		検査料金
	飲料水	プール水	
県立学校	78	74	2,303,532
市 町 村	424	250	8,163,990
その他　琉大附属小学校 等	13	4	215,352
計	515	328	10,682,874

2）依頼水質検査

＊依頼検査は以下のとおりである。八重瀬町営プール等の水質検査等を行った。

	検 査 数	検査料金
一般依頼	83	821,178

Ⅲ. 空気環境検査について

1）ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の検査

＊県立高等学校及び那覇市等より空気環境検査の委託を受け、検体を取りまとめ、財団法人東京顕微鏡院へ分析を依頼した。今年度は3園の認定こども園から依頼を受けた。

ただし、東京顕微鏡院への外注費は、2,784,800円。

2）ダニ又はダニアレルゲン検査

＊県立学校、那覇市及び国立沖縄工業高等専門学校の検査を行った。

	検査数	検査料金
県立学校	82	1,549,800
那覇市立小・中学校	72	909,792
与那原町立小・中	3	50,544
浦添市立幼・小・中	12	123,552
豊見城市立幼・小・中	21	402,192
宮古島市立幼・小・中	47	791,856
その他　国立高専 等	13	244,256
計	250	4,071,992

	検査数	検査料金
県立学校	231	632,016
那覇市立幼・小・中	317	709,128
与那原町立小・中	9	22,680
浦添市立幼・小・中	16	51,840
豊見城市立幼・小・中	41	109,080
宮古島市立幼・小・中	141	355,320
その他　国立高専 等	31	86,184
計	786	1,966,248

Ⅳ. 随時の調査等依頼への対応

○学校環境衛生や医薬品等の検査に関する問い合わせについて、下記の事項等について資料提供を行った。

1）カーテンの等級について　　など　4 件

Ⅴ. 研修

1）日薬技術講習会

講 習 日　平成28年12月21日
講習会場　日本薬剤師会 会議室
出 席 者　小泉 宝之

～研修内容～
1 特定保健用食品の制度の現状と注意点について
2 試験検査センター委員会報告
3 試験検査施設におけるGMP調査について

講 習 日　平成28年12月22日
講習会場　日本薬剤師会 会議室
出 席 者　小泉 宝之

～研修内容～
1 第17改正日本薬局方の改正内容と日本薬局方原案審議の動向
2 日本薬局方原案審議委員会理化学試験方委員会の第17改正以後の動き
3 粘着力試験法について

Ⅵ. 試験検査センター委員会

平成28年12月15日（木）19時より本館会議室において試験検査センター委員会を開催した。
会議内容は次のとおりである。

1 報告事項

1）平成27年度実績報告（医薬品検査・水質検査等）　2）平成28年度中間報告（医薬品検査・水質検査等）

2 議題

1）平成28年度計画的試験について　　2）平成29年度事業計画（案）について

3 学校薬剤師が学校環境衛生検査のために使用していた試薬の廃棄について

第76回通常総会資料

貸借対照表

平成29年3月31日現在

一般社団法人　沖縄県薬剤師会　　（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	282,273,144	250,809,934	31,463,210
未収入金	278,956,959	321,569,478	△ 42,612,519
商品	71,509,511	84,036,116	△ 12,526,605
立替金	17,000	208,361	△ 191,361
前払費用	742,892	789,835	△ 46,943
仮払金	690,022	515,031	174,991
貸倒引当金	△ 3,030,000	△ 3,510,000	480,000
流動資産合計	631,159,528	654,418,755	△ 23,259,227
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	69,132,360	77,525,921	△ 8,393,561
九山積立預金	11,614,462	11,614,292	170
法務対策積立預金	5,002,500	5,002,427	73
会館修繕積立預金	35,748,034	32,747,574	3,000,460
災害対策積立	3,001,621	3,001,578	43
移転積立預金	30,003,081	20,002,452	10,000,629
特定資産合計	154,502,058	149,894,244	4,607,814
(3) その他固定資産			
建物	147,923,535	153,061,995	△ 5,138,460
造作	2,711,005	3,122,527	△ 411,522
建物付属設備	14,798,108	17,659,458	△ 2,861,350
構築物	6,358,371	7,590,043	△ 1,231,672
車両運搬具	4	4	0
什器備品	6,863,776	8,013,822	△ 1,150,046
土地	157,097,850	157,097,850	0
電話加入権	2,765,413	2,765,413	0
ソフトウェア	3,168,269	5,543,618	△ 2,375,349
敷金	1,250,000	1,250,000	0
差入保証金	5,081,850	5,081,850	0
その他固定資産合計	348,018,181	361,186,580	△ 13,168,399
固定資産合計	502,520,239	511,080,824	△ 8,560,585
資産合計	**1,133,679,767**	**1,165,499,579**	**△ 31,819,812**

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	207,557,720	235,838,341	△ 28,280,621
未払金	28,369,004	22,055,652	6,313,352
前受金	336,700	350,000	△ 13,300
前受会費	0	32,500	△ 32,500
預り金	1,367,662	1,354,595	13,067
賞与引当金	4,257,600	5,266,355	△ 1,008,755
未払法人税等	1,571,800	12,894,300	△ 11,322,500
流動負債合計	243,460,486	277,791,743	△ 34,331,257
2. 固定負債			
長期借入金	119,199,000	129,195,000	△ 9,996,000
退職給付引当金	57,136,508	70,803,306	△ 13,666,798
固定負債合計	176,335,508	199,998,306	△ 23,662,798
負債合計	**419,795,994**	**477,790,049**	**△ 57,994,055**
Ⅲ　正味財産の部			
1. 指定正味財産			
地方公共団体補助金	21,688,897	24,168,078	△ 2,479,181
寄付金	7,747,089	8,084,809	△ 337,720
指定正味財産合計	29,435,986	32,252,887	△ 2,816,901
2. 一般正味財産	684,447,787	655,456,643	28,991,144
（うち特定資産への充当額）	85,369,698	72,368,323	13,001,375
正味財産合計	713,883,773	687,709,530	26,174,243
負債及び正味財産合計	**1,133,679,767**	**1,165,499,579**	**△ 31,819,812**

物故会員へ黙祷

第76回通常総会資料

正味財産増減計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

一般社団法人　沖縄県薬剤師会　　（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	3,292	23,322	△ 20,030
特定資産受取利息	3,292	23,322	△ 20,030
受取入会金	1,300,000	730,000	570,000
受取入会金	1,300,000	730,000	570,000
受取会費	102,144,276	100,396,686	1,747,590
正会員受取会費	54,736,388	51,161,950	3,574,438
賛助会員受取会費	47,327,888	49,234,736	△ 1,906,848
特別会員会費	80,000	0	80,000
事業収益	1,686,032,420	1,820,401,842	△ 134,369,422
出版物事業収益	6,079,170	4,354,025	1,725,145
広告料事業収益	540,000	620,000	△ 80,000
その他事業収益	10,570,073	10,058,859	511,214
調剤報酬収入	1,441,098,983	1,567,758,639	△ 126,659,656
一部負担金収入	176,105,288	192,830,871	△ 16,725,583
小分治療剤収入	14,717,277	15,272,452	△ 555,175
保険外	11,889,781	9,790,295	2,099,486
受取手数料	4,783,947	4,680,022	103,925
保険等調整増減	813,254	△ 3,742,533	4,555,787
新規契約賦課金	60,000	40,000	20,000
利用契約金	2,570,000	2,670,000	△ 100,000
医薬品検査手数料	330,759	55,080	275,679
水質検査手数料	11,550,060	12,049,020	△ 498,960
空気検査手数料	4,923,828	3,965,112	958,716
受取補助金等	4,854,181	4,622,279	231,902
受取地方公共団体補助金	2,375,000	1,933,000	442,000
受取補助金等振替額	2,479,181	2,689,279	△ 210,098
受取寄付金	537,720	486,061	51,659
寄付金収入	200,000	100,000	100,000
寄付金等振替額	337,720	386,061	△ 48,341
貸倒引当金戻入益	480,000	0	480,000
雑収益	3,741,131	4,856,253	△ 1,115,122
受取利息	7,827	45,882	△ 38,055
雑収入	337,712	701,550	△ 363,838
事務受託金収益	3,395,592	4,108,821	△ 713,229
経常収益計	**1,799,093,020**	**1,931,516,443**	**△ 132,423,423**

科目	当年度	前年度	増減
(2) 経常費用			
事業費	1,733,207,642	1,850,253,851	△ 117,046,209
期首棚卸高	84,036,116	70,815,036	13,221,080
仕入高	1,370,763,924	1,517,048,594	△ 146,284,670
期末棚卸高	△ 73,547,032	△ 85,904,907	12,357,875
役員報酬	5,017,140	3,627,940	1,389,200
給料手当	107,152,976	102,185,851	4,967,125
雑給	66,392,771	59,602,883	6,789,888
賞与	16,994,715	18,653,203	△ 1,658,488
退職給付費用	3,703,969	5,282,734	△ 1,578,765
法定福利費	25,405,708	24,194,433	1,211,275
福利厚生費	973,659	1,058,635	△ 84,976
会議費	3,387,246	2,581,054	806,192
旅費交通費	17,454,446	15,859,228	1,595,218
通信運搬費	6,444,343	5,811,712	632,631
減価償却費	13,973,861	16,603,864	△ 2,630,003
消耗品費	8,558,799	12,902,872	△ 4,344,073
修繕費	323,419	727,468	△ 404,049
研修費	42,000	6,000	36,000
出版物印刷費	9,469,184	9,650,011	△ 180,827
地代家賃	21,931,658	21,849,007	82,651
光熱水料費	5,895,403	6,047,080	△ 151,677
賃借料	2,213,886	4,748,835	△ 2,534,949
広報費	3,234,870	4,842,480	△ 1,607,610
保険料	941,205	1,096,076	△ 154,871
諸謝金	574,548	628,210	△ 53,662
租税公課	3,276,093	3,350,245	△ 74,152
支払負担金	1,190,191	1,379,309	△ 189,118
支払補助金	6,000,000	6,000,000	0
支払寄附金	130,000	83,000	47,000
外注費	3,017,088	2,151,576	865,512
支払手数料	6,544,152	6,269,396	274,756
交際費	576,914	190,828	386,086
管理維持費	5,620,234	5,626,941	△ 6,707
新聞図書費	1,338,644	460,436	878,208
貸倒引当金繰入	0	610,000	△ 610,000
支払利息	1,852,130	2,000,280	△ 148,150
商品廃棄損	2,037,521	1,868,791	168,730
雑損失	285,861	344,750	△ 58,889
管理費	35,322,433	34,366,761	955,672
役員報酬	1,962,860	1,459,060	503,800
給料手当	6,216,462	6,387,033	△ 170,571
退職給付費用	463,367	239,678	223,689
法定福利費	1,017,265	1,083,276	△ 66,011

科　　目	当年度	前年度	増　減
福利厚生費	28,306	30,820	△ 2,514
会議費	571,522	627,043	△ 55,521
旅費交通費	3,393,096	3,183,766	209,330
通信運搬費	736,326	609,004	127,322
減価償却費	1,162,653	1,440,160	△ 277,507
消耗品費	115,450	443,238	△ 327,788
消耗品費	117,050	0	117,050
出版物印刷費	161,400	102,000	59,400
光熱水料費	526,780	502,118	24,662
賃借料	294,569	325,938	△ 31,369
保険料	94,109	99,131	△ 5,022
諸謝金	0	129,600	△ 129,600
租税公課	443,457	457,905	△ 14,448
支払負担金	15,459,460	13,550,950	1,908,510
支払寄附金	6,000	3,000	3,000
支払手数料	1,255,413	2,696,996	△ 1,441,583
交際費	766,883	381,439	385,444
管理維持費	262,994	326,238	△ 63,244
支払利息	267,011	288,368	△ 21,357
経常費用計	**1,768,530,075**	**1,884,620,612**	**△ 116,090,537**
評価損益等調整前当期経常増減額	30,562,945	46,895,831	△ 16,332,886
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	**30,562,945**	**46,895,831**	**△ 16,332,886**
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	1	4	△ 3
什器備品除却損	1	4	△ 3
経常外費用計	1	4	△ 3
当期経常外増減額	△ 1	△ 4	3
税引前当期一般正味財産増減額	30,562,944	46,895,827	△ 16,332,883
法人税等	1,571,800	12,894,300	△ 11,322,500
当期一般正味財産増減額	28,991,144	34,001,527	△ 5,010,383
一般正味財産期首残高	655,456,643	621,455,116	34,001,527
一般正味財産期末残高	684,447,787	655,456,643	28,991,144
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	△ 2,816,901	△ 3,075,340	258,439
一般正味財産への振替額	△ 2,816,901	△ 3,075,340	258,439
当期指定正味財産増減額	△ 2,816,901	△ 3,075,340	258,439
指定正味財産期首残高	32,252,887	35,328,227	△ 3,075,340
指定正味財産期末残高	29,435,986	32,252,887	△ 2,816,901
Ⅲ　正味財産期末残高	**713,883,773**	**687,709,530**	**26,174,243**

第76回通常総会

議題審議及び質疑応答の概要

＜議題の審議＞

報告第1号　平成28年度会務並びに事業経過報告について

前濱朋子副会長が、(1)平成28年度会員・薬局等の業態現況報告、(2)会議等の開催状況、(3)講演会・研修会等の開催状況、(4)公的機関等の会議・公的活動、(5)各種委員会等の開催状況、(6)会報取材状況、(7)公的機関への協力、(8)地区・支部・部会活動について配付資料に基づき報告した。引き続き、本会の平成28年度事業経過報告、「薬と健康の週間」行事、生涯研修の受講状況、試験検査センター事業報告、薬事情報センター事業報告までを報告書に沿って報告した。

報告第2号　平成28年度会務並びに会計監査報告について

友利弘一監事より、大城桂子監事とともに会計、事業の監査を行い、上半期監査を平成28年12月19日、年度末監査を平成29年5月12日に行った。定例理事会には相互で出席したことが述べられた。平成28年4月1日から平成29年3月31日までの沖縄県薬剤師会の予算の執行を監査した結果、事業報告の内容は会の状況を適切に示しており、また、収支計算報告の内容は、会の活動及び収支状況を正しく示しているものと認めた、との報告がなされた。

議案第1号　平成28年度決算承認の件について

山里勇常務理事より、配付資料に基づき、法人全体の合算で貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録の大科目について順次説明し、公益事業にあたる実施事業等会計、共益事業にあたるその他会計（会営薬局うえはら・会営薬局とよみ等)、薬剤師会本体の管理にあたる法人会計に仕訳された合算内訳について述べられた。

議案第2号　一般社団法人沖縄県薬剤師会監事選挙について

議長より、監事立候補者が配付資料に掲載されている立候補一覧表のとおりであることが述べられた。

選挙管理委員会委員長から選挙の経緯の説明があるため、当委員長を入室させた。野崎真敏選挙管理委員長より、「去る平成28年12月12日に亀谷会長名で今回の選挙の公示をした。これは、本会の『一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則』、『同施行細則』により、本日の沖縄県薬剤師会第76回通常総会において選出される監事を決定するための選挙である。友利弘一現監事と神谷朝雄氏の2名から届け出があった。2名ともに届け出に不備はなく、多くの推薦を得て、これを承諾し、立候補の届け出をされている。さて、本日行う監事選挙については、立候補者数が員数を超していないので、選挙規則第9条第1項に則って、投票を行わずに、その候補者をもって当選者としたい。」との説明があったが、この説明に代議員から特に意義は無かった。

議長と副議長の議事進行により、監事立候補2名から所信表明がなされた。

議長より、選出については、後程の採決にて行われることが述べられた。

議案第3号　一般社団法人沖縄県薬剤師会理事選出の承認について

亀谷浩昌会長候補者より、新理事候補者名簿を資料として提出しているので、承認を頂きたいと述べられた。

＜地区薬剤師会代表質問＞

八重山地区薬剤師会

荒谷 敏巳 代議員質問①

モバイルファーマシーの導入について、国からの予算措置が決まれば検討することになっているようだが、地震、津波などの自然災害はいつ何時起こるかわからない。もう少し早い導入を検討できないか？

吉田 洋史 理事答弁

昨年度、災害対策委員会で検討し、理事会においてモバイルファーマシー配備の必要性を訴え、予算の確保をお願いしたが、年間維持費が約40万円で、平時の活用もほとんどないとの理由で見送りとなった。国からの予算措置が決定されたら検討していくことになる。車両本体価格約1,200万円で、他県では半額補助の600万円程度で購入している。参考までに、災害対策積立金として現在300万円がある状況である。

荒谷 敏巳 代議員質問②

調剤済み処方箋について、薬剤師法第27条に薬局開設者は調剤済みの処方箋を3年間保存すると記されている。院外処方箋発行率が高くなっており、また、後期高齢化が進むにつれ、処方箋枚数が益々増えていく中、今後、薬局で処方箋を保管するスペースの問題が生じてくることが懸念される。電子薬歴に電子レセプト、最近ではお薬手帳と、IT化が進んでおり、調剤済み処方箋においても紙媒体による保存ではなく電子化の対応が望まれる。県薬から国へ働きかけることを検討していただけないか？

川満 直紀 常務理事答弁

本会としては、日本薬剤師会総会でのブロック代表質問にて提案していきたいと思う。しかしながら、法律を改正しないといけないなど、すぐにできることではない。

荒谷 敏巳 代議員質問③

石垣島では新空港開港以来、一段と観光客が右肩上がりで増加している。それに伴い、県外からの多様な処方箋の持ち込みが増え､地元の薬局の備蓄だけでの対応に不安を感じている。休日、特に連休ともなれば、卸も休みで薬を準備できないことや、処方箋発行元の医療機関も休みとなり疑義照会等の連絡が取れない状況になることもある。勿論、応需した薬局と他の開局している薬局間で、できる限りの努力はしているが、対応に苦慮する機会が多いのが現状である。県や市が観光立県、観光立市と誘客に力を入れることは理解できるが、同時に離島の医療体制の現状も考慮して、沖縄県から旅行代理店など様々なルートを通じて観光客や他県より来島される方々へ、常用薬を携帯する旨を沖縄県薬剤師会から啓発していただけないか？　観光客や来島される方が、安心して楽しんでもらえるためにも是非ともお願いしたい。

江夏 京子 副会長答弁

他県からの観光客は確かに年々増加しており、観光立県としては嬉しい事ではあるが、他県からの処方箋の対応に日夜奮闘している八重山地区の会員の御苦労を察している。本会としても、離島医療のこの現状を行政関連機関に訴え、会員の業務負担を少しでも軽減できるように働きかけていきたいと思う。

南部地区薬剤師会

川上 雄一朗 代議員質問①

現在、開局の薬剤師では、認定薬剤師や専門薬剤師を取得することが困難な環境にある。最近、沖縄県薬剤師会では、開局薬剤師であっても専門薬剤師になるためのサポートを行っているとのことだが、今後もそのような計画は立てられているのか、具体例等があれば教えていただきたい。

外間 惟夫 副会長答弁

昨年度、福岡県薬剤師会から会員の学会認定取得支援と会員レベルアップの目的で、福岡県内で「認定薬剤師取得へ向けた継続セミナー」を2年間で開催する計画への参加打診があり、沖縄県内の参加希望者数把握のために昨年5月にアンケート調査を実施し、今年度から20名枠での参加が決定している。既に、日本腎臓病薬物療法学会(JSNP)の腎臓病薬物療法認定薬剤師については参加者を募集し、本会会員6名（沖縄県15名）が6月4日開催の第1回目セミナーに参加しており、次年度までに計8回開催予定である。今後は同様に、日本臨床腫瘍薬学会(JASPO)の外来がん治療認定薬剤師セミナーが今年度2回、日本緩和医療薬学会(JPPS)の緩和薬物療法認定薬剤師セミナーが年明けからスケジュールが組まれていく予定になっており、各セミナーの募集案内はFAX一斉同報等で随時案内していく。なお、本セミナーは単位取得のサポートのみだが、今後、認定試験や症例提出については、要望があれば病院薬剤師会と協力して本会学術研修委員会でのサポートも検討したいと思う。

川上 雄一朗 代議員質問②

現在、県では徐々に認定こども園が増えてきている。こども園に関しては、劣悪な環境で子どもを受け入れていた事件なども発生しており、我々薬剤師としても学校環境を守る一翼として働く立場から、無視できない一例と考えている。中には、学校薬剤師を配置していない園もあると聞いている。沖縄県薬剤師会ではこれからも増えるこども園に対して、状況の把握や対策をどのように検討しているか？

前濱 朋子 副会長答弁

学校薬剤師部会としては、認定こども園の申請の始まった平成26年に、県の認定こども園担当（沖縄県子ども・子育て会議　幼保連携型認定こども園部会）、私学幼稚園担当（総務部　総務私学課）と、本会にて面談している。認定こども園は、文部科学省管轄となることから、学校薬剤師の配置が認定こども園認定の必須条件となる。面談の際に、学校薬剤師の推薦は本会へ依頼をするように、申請に来た園に伝えるようお願いしている。またその際、私立幼稚園の担当者には、学校薬剤師が配置されていない現状を話し、学校薬剤師配置促進への協力依頼をしている。現在、こども園、私学幼稚園共に、県薬へ配置依頼があり、部会から学校薬剤師を推薦している。園の関係者から薬剤師に直接依頼がある場合でも、学校薬剤師活動の内容については県薬や学校薬剤師部会に問い合わせが来る。いずれの場合も、最終的には、部会で薬剤師の推薦や活動内容の説明をしており、認定こども園への学校薬剤師の配置については部会で把握できているものと考えている。今後も、県、市町村の担当部署、他関連団体と連携し、学校薬剤師の配置も含め、学校薬剤師活動を適正に行い、園の環境衛生の向上を目指し、部会で取り組んでいきたいと考えている。

川上 雄一朗 代議員質問③

健康サポート薬局の制度ができて一年となる。要件を満たし、健康サポート薬局となる薬局も出てきているが、未だ、健康サポート薬局に関しては要件の敷居の高さを感じている。今後、沖

縄県薬剤師会として、健康サポート薬局が増えていくような対策は検討されているか？

笠原 大吾 理事答弁

現在、沖縄県内の2薬局が健康サポート薬局を取得している。ご存知のように、国は全ての調剤薬局をかかりつけ薬局に、昨年の日本薬剤師会の定時総会の代表質問ではその中のおよそ25%が健康サポート薬局の当面の目標数として掲げられている。それを沖縄県に当てはめて、当面100薬局の健康サポート薬局を目指そうと考えている。これは、“ひとり薬剤師”の多い沖縄県では、かなりハードルの高い目標であると思う。しかし、利用者の利益のために、またそれを目指す会員のために、あえてこの目標を掲げ、それを満たす努力を惜しまないつもりでいる。まずは、本会の医薬分業対策委員会でいろいろな具体的な方策を打ち出していく。会員が、健康サポート薬局を目指すための障壁となっている部分はいろいろとあるかと思うが、そこに着目し、その解決を図るような手だてをすることは当然である。しかし、健康サポート薬局となった場合、そこに勤務する薬剤師の意識が変わることも必要かと思うので、そのためのカリキュラムも同時進行で行うつもりである。具体的には、①健康サポート薬局の届け出の要件を満たす手続きについての援助、②かかりつけ薬剤師として必要と思われるコンテンツの提供、③地域連携、多職種連携づくりを促進する方策についてなどの研修会、勉強会を企画・運営することを考えている。

北部地区薬剤師会

玉城　純 代議員質問①

総会資料が当地区に届いてから質問用紙の提出期日まで9日しかない。地区理事会に諮る事や、充分に当該資料を確認し代表質問を作成する事が困難であるため、もっと早い段階での決算報告作成及び配付をお願いしたい。

前濱 朋子 副会長答弁

総会資料の発送については、5月13日の理事会で承認を得て17日には各地区、各代議員に資料を発送している。これより早く発送することは難しいと考えており、その対応策として、各地区において事前にスケジュールを組んでもらえるように4月の理事会で資料の発送日、代表質問の締切日を提示している。参考までに、総会当日は、例年通り一般質問の時間も設けている。

玉城　純 代議員質問②

決算報告書について、法人全体の合算となっているので、事業毎の損益の詳細が分かり難い。次年度は合算決算書と他に収益事業部の事業区分毎に分けて内訳を開示していただきたい。

山里　勇 常務理事答弁

一般社団法人となってから､収益事業部の会計は実施事業等会計（公益）とその他会計（共益）に区分され、一般会計は法人会計として表わすことになった。その頃の決算報告書は事業区分毎に分けた資料だったが、細かく見づらい資料であったことから大変分かりにくかったと思う。そのため、実施事業等会計、その他会計、法人会計の合算で報告を行ってきた。各会計の資料は本会事務局にて閲覧することができるので確認いただきたい。なお、収益事業部の事業区分毎の内容は、理事会資料で報告を行っているので了承いただきたい。

宮古地区薬剤師会

古謝 真己 代議員質問①

テレビ会議システムにより離島でも学術大会などの研修が受けられるようになったが、会場が看護協会へ移るなどした場合、テレビ会議システムが使えず、離島ではシステムを利用した研修が出来なくなっている。研修認定薬剤師などの資格獲得は調剤報酬にも影響している現在、この状況の改善をして欲しい。また、システムが使えず、本島で研修を受ける場合、旅費の一部を負担するか、研修参加費を免除するなど、離島薬剤師の負担軽減を図って欲しい。

外間 惟夫 副会長答弁

近年、学術大会の参加者が300名を超え、本会館での開催が不可能となっている。テレビ会議システムは会場の電話回線を利用するため、看護協会などの薬剤師会館以外では利用できない。また、本会館でも毎週のように開催される研修会において、その都度テレビ会議システムを使用するのは、LANの調整、事前テストや操作する人の配置などが必要となり困難な状況である。現在、本会の担当職員が新システムの導入を模索しているところだが、要望があれば研修会の録画データの提供もしており、これを視聴することで単位取得も可能であり、できるだけそのような方法で単位取得していただきたい。また、離島から本島に来て受講する際の参加費免除については、本会主催の研修会の殆どが会員は無料となっていることをご理解頂きたい。

古謝 真己 代議員質問②

研修会の曜日を変更して欲しい。本島での研修会は平日に開催される事が多く、離島からは容易に参加することができずにいる。研修開催日を土日などに設定して欲しい。

外間 惟夫 副会長答弁

現在、本会主催の研修会や講演会の殆どが日曜日に開催されており、平日開催は年間を通して10回もない。平日開催の研修会も日曜日に開催したいところだが、予定を入れたくても既に日曜日に本会館の空きが無い場合が多く、そこで比較的、医療機関が休診日となっている木曜日の夜に開催しているのが現状である。ご要望にあるように、土日開催とすることで離島からの参加が多くなるのであれば、土曜日は比較的、会場の空きがあることから、なるべく土曜日に開催することを今後検討したい。

古謝 真己 代議員質問③

沖縄県薬剤師会、日本薬剤師会がクレジットカード会社と交渉してカード加盟手数料の低料金化を図って欲しい。患者さんからカード支払いを希望される事が増えている。特に、高額の薬剤に関しての場合が多い。しかし、薬剤料が増えても調剤フィーはそう増えない。4%～5%の手数料をカード会社に支払っていては薬局が赤字になる場合がある。

江夏 京子 副会長答弁

平成28年4月27日付FAX一斉同報にて、本会が各薬局のクレジットカード導入を斡旋することで手数料が安くなる目的としたアンケート調査を行った。26薬局が導入を希望し、クレジットカード会社に紹介した経緯もある。再度検討していきたいと思う。

古謝 真己 代議員質問④

学校薬剤師部会の県薬における予算状況を教えて欲しい。

前濱 朋子 副会長答弁

学校薬剤師部会の予算は、①試験検査センター協力金30万、②本会補助金100万円、③部会費1名3,000円の3本立てになっている。それぞれの用途は、①試験検査センター協力金は、学校環境衛生に関する研修会派遣の旅費の補助、学校環境衛生に関する機器の購入及び機器の検定料、学校環境衛生に関する通信・印刷費等に使用。②本会補助金は、日本薬剤師会学術大会、九州山口薬学大会での学校薬剤師担当者会議の旅費、学校保健に関する研修会派遣の旅費の補助、部会で開催の研修会等に掛かる費用、他、通信・印刷費、くすり教育に関する資材の購入等に使用。③部会費は、学校薬剤師部会支部活動費および予備費として使用している。

中部地区薬剤師会

江夏 恭範 代議員質問①

学校薬剤師会の試薬等の廃棄処理代金が約200万円計上されていると、学校薬剤師部会より聞いているが、沖縄県薬剤師会では負担できないという理由を教えてほしい。今の沖縄県薬剤師会全体で対応を検討してはいかがか？　薬剤の特性より早急に対策をとる必要があるのではないか？

亀谷 浩昌 会長答弁

廃棄処理をする試薬は学校薬剤部会が現在の部会として県薬に統合される以前に蓄積されたものである。本会が那覇市国場から現在の南風原町新川に引越しする時に一緒に持ってきたものである。事業主体が別々の頃に、この問題の芽が生まれていたのである。本会に試験検査センターができて、個々の先生方が検査試薬を使用する必要が無くなった時点で、試薬を学校に返却したり廃棄したりしていれば、この廃棄処理代金問題は発生しなかったであろう。また、学校薬剤師会から県薬の部会に組織が変わった時に、会の資産は県薬に入らず、そのまま部会へと引き継がれている。廃棄処理薬品は学校薬剤師会の負の遺産とも言える。別組織だった頃に起こった問題の解決に、非学校薬剤師部会会員もいる本会の負担で行うことは適切でないと考えている。責任の主体は旧学校薬剤師会である。従って、学校薬剤師会を引き継いだ学校薬剤師部会で責任を持って解決していただきたいと思う。廃棄処理代金の一時的な建て替え等、廃棄処理資金の捻出についての相談には本会も協力する。

江夏 恭範 代議員質問②

現在、新聞等に沖縄県では若年層の自殺率が高くなっているとの記載があり、特に中高生の自殺率が高く、国では、かかりつけ薬剤師に、より顔のみえる地域医療をうたっているが、今後、沖縄県薬剤師会として若年層向け（20代以下）の自殺予防対策のために、薬剤師がゲートキーパーとして沖縄県に提案していく予定はあるのか？

村田 美智子 常務理事答弁

質問の主旨が、若年者（20代以下）の自殺に対する予防対策を、沖縄県に対して提案する予定があるかということであれば、提案の予定はない。平成29年度における本会のゲートキーパーとしての活動ならば、学校薬剤師部会と連携して若年者の自殺予防に取り組む方針である。例えば、学校薬剤師が行う薬の正しい使い方やアルコール・ドラッグに警鐘を鳴らす講話に、命の大切さを織り込むなどの活動を考えている。この取り組みは、以前から中長期的活動として学校薬剤師部会とも話し合ってきたことではあったが、なかなか取り組めないできた。今年度は短期的活動として取り組みたい。参考資料として、沖縄県が沖縄県医師会と共同で編集し2015年に発行した

“こころのタネ”という青少年向けの小冊子がある。両者の了解を得て、本会ホームページにも掲載し、自由にダウンロードできるようにする。今後これも有効に活用していきたい。

江夏 恭範 代議員質問③

沖縄県薬剤師会で長年会員として活躍してきた諸先輩方が、現役を引退し退会した後、収入が無い中、非会員として沖縄県薬剤師会主催の勉強会や講演会に参加する際に、参加費1万円の負担は大きいと思う。会報の提供は無くてもいいので、長年加入していた方のための新たな会員・会費規定等を設ける事はできないか？

宮城 敦子 常務理事答弁

対象者については、会員歴等を考慮して検討していきたいと思う。

那覇地区薬剤師会

平良 博文 代議員質問①

沖縄県病院薬剤師会と沖縄県薬剤師会の統合について、昨年、「会費種別を増設し、病院薬剤師会員の支払う会費を新たに設定する案を検討中である」とのことだったが、その後どのような方向性で進んでいるのか、教えていただきたい。

亀谷 浩昌 会長答弁

本会と病院薬剤師会の組織的統合で行くのか、それとも単純に病院薬剤師の本会への大量入会という形で進めるのか、これについては病院薬剤師会の意向もあるかと思うので話し合って決める。両組織の統合、非統合の違いを別にして、病院薬剤師会員が加入している薬剤師会は、京都、山口、兵庫の3薬剤師会である。これらの組織から聴取した、大量加入を進める上で大きな問題となったのは、会費額の設定をどうするかという点である。私も現実的に病院薬剤師会員が全員に近い数での本会入会をなすための一番大きな問題は会費額であると認識している。現在、病院薬剤師会の会費は10,000円、本会のB会費は39,400円であり、その差は相当大きいと思う。病院薬剤師会員向けの新会費額設定の手順を次に示す。①本会で新たな病院薬剤師の会費額を検討する。②病院薬剤師会に本会案を提示し、病院薬剤師会の考える会費案と擦り合わせをする。③本会の理事会で新会費案の承認をいただく。⑤本会一般会員の理解を得る。⑥新会費案を次回の本会総会で承認していただく。現在の統合案件の進捗状況は、①が済んだ段階だが、もう少し検討を加える必要があると考えている。この問題は組織強化だけではなく、薬剤師全体の職能の向上にも影響する大きな問題と認識している。行動を早めて次の定期総会で承認を得られるよう進めて行く。

平良 博文 代議員質問②

会員を増やす手段の一つとして、非会員から研修会参加費を1万円徴収しているが、実際に会員は増えているのか、現状を教えていただきたい。

外間 惟夫 副会長答弁

本会が開催する研修会への参加について、非会員から参加費1万円を徴収することを理事会にて決定して以来、研修会参加案内に非会員参加費1万円の記載をしてきた。非会員から参加申込が届いた際に､各研修会の担当事務員から入会を促している。この呼び掛けで入会する方もいる。平成27年度まで平行線をたどり伸び悩んでいた入会数が、平成28年度は大幅に増えた。かかりつけ薬剤師の要件に認定取得や地域貢献があるため、単純に会費徴収の効果とは言えないが、平成

27年度入会者数は73人、平成28年度は130人だった。

平良 博文 代議員質問③

会長業務をよりやりやすくするため、事務を動かす専務理事を置かないのか？

亀谷 浩昌 会長答弁

本会の多くの歴代会長が非常勤であったのに対し、私は常勤で会長職を務めている。時間的余裕があり、公的会議への出席や出張、来訪者への対応等、会長職の遂行に大きな問題は無い。有能な事務職員も多数おり、事務職の遂行に関しても大きな問題は無いと思っている。勿論、専務理事としての適任者がおり、配置するコストに見合った効果が予想できるのであれば、その存在は本会にとってプラスである。しかしながら、この人はと言える人材がなかなか見つけられない。専務理事不在の現在、会務の遂行において判断に困る場合は、執行役員や有識な一般会員及び事務職員と相談して取るべき策を決めている。従って、今のところ専務理事不在によって特に困る状況ではない。

平良 博文 代議員質問④

国は、薬剤師の業務内容を服薬指導重視にしていく方針だが、その場合、実務業務についてはテクニシャンに置き換わる可能性も出てくる。このような国の方針を薬剤師会としてどう考えるのか？

江夏 京子 副会長答弁

近年では、在宅医療への参入、健康サポート薬局など、薬剤師の仕事、薬局の役割、職域は広がってきており、薬剤師不足は特に薬学部のない我が県に於いては深刻な問題になっている。わが国においてもテクニシャン制度を導入することで、薬剤師はピッキングなどの単純業務から解放され、薬学的専門知識を要する業務に専念することができるようになるという議論は以前からあり、また、薬剤師以外の人間が狭義の調剤を行うわけであるから、狭義の調剤に関する調剤報酬（調剤料、自家製剤加算、計量混合加算など）を大幅に引き下げることも可能になり、医療費削減にも役立つのではないかとの考えが厚労省の中でも検討されているようである。しかし今は、薬剤師不足が深刻な問題になっているが、いずれ薬剤師の過剰時代がくることは確かであり、その雇用がどうなるのか不安である。日本薬剤師会としては、薬剤師業務全般において、薬剤師がリスク管理をしなくてはならないこと、処方箋を応需し、調製し、服薬指導を行い、患者に薬剤を交付し、処方箋や調剤録に記載すべき内容を記入するまでの一連の行為を調剤と捉え、薬剤師が実施すべき行為であると認識している。国民への適切な薬物療法の提供のためにも、日本薬剤師会としてはテクニシャンの制度は考えてないとの見解であり、本会としても同じ見解である。

＜一般関連質問＞

最初に、地区代表質問の時間内にできなかった質問、回答を行った。

宮古地区薬剤師会

古謝 真己 代議員質問⑤

昨年、「災害時の電力復旧の優先に調剤薬局も入れて欲しい」と代表質問したが、その後の状況はどうなっているか？

吉田 洋史 理事答弁

昨年､｢災害時の電力復旧の優先に調剤薬局も入れて欲しい｣との質問を預かっている。その後、自民党沖縄県支部の一日政調会において要望を提出した。同支部からの回答は、優先とされている病院については全てではなく、特定の病院が対象になっており、その電力回路が同一の場合は薬局も対象となっているとのことだが、必ずしも電力回路が同一になってはいないのが現状であり、行政に相談してほしいとのことだった。そこで、県の衛生薬務課に話すと同時に、防災危機管理課に現状を訴え、調剤薬局を優先とするための方策を求めている状況である。

那覇地区薬剤師会

平良 博文 代議員質問⑤

四半期、半期の決算が出た後の節税対策は、どのようにされているのか？

山里　勇 常務理事答弁

収益が見込める場合は、職員の特別賞与支給や設備投資等を税理士と相談している。

次に、議長が代議員へ一般質問を求めた。

小湾 勝敏 代議員（糸満支部）質問

豊見城中央病院移転に伴う会営薬局とよみの移転検討などの進捗状況が知りたい。また、会営薬局うえはらの収益が収入減となっていると聞いたが、現状と具体的な改善策があるのか知りたい。

亀谷 浩昌 会長答弁

本会では会営薬局移転検討委員会を立ち上げ、移転するかどうかを含めて検討している段階である。豊見城中央病院の移転先では既に建築工事が始まっているが、種々の障害が起きて工期が後ろにずれ込んできており、薬局の移転先等についても未だ具体案が示されていないため、具体的な進展が無いのが現状である。

山里　勇 常務理事答弁

会営薬局うえはらの平成28年度と平成27年度の収益を比較してみると、大きな要因として調剤報酬改定による収入減が上げられる。また昨年度は、常勤薬剤師補充のために新卒薬剤師2名を採用して人件費が増えたが、今年度は中堅1名が退職している。その他、処方箋受付回数が減ったことも要因している。

仲真 良重 会営薬局うえはら薬局長答弁

多くの薬局が調剤基本料1であるのに対し、会営薬局うえはらの処方箋集中率の90パーセント以上が琉球大学医学部附属病院であることから調剤基本料2となっている。また、後発医薬品の調剤数量割合がわずかに65パーセント以下になっているので、65パーセント以上になるように、現在、職員で取り組んでいるところである。

熟年の集い

第10回熟年の集い

日時：平成29年8月27日（日）12:00 ～ 15:00
会場：ダブルツリー by ヒルトン那覇首里

広報委員会
座覇 里奈

今年も8月に熟年の集いが開催された。

亀谷会長の挨拶で開会し、これまで当会を牽引し貢献されてこられた先輩方の御冥福をお祈りした後、ご都合により出席できなかった代表の金城保景先生の代わりに新垣正次先生から挨拶をいただいた。泰然とした佇まいで御挨拶をされるお姿はとても印象的で、会場の参加者全員が強く感銘を受けたのではないだろうか。

カリー音頭は崎山信子先生に取って頂き、その人柄も相まって会場内が一気に明るい雰囲気に満たされた。

宮城初枝先生からいただいた御挨拶では、これまでの思い出を懐かしげに振り返り、出席された方々も共に思い出を共有されている光景が印象的であった。

“橋の下”先生でお馴染みの、神山朝喜先生による「一包一話」集のお披露目会も行われた。会報誌で45年間に亘り、多岐にわたる題材で長期連載をされてこられた話集が一冊の本になったことは、先生のファンには喜ばしい限りである。

会員余興の際には、自他ともに認める“笑売人”である、山内昌彦先生によるユーモア溢れるクイズ大会が行われた。正解者には栄養ドリンクの特典付きで、多いに盛り上げて頂いた。

今回は、特別ゲストとして比嘉光龍（ふぁーじゃぱいろん）さんをお招きし、方言での快活な談義を交えつつ、「かぎやで風」「唐船ドーイ」等の演奏をして頂いた。その中でもかぎやで風の演奏の際には、突然のオファーにも関わらず、宮城初枝先生・江夏京子先生・池間記世先生が見事な舞踊を披露し、光龍さんの三線に合わせて亀谷会長がパーランクー、太田節子先生と神山朝喜先生がサンバ（三板）で華を添えていた。このスペシャルコラボには、ひときわ会場内が沸き立ち、感じ入るものがあった。

閉会の言葉では、青年薬剤師会の副部会長である西川裕先生から、方言を交えての素晴らしいお言葉をいただき幕を閉じた。

今回、私は広報委員として初めての参加であったが、薬剤師会の基盤・歴史を再確認できる貴重な体験となった。来年は、今年以上に参加者が増えることを切望し、今後もサポート出来ればと思う所存である。

開会のことば
亀谷 浩昌 会長

代表あいさつ
新垣 正次 氏
（金城保景氏代理）

カリー音頭
崎山 信子 氏

熟年の集いの思いを語る
宮城 初枝 氏

閉会のことば
西川　裕
青年部会副部会長

司　会
伊差川 サヤカ
広報委員

＜式次第＞　　司会　広報委員会　伊差川　サヤカ

開会のことば　　沖縄県薬剤師会 会長　亀　谷　浩　昌

熟年の集い 代表あいさつ　　金　城　保　景（代理　新　垣　正　次）

カリー音頭　　なかのはし薬局　崎　山　信　子

懇　　談　　ランチタイム　～ ゆんたくタイム ～

○出席者紹介

○「薬剤師会」と「熟年の集い」あゆみ

○熟年の集いの思い　　医療法人 愛和会　宮　城　初　枝

○広報委員会からのお知らせ

○一包一話集の出版発表　　がんじゅう薬局　新　垣　正　次

橋の下 てらす薬局　神　山　朝　喜

○会員余興　　やまびこ薬局　山　内　昌　彦

◇◇◇　特別余興　◇◇◇　　比（ふぃー）　嘉（じゃ）　光（ばい）　龍（ろん）

閉会のことば　　沖縄県薬剤師会常務理事・青年部副部会長　西　川　　裕

記 念 撮 影

第10回熟年の集い記念撮影

◆出席熟年会員（敬称略・五十音順）

○安里美代子	○新垣　正次	○池間　記世	○池間　　正	○上原　正徳
○太田　節子	○神里よし子	○神山　朝喜	○小波蔵智恵子	○崎山　信子
○新城　右祥	○渡嘉敷　見	○渡久山京子	○永迫　洋子	○長嶺　義仁
○長嶺　義一	○浜元　朝孝	○比嘉　真三	○普天間公子	○眞榮城紀美子
○宮城　初枝	○宮里　晄子	○山内　昌彦	○吉田　久子	○義元　愛倶

薬剤師会では、昔の懐かしい写真や資料のご提供をお待ちしております。ご協力お願い致します。
（連絡先：沖縄県薬剤師会事務局　大城 喜仁）

第10回 熟年の集いスナップ写真

今年もユーモアたっぷりな
謎かけクイズを披露　山内昌彦氏

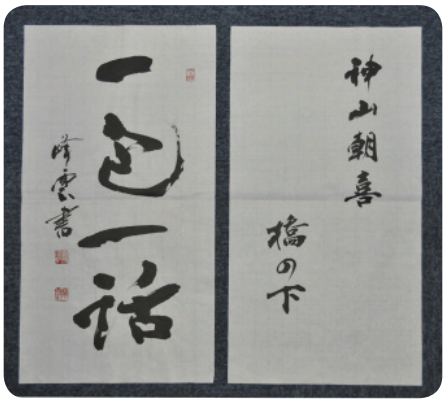
第10回 熟年の集いスナップ写真

特別ゲストの比嘉光龍氏が登場

「かぎやで風」突然のオファーにも江夏副会長、宮城初枝氏、池間記世氏が対応

比嘉光龍氏のリードで泊阿嘉（とぅまいあーかー）を斉唱

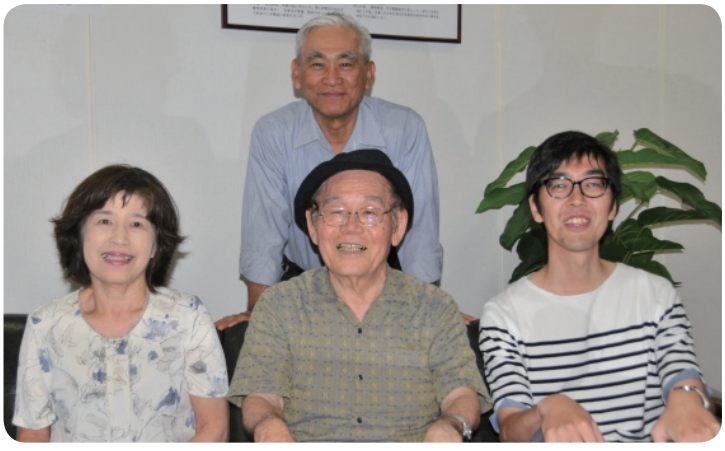
比嘉光龍氏の演奏にのせて最後はカチャーシーで盛り上がった



一包一話集の題字等を書家の豊平峰雲氏に依頼

神山朝喜氏（橋の下）、豊平峰雲氏、新垣正次氏

一包一話集の表紙
イラストは神山侑子氏（神山朝喜氏の娘）の作品



企画・校正に携わった亀谷会長、池間記世氏（左）、鈴木一徳氏（右）

医療保険

平成29年度調剤報酬請求業務講習会報告

日時：平成29年8月13日（日）第1部 11:00 ～ 12:35・第2部 13:30 ～ 15:05
会場：浦添市てだこホール

＜式次第＞

1. 沖縄県薬剤師会会長挨拶	会　長　亀谷　浩昌
2. 平成28年度個別指導・共同指導における指摘事項について	医療保険担当理事　川満　直紀
3. 調剤報酬請求業務について	医療保険委員会 委員長　仲真　良重
4. 閉会の辞	医療保険委員会 副委員長　吉田　洋史

司会　医療保険委員会　照屋林一郎

去る8月13日に「平成29年度調剤報酬請求業務講習会」が行われました。昨年度調剤報酬改定が行われ一年が経過、そして昨年度は沖縄県にて厚労省による共同指導が行われました。薬局バッシングもあるなか、大手チェーン薬局による処方箋の一部付替えによる不正請求が発覚しました。国民の信頼を損なうような不適切な行為はあってはならないものです。私たち薬剤師はこれまで以上に責任と自覚を持ち、かかりつけ薬剤師・薬局の機能に加えて、国民の健康維持増進を支援する健康サポート薬局として国民から信頼されるように努めなければなりません。

さて、今回の講習会では①処方箋の取り扱い、②調剤料について、③調剤料加算について、④薬学管理料についての4つの項目について仲真先生よりお話がありました。

医療保険委員会
宮城 幸枝

処方箋の取り扱いでは、薬剤師会からの一斉同報でもありましたように、期限切れ処方箋での疑義照会について医師からのクレームがあったことも報告がありました。日常業務の中で、処方箋の適正な取り扱い、適正な疑義照会、自費扱い処方や時間外加算など、改めて確認してみましょう。

調剤料については、これまでの解釈と異なる部分があります。例えば「デパケン錠」と「デパケンR錠」は同一成分だが、普通錠と長時間持続型で、製剤が異なるので別剤として考える、また、「リスパダール錠」とリスパ

亀谷 浩昌　会長挨拶

司会　照屋 林一郎氏

閉会の辞　吉田 洋史氏

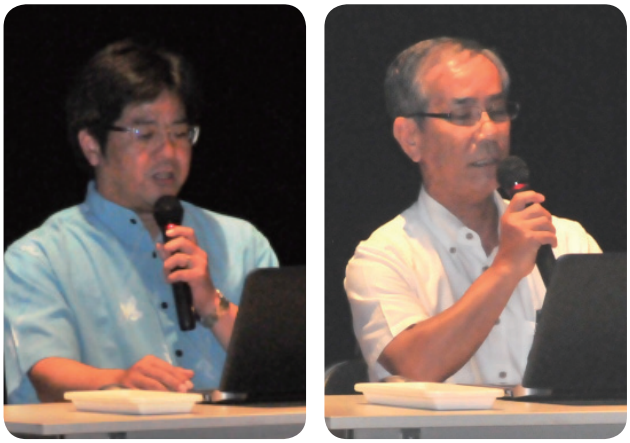
ダールOD錠は同一成分・別剤形だが、それぞれの調剤料を算定するには摘要欄に医療上の必要性のコメントがなければ算定不可となるなど、混乱して誤った算定にならないよう、頭の中を整理する必要があります。

計量混合加算では、濃度を変更するなどの目的で、2種類以上の薬剤の比率を変えて混合した処方が複数ある場合は、それぞれの処方を別調剤として取扱いができること、嚥下困難者用製剤加算の算定については、「粉砕した時の散剤の剤形が薬価基準にあれば算定できない」というように解釈が変わりました。同加算算定時には自家製剤加算と同様に薬価基準に収載されているか否かを確認する必要があります。

薬学管理料については、調剤基本料1を算定している場合は、薬D（お薬手帳忘れ）で複数回乳幼児服薬指導加算は算定できないので注意が必要です。もう一つ注意が必要な事例として、結核患者の公費負担医療においては、薬学管理料は公費に含まれていないこと、薬剤が公費で認められる範囲は規定されていることにも気をつけておく必要があります。

川満先生からは昨年度実施された「個別指導・共同指導における指摘事項」についての報告がありました。指摘事項では、処方内容に関する薬学的確認事については、添付文書に記載のない使用についてはきちんと医師への疑義照会を行っていくことを再認識しました。また、掲示物の不備などがないか、電子薬歴のパスワード8桁および2カ月に1回の更新等は推奨となっていますので、それぞれの薬局で再点検を行ってはいかがでしょうか。

今回の講習会で学んだことをそれぞれの薬局で確認し、適正な請求業務が行えるよう努めていきたいと思います。講師の先生方に感謝申し上げます。



＜講師陣＞

川満 直紀氏(左)　仲真 良重氏(右)

学術研修

平成29年度 新任・新人薬剤師研修会 報告

会期：平成29年7月16日（日）
会場：沖縄県立南部医療センター・こども医療センター薬局（施設見学）12:00 ～ 12:45
　　沖縄県薬剤師会館 ホール（研修会）13:00 ～ 16:50
共催：沖縄県薬剤師会・沖縄県病院薬剤師会

学術研修委員会
名嘉 紀勝

平成29年度新任・新人薬剤師研修会は、去る7月16日に沖縄県薬剤師会館ホールで開催された。参加者は、薬局15名、病院39名、薬学生11名、その他1名の計66名と多くの参加があった。講義前に自由参加で沖縄県立南部医療センター・こども医療センター薬局の施設見学が行なわれ、16名の参加があり、同病院薬局の照喜名重裕薬局長と津波美奈子主任に対応いただいた。

研修会は、学術研修委員会の名嘉紀勝委員のもとに進行し、亀谷会長と病院薬剤師会の中村克徳会長から新任・新人薬剤師に対する期待と自己研鑽継続の重要性などのお話をいただいた。

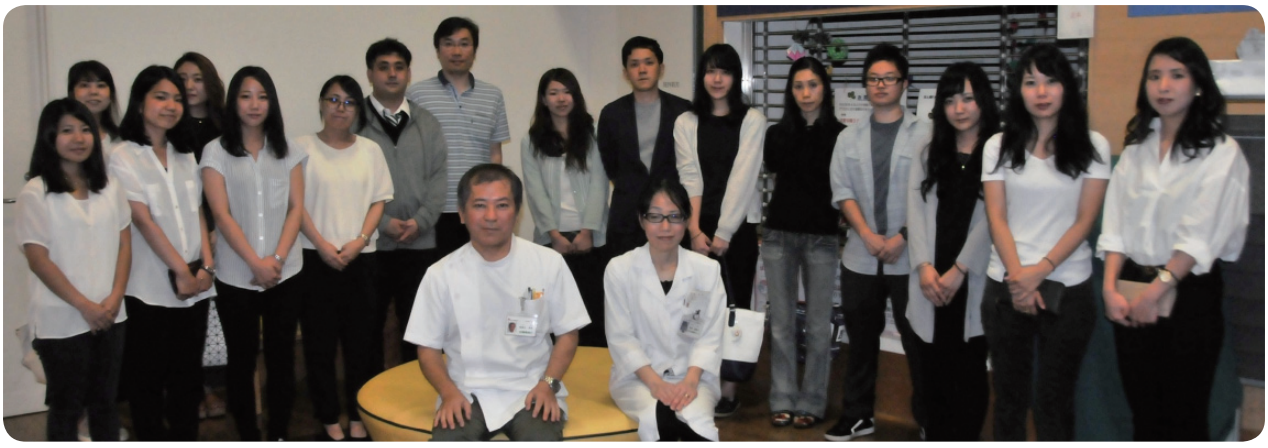
最初の「医薬品情報業務について」は、沖縄県立中部病院の伊波寛史氏が担当され、病院でのDI業務紹介からはじまり、情報検索の基本、検索サイト紹介、問い合せの内容や事例Q&Aなど多岐にわたる有益な講義であった。

「薬歴の書き方について」は昨年に続き、浦添総合病院の浜元善仁氏が担当された。薬歴未記載問題からなぜ薬歴が必要か、目的は何か、薬歴はより良い薬物治療を提供するツールであること、そして実例では SOAP記載の具体例を示しながらの講義であった。

「疑義照会について」は、今回から取り入れた講義で、琉球大学医学部附属病院の潮平英郎氏にご担当いただき、病院だけでなく薬局勤務薬剤師にも必要なことを失敗談や症例提示を例に進めた。また、参加者と短いロールプレイングを混ぜながら医師との電話対応例を行うなど分かり易いながらも、疑義紹介の重要性を伝えた。

後半は、学校薬剤師部会の新垣紀子氏から「学校薬剤師部会」について、青年薬剤師部会紹介では青年薬剤師部会の上原卓朗部会長から、最後に女性薬剤師部会の村田美智子部会長から部会活動について紹介いただき、無事閉会となった。

今年の研修会も1 ～ 3年目の新人薬剤師や薬学生の参加が多く見受けられたが、講師やテーマを工夫することにより連続聴講しても実りのある研修会となるよう、今後も努力したい。本研修会が、今回参加いただいた新任・新人薬剤師と薬学生の今後の活躍の一助となれば幸いである。



沖縄県立南部医療センター・こども医療センター薬局見学
照喜名重裕薬局長と津波美奈子主任と記念撮影

＜プログラム＞	司会　学術研修委員会　名嘉　紀勝
1. あいさつ	沖縄県病院薬剤師会　会長　中村　克徳
	沖縄県薬剤師会　会長　亀谷　浩昌
2. 医薬品情報業務について	沖縄県立中部病院　伊波　寛史
3. 薬歴の書き方ついて	社会医療法人　仁愛会　浦添総合病院　浜元　善仁
4. 疑義照会について	琉球大学医学部附属病院　潮平　英郎
5. 学校薬剤師部会紹介	学校薬剤師部会　新垣　紀子
6. 青年薬剤師部会紹介	青年薬剤師部会　部会長　上原　卓朗
7. 女性薬剤師部会紹介	女性薬剤師部会　部会長　村田美智子

＜講師陣＞

医薬品情報業務　伊波 寛史氏

薬歴の書き方　浜元 善仁氏

疑義照会　潮平 英郎氏

＜部会紹介＞

学薬部会紹介
新垣 紀子氏

青年部紹介
上原 卓朗氏

女性薬部会紹介
村田 美智子氏

会長挨拶
亀谷 浩昌氏

病薬会長挨拶
中村 克徳氏

司　会
名嘉 紀勝氏

実務実習

平成29年度 第Ⅰ期薬学生実務実習報告

薬学生実務実習担当理事
我喜屋 美香

平成29年度は1期、2期合わせて35名の実習生を受け入れる体制をとっています。その1期17名の保険薬局での11週間の実習が終了しました。平成22年から開始し8年目になります。実習生17名（9大学：九州保健福祉大学・長崎国際大学・崇城大学・明治薬科大学・神戸学院大学・姫路獨協大学・同志社女子大学・福山大学・徳島文理大学）を実習薬局14薬局（平成28年9月9日～11月23日）指導薬剤師15名で受けました。指導薬局の指導薬剤師をはじめ、同施設・協力施設のみなさま、ありがとうございました。

実習期間中、毎年この時期に開催される「しごとミュージアム」に参加し、高校生と触れ合い(TVニュースでも報道されました)、また、各地区での「ダメ。ゼッタイ。普及運動」にも積極的に参加してくれました。2年後、薬剤師として輝くことを希望します。

実習生の移動は、基本的には公共の交通機関です。薬学生実務実習受入委員会では、できるだけ学生の自宅近に実習環境をおきたくマッチングしておりますが、まだまだ指導薬剤師が少ない地域があり、多くの薬剤師に期待するところです。今年度のWS(ワークショップ）の沖縄枠は6名（7月に3名終了)。対象者は委員会で決定しますので、希望される方は沖縄県薬剤師会事務局までご一報ください。

以下に実習生の感想文と実習薬局、実習協力機関を掲載いたします。紙面をもって御礼に変えさせていただきます。ありがとうございました。

実習薬局（14薬局）　（以下、順不同・敬称略）

○そうごう薬局 新赤十字前店
○つる薬局
○がじまる薬局
○レモン薬局 美里店(2名)
○保険薬局プラネット(2名)
○アシスト薬局(2名)
○すこやか薬局 松島店
○コジャ薬局 東店
○ゆい薬局
○サンキュウファーマシー うむさ店
○たいせい堂薬局 首里店
○あかみち薬局
○こくら虹薬局
○とくりん薬局

協力施設・委員会・団体

○ヴァインドラッグ あがり浜店
○ドラッグイレブン薬局 新都心おもろまち店
○ぼたん薬局
○がじまる薬局
○こくら虹薬局
○薬正堂
○学校薬剤師部会
○すこやか薬局野嵩店
○すこやか薬局具志川店
○まつお虹薬局
○ミドリ薬局美里店
○各地区薬剤師会
○学校薬剤師の先生方
○(株)琉薬
○(株)ダイコー沖縄
○(株)アトル沖縄営業部
○会営薬局医療センター前

実務実習薬学生 平成29年度 第Ⅰ期生からの体験記・感想

九州保健福祉大学5年　津波古　光
（ゆい薬局 実習　指導薬剤師 植木 智子）

5月8日から私はゆい薬局で11週間お世話になりました。大学で学んでいることだけでなく、薬局で薬剤師の仕事について沢山知ることができました。実習を通じて、一番慣れるのに苦労したのは服薬指導でした。普段学校で習った知識を持っても、いざ患者さんを目前にしたら全く話せなくなったり、専門用語を使ってしまって患者さんに伝わらなかったり、自分が思っていたよりもかなり難しいと感じました。また、簡単だと思っていたピッキングでも、先発品と後発品の名前の違いや規格の違い、薬をまとめる時の工夫など、気を緩めた時によくミスを連発してしまいました。自分の気の緩みでいざ患者さんに渡す薬を間違えたら患者さんの命に係わる可能性もあるので薬剤師は常に緊張感を持って仕事に励むように努力しなければいけないことを学びました。

また、学校薬剤師やOTC薬局、等の外部実習を通して薬剤師が地域の人とどんどん関わっていることを知りました。薬局で、かかりつけ薬剤師や在宅医療を見学して、残薬の確認や患者の体調変化や普段の生活からの服薬アドバイスなど、薬剤師が患者に寄り添って薬による治療を行っていることを学びました。また漢方薬局実習では東洋薬は西洋薬とは違う視点で病気を治す考え方もとても興味深かったです。今までは薬について座学でしか勉強していなかったので、いざ現場にでてみると習ったことと全く違う適応で処方が出たり、学校で習わなかった新薬を手に触れることができて、薬の面白さを知ることができました。レセプト業務や保険についても詳しく教えてもらうことで、今の医療保険の仕組みと現状について知ることができました。ゆい薬局はとてもアットホームな薬局で、慣れない環境にいた私に薬剤師さんも事務さんもとても優しく接してくれました。そのおかげで、できないことがどんどんできるようになり、11週間、充実した実習を送ることができました。本当にありがとうございました。

福山大学5年 小橋川　花
（たいせい堂薬局 首里店 実習　指導薬剤師 大塚 成一郎）

最初は薬局に上手く馴染めるか、調剤もちゃんとできるか不安で、2.5ヶ月もの期間を乗り越えることができるかなと思っていたけど、実習前に全体でオリエンテーションがあり、そこで他の実習生と顔合わせして説明もしてもらえたので、最初の方で少し緊張もほぐれ、実習に臨む姿勢が学べたので良かったです。

また、薬局実習以外にも、漢方薬局や在宅医療、ドラッグストア、学校薬剤師、卸見学、夜間救急、薬物乱用防止活動など様々なスケジュールが組まれていて、薬剤師が携わる仕事を見学・体験させていただき、将来を考える参考にもなりとてもためになりました。

そして、薬局実習では、薬剤師さんだけでなく、事務の方やその他の医療関係者、患者さんに親切に接していただいてしっかりと実習に臨むことができ、調剤以外には、周りをみることや患者さんやそれ以外のスタッフさんとの接し方、コミュニケーションの取り方や気遣い、薬剤師としての心構えなどを実践や指導薬剤師さんや現場のスタッフさんの姿勢から学ぶことができ、毎日勉強になり、楽しく充実した日々を送ることができました。

今後は病院実習があるので、薬局で学んだことを存分に活かせるように実習に臨もうと思います。

徳島文理大学5年　國吉 大輝
（こくら虹薬局 実習　指導薬剤師 野村 久子）

5月8日から始まった薬局実習は、気づけばもう11週間が経ちました。最初はかなり長く感じたこの期間も、こくら虹薬局の薬剤師さんや職員さん、他の医療機関の方々からたくさんの知識・技能・心がけを学んでいるうちに、あっという間に過ぎ去ってしまいました。初日にかなり緊張していた私を、温かく迎えていただき、そして丁寧にご指導してくださりありがとうございました。薬剤師見習いとして、大きく成長できた有意義な2か月半でした。

薬局実習では、調剤・鑑査・服薬指導などの主な薬局業務をはじめ、在庫管理や介護施設入居者さんの薬の充填、調剤報酬に関することや薬局製剤など、体感的には、11週間で体験するには物足りないくらいの業務をこなしてきました。またそこでは、調剤過誤が起こらないための工夫や、処方箋から患者情報を読み取ることなど多くのことを学ばせていただきました。時には、処方意図や副作用について抜き打ちで質問されるので、分からない質問はその度、本や添付文書を引っぱってきて調べたりしていました。それによって、必要な情報を素早く見つける能力も鍛えることができました。私は、学校である程度勉強して実習に臨んでいたつもりでしたが、現場でしか学べない知識や実際に患者さまと接してきて「気づくこと」や「感じること」は、教科書や参考書からは学べないことを痛感させられました。

また、医薬品卸売業者さんへの訪問・見学や、学校薬剤師さんの仕事の見学・体験で実際に小学校に行ったり、ＯＴＣを学ぶためにドラッグストアで1日研修したりと、保険薬局の外で薬剤師が関わる仕事も体験してきました。さらに、気軽に健康状態について相談できるイベントであるおくすり相談会や、高校生を対象とした薬剤師がどんな仕事をしているのかを紹介するイベントである「しごとミュージアム」にも参加させていただきました。自分も実際に相談者さんや高校生と接してきました。それにより薬剤師がどのように地域と関わっているのか、地域に貢献できることは何があるのかを学ぶことができました。

この11週間で、薬剤師さんや事務の方々には色々とご迷惑をかけてしまったと思いますが、熱心なご指導のおかげで多くの知識や技能の取得、さらには精神的にも成長できました。この実習で学んだことを今後現場に出る時に、生かしていきたいと思います。長い間、本当にありがとうございました。

福山大学5年　稲福 千子
（つる薬局 実習　指導薬剤師 新垣 紀子）

私は、11週間つる薬局で実習させていただき様々なことを学ぶことができました。大学での服薬指導などのロールプレイでは会話のパターンが決まっていましたが、実際に現場にいるとたくさん答えてくれる方、無口な方、急いでいる方と様々な患者さんがいて、イメージしていた通りにはいかないことの方が多かったです。その患者さんがどういう症状でどうしてその薬が出ているのか、その患者さんが飲んでも安全な薬かどうか、判断するためにはそれぞれの患者さんに合わせたコミュニケーションが大切だと感じました。

また、薬局内の実習だけではなく漢方・薬局製剤、OTC、卸見学、在宅・施設見学、学校薬剤師の業務への同行や仕事ミュージアムへの参加など外部での実習もたくさんさせていただき充実した11週間の実習になりました。途中、体調を崩した時期もありましたが無事11週で実習終えることができたのは、薬局の先生方のおかげです。本当にありがとうございました。これから国試も控えていますが実習で学んだことを生かして頑張りたいと思います。

神戸学院大学5年　新里 征四郎
（レモン薬局 美里店 実習　指導薬剤師 谷澤 大輔）

薬局実習が始まる前は11週間の薬局での実習は長いなと思ったが、実際に体験してみるとあっという間でもう終わりなのかと感じました。最初はどういう実習先なんだろうかと思ったが、薬剤師の先生方や事務さんが優しく丁寧に教えてくれたことが何よりも嬉しかったです。薬局業務では学校で習ってきたことと実際に現場にでて体験することが違うこともあり、実習でしか味わえないことも多くあったと感じました。調剤薬局業務だけでなく、在宅医療や学校薬剤師、OTC販売、医薬品卸売業務など様々なことを体験できてとても有意義だった。

レモン薬局美里店では近くに皮膚科や内科の病院があるので、皮膚科や内科の治療で使われる薬の調剤や服薬指導を行った。調剤ではたくさんの薬の種類の中から薬剤名、規格、剤形に注意して確実にその薬を取ることや外用薬の混合の技術、患者さんのコンプライアンスを考えた一包化、粉砕などを行いそれぞれの重要性や意味合いなどを教わった。服薬指導では、服薬指導くらい簡単にできるだろうと思っていたが患者さんを目の前にすると知識不足や適切な言葉選びができないなど至らないこともあり全然太刀打ちができなかった。改善するために指導薬剤師からのアドバイスや意見交換などをしてもらうことで今の自分には何が必要なのかということを教えてもらいそれを改善することで服薬指導がよりスムーズにいくことが肌で感じることができた。中でも服薬指導では処方箋をみて患者さんはどういう症状なのだろうか？処方箋に記載されている薬は何の薬なのかという処方解析を行い、電子薬歴も照らし合わせながら個々の患者さんに合った質問や配慮をしてちゃんと薬を使っていただくために服薬指導をしていくことが大事だということを忘れずに患者さんと接していきたいと感じた。

今回、実習先として受け入れてもらいお世話になったレモン薬局美里店の指導薬剤師、薬剤師や事務さんをはじめ美原店、糸満店の薬剤師の皆さんと事務さんには様々なことを教えて頂き感謝しています。本当にありがとうございました。

福山大学5年　小槻 真子
（サンキュウファーマシーうむさ店 実習　指導薬剤師 西坂　順）

今回2か月半にわたり薬局実習をさせていただき、大学では学ぶことのできないたくさんのことを経験させていただきました。実習を通して、薬の知識はもちろんですが、患者さんが抱えている症状がどのような症状で、薬によってどう改善し、副作用が起こるとどのような症状が現れるのかといった病態や副作用による症状についての知識も必要だと感じました。また、薬局では患者情報が少ないため、より良い薬物治療を行うために服薬指導の中で患者さんが話したい・聞いてほしいと思うようなコミュニケーションをとることの大切さを学びました。

外部実習では､医薬品卸やドラックストア・在宅医療などの見学も行い、学校薬剤師ではプール・飲料水の水質検査や学校保健委員会に同行させていただきました。また、実際に薬物乱用防止教室で1クラス講義をするとう貴重な体験までさせていただき、子供たちの健康を守るのも薬剤師として重要な役割だということを実感しました。

実習の中で薬局内での薬剤師の役割はもちろん、地域などの薬局以外での薬剤師としての役割や活動もたくさん学ぶことができ、11週間という実習期間で、薬局の薬剤師の先生方や事務の皆さんだけでなく、学校の先生方など多くの方々にお世話になり、とても充実した実習をすることができました。今回学んだことを活かして病院実習でも多くのことを学び吸収したいと思います。有難うございました。

神戸学院大学5年　伊波 礼菜
（保険薬局プラネット 実習　指導薬剤師 仲宗根 健太）

5月8日から薬局の実務実習が始まりました。この11週間は今までの大学生活のなかでも最も濃く、本当にいろんなことを経験できたあっという間の11週間でした。実際に現場に立って患者さんと接するのははじめてなので、服薬指導がちゃんとできるのかが1番不安でした。最初は緊張や不安でいっぱいでしたが､薬剤師の先輩方の服薬指導を見て学び、指導薬剤師の先生のアドバイスなどを聞いて、だんだん服薬指導での大切なことなどをきちんと理解していくことができました。服薬指導を通して、コミュニケーションの大切さも十分に理解しましたが、自分の薬に対する勉強不足についても強く感じ、もっと頑張ろうと思いました。また、調剤に関しても小児の薬用量や一包化のときに注意すべき点など、毎回意識して確認しながらすることの重要さについても学びました。

また、薬局だけではなく、外部実習や勉強会にもたくさん参加させていただきました。他の大学の実習生の子たちとも交流もすることができました。学校薬剤師や在宅訪問では、実際に行ってみてわかることや感じることがたくさんあり、また、いろんなことを考えさせられる貴重な経験になりました。仕事ミュージアムでは、高校生に対して薬剤師についての説明を行いました。薬剤師になるまでの経緯や、大学を卒業してからの進路、薬剤師として働くことのやりがいなどを高校生に説明していると、自分の薬剤師に対するモチベーションについても再確認することができました。たくさんの外部実習を経験させてくれた我喜屋さんにはとても感謝しています。

プラネット薬局では、薬剤師の皆さんも事務の皆さんも話しやすく、とても過ごしやすい雰囲気で毎日実習を行うことができました。指導薬剤師の仲宗根さんは薬局の業務だけではなく、薬剤師に関連する様々な資料や情報なども教えてくれて、毎日たくさんのことを学ぶことができました。この11週間で学べたことを活かし、自分の思い描いている理想の薬剤師像に近づけるようにこれからも努力していこうと思います。

九州保健福祉大学5年　亀川 美鈴
（そうごう薬局 新赤十字前店 実習　指導薬剤師 西川　裕）

薬局実習では、保険薬局の仕事内容や地域での役割について学ぶことができました。中でも印象に残っているのは､調剤の技術は｢正確性」と「スピード」が大切であるということです。さらに、患者さんが気持ちよく使える状態でお渡しすることも大切であると感じました。気持ちよく使っていただくこと以外にも、品質も保つなどの意味のあることであり、大切なことだと感じました。投薬では、まず指導のゴールを考えることが大事であるということを学びました。患者さんにきちんと服薬してもらうためにどのような指導をしたらよいかを決めるためもゴールを設定し、目的をもって質問することで、適切な指導を行うことが出来ます。さらに、目的をはっきりさせておくことで、患者さんにどうしてそんなことを聞くかと言われた際にもきちんと対応できるため、患者さんを不安にさせないということを教わりました。外部実習では、ドラックストアでのOTC実習や卸会社の見学にも参加させていただき、薬剤師は様々な場所で活躍しているということを実感することが出来ました。1日や半日だけという短い時間でしたが、将来自分がどのような薬剤師になりたいのか、どのような仕事がしたいのかを改めて考えることが出来ました。

薬局実習を通して、大学では体験することのできない貴重な経験をさせていただきました。指導薬剤師の先生をはじめ、実習中にお世話になった皆様、本当に有難うございました。

徳島文理大学5年　岸本　卓
（保険薬局プラネット 実習　指導薬剤師 仲宗根 健太）

私はプラネット薬局にて実習をさせて頂きました。医療ビルの横に立地しているので様々な科の処方箋に触れることができました。家族に医療関係者がいない私にとって何もかもが初めてでしたが、日経DIを用いた日々の読み合わせで薬剤師業務の実態や現場の声がわかり、徐々に薬剤師として働くことの実感が湧いていきました。また、勉強会に参加した時に仕事終わりの薬剤師の先生方がたくさん参加されているのを見て、常に自己研鑽に励み向上心を忘れずに取り組むことは薬剤師のあるべき姿だと感じました。

実習の最初の頃は薬局内の薬の場所や商品名を覚えるので精一杯でしたが、数をこなしているうちに次第に慣れて、用法用量、小児薬用量や最高投与量、効能効果などを意識して調剤することができる薬も増えました。大学では表面的に薬を触るだけでしたが、何の病気に対してどのタイプの薬がよく使われるのか、同効薬間の違いがわかったのでこれから分野ごとに強弱をつけて勉強しようと思います。また、服薬指導では患者さんが欲している情報は何なのか、どう伝えれば伝わるのか、薬歴にどう書き残すべきかなど、日々じっくりと考えることができ、私自身成長したと実感できた部分でもありました。

グループ薬局だったこともあり、他の店舗の先生方にも講義をしてもらう機会がありました。薬歴、小児、一包化、ジェネリック、学校薬剤師など様々なテーマについて実例をもとに詳しく教えていただいたのでとても印象に残っています。薬局外での実習では薬局製剤、漢方、OTC、卸、学校、夜間救急、在宅など様々な実習に参加させていただきました。様々な現場で生の声を聞くことができ薬剤師のフィールドの広さを体感することができました。中でも漢方と在宅は自分が思っていたものと違っていて、考え方が大きく変わったので印象に残っています。

最後に、この場を借りてお礼を述べたいと思います。指導していただいた仲宗根先生始めプラネット薬局の皆様、グループ薬局の皆様、県薬剤師会の皆様、本当にありがとうございました。たくさんの薬剤師に出会い、たくさんの考え方を学べたことは私にとって大きな財産になりました。二期の病院実習も頑張ります。ありがとうございました。

神戸学院大学5年　小宮 雛子
（コジャ薬局 東店 実習　指導薬剤師 古謝 真己）

実習を終えて成長したことは、患者さんに合わせた調剤をすること、薬の知識が実習を始める前の何倍も増えたこと、また、患者さんだけでなく薬局の人や他の医療従事者のかたとコミュニケーションをうまく取れるようになったことです。

実習最終日に、お薬の配達に行った際、そこで患者さんが、「私は先生を信頼しているよ。これからも、古謝先生のところ以外でお薬を作ってもらう予定はない、ずっとよろしくお願いします」と言っていました。こんなに地域の方に信頼されている薬剤師さんの元で実習をすることができて、本当に良かったと思います。

実習は、薬局業務に関する事だけでなく大学卒業後の進路の就職先なども学ぶことが出来、実習を終えるころには病院に就職しよう、そのあとにしっかり知識を蓄えて地域活動に参加できる薬剤師になろう。と自分の未来像をはっきりさせることができました。

本当に有意義な、自分を成長させることができた実習でした。今後もこの実習で学んだことを出来るだけ忘れず病院実習に備えたいです。

明治薬科大学5年　金城 奈美乃
（すこやか薬局 松島店 実習
指導薬剤師 古堅 直也）

私はすこやか薬局松島店で実習をさせていただき、とても充実した11週間を過ごすことができました。多くの経験をさせていただきましたが、今回の薬局実習を振返って強く感じたことは、調剤業務での慣れと思い込みによる調剤ミスの怖さです。最初の頃は、初めての調剤に戸惑い、時間をかけて何度も処方せんと照らし合わせながら調剤するのですが、慣れていくにつれ、患者さんを待たせないようできるだけ早く調剤しようとするようになり、思い込みによる薬の規格間違いや数量間違いが増えていきました。失敗したことをノートにまとめ、このノートを通してどこで調剤ミスをしやすいのか傾向を知り、そこを意識しながら調剤することで徐々にミスを減らすことができましたが、調剤過誤に繋がるような危険性はこんなにも身近にあるのだということを身をもって実感しました。安全に、そして正確に患者さんへ薬を提供することが薬剤師の務めなので、そのためにも、調剤過誤を未然に防止するための鑑査がどれほど重要なのかということを学びました。また、人と機械により二重、三重にも鑑査を行なうなど、間違った薬が患者さんの手に渡らないよう、いろいろな工夫がされていることも学びました。

実際に医療現場に触れることで、薬剤師が今後どのような場で、どのようなことを強く求められていくのかについて知ることができ、自分が将来どんな薬剤師になりたいのかを深く考えられる良い機会になりました。さらに、知識不足やコミュニケーション不足、また、社会人としての心構えやマナーなど、自分がこれから努力していくべき部分も見え、たくさんの刺激となり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

熱心に指導してくださった指導薬剤師の古堅先生をはじめとするすべての先生方、大変お世話になり、本当にありがとうございました。一人前の立派な薬剤師になれるよう、この経験を今後に活かし、これから先も一生懸命に努力していこうと思っています。

福山大学5年　知念 沙綾
（あかみち薬局 実習
指導薬剤師 上間 秀子）

私は、2か月半うるま市にあるあかみち薬局本店で実習をさせて頂きました。初日は緊張しましたが薬局の方々が話しかけてくれて楽しく実習が出来ました。調剤業務では、初め散剤・水剤の計算に戸惑いました。薬剤師さんからアドバイスをもらい今では自分の自信に繋がりました。調剤業務に慣れてきて実習生がいてくれて助かる良かったと言われるたびにこの薬局で実習して学べて良かったなと思いました。初めは調剤するのでいっぱいでしたが慣れてくると処方箋をみて何の薬か、どのような疾患か考えながら調剤をする事が出来ました。服薬指導では、どの疾患の患者さんでも最初に聞くことは同じな事に気づきました。いざ服薬指導を体験すると伝える事や聞きたいことを忘れ何について話したか分からず自分に不安ばっかりで指導薬剤師の先生に頼ってばかりでした。服薬指導をするにつれ慣れてきて患者さんと話せるようになると患者さんから「頑張ってね」や指導薬剤師さんから「落ち着いて話せていた」と言われるたびに自分に自信がつきスムーズに投薬を行う事ができました。外部実習では、他大学の学生と交流しながら薬局では経験できない事を学びました。沖縄県は実習生に力をいれており、そこで実習できて良かったです。

2か月半実習を通して色々な職種の人と関わる事ができました。2期の病院でも薬局で学んだ事を生かして頑張りたいです。実習を受け入れてくれたあかみち薬局の上間先生をはじめ、本店のみなさん、系列店舗のみなさん、楽しく実習させてくれてありがとうございました。

崇城大学 5年 嘉手苅 美聡
（とくりん薬局 実習　指導薬剤師 兼城　崇）

今回、薬局実務実習をとくりん薬局でさせていただきました。薬局実習をするにあたり、体調管理に気をつけ元気よく実習に励み、様々な業務に積極的に取り組む、処方せんや薬歴簿から患者情報を収集できるようになる、実際の患者さんへ服薬指導をする際には、落ち着いて話し、必要な情報を上手く聞き取る、などの目標を立てて臨みました。

薬局実習を通して、正確に調剤することの重要性や服薬指導のポイント、処方せんや薬歴簿から患者情報を収集する必要性など多くの事柄を学ぶことができました。調剤の回数を重ねることで、薬剤の名称が一致し、規格違いの薬剤や名称が類似している薬剤を覚え、徐々に効率良く調剤を行えるようになりました。一つ一つの物事を把握し、無駄なく正確に行動できる力は、調剤によらず普段の生活にも必要なことだと思います。今後の大学生活、社会生活においても周囲に目を向け、上手く優先順位をつけて無駄のない行動ができるように努めたいと思いました。服薬指導に関しては、患者さんからどのようにして必要事項を聞き出すかなど、患者さんといかに上手くコミュニケーションを取れるかが大事だと感じました。薬剤師の先生から、服薬指導はシンプルにかつ分かりやすく行うことが大切で、患者さんが一番気にしていることを中心的に話すことで患者さんの気持ちが分かる服薬指導になると教えていただきました。今後、人と会話をする際には、相手の話をしっかり聞き、相手が一番訴えていることは何か、それに答えるべきことは何かなどを考えながらコミュニケーション力を鍛えることが大事だと感じました。調剤や服薬指導の回数を重ね、薬剤師の先生方から教わることで、徐々に処方せんや薬歴簿から患者さんの症状を推測できるようになりました。服薬指導をする際に、薬歴簿から患者情報を収集することで、安心して患者さんに投薬できることから、薬歴簿の重要性を理解することができました。

外部実習を通して、実際の学校薬剤師の職務や在宅医療の現状などを拝見させていただきました。学校薬剤師は、衛生薬学的知識が必要であることはもちろんですが、児童や学校の先生方とコミュニケーションを取ることも大切であると分かりました。また、小学生や中学生、高校生に向けて公演を行うこともあるため、相手を意識して話す力も必要だと思いました。在宅医療においては、訪問前の薬剤の準備や患者情報の把握などを全て薬剤師が行うため、とても大変だと感じました。しかし、実際に患者さんのもとへ伺うと、患者さんやそのご家族との深い信頼関係が確立されており、とてもやりがいを感じることができました。地域の方々に寄り添うことができる薬剤師になれるよう、この体験を今後の大学生活の励みにしていきたいと思います。

実習初めは、薬剤の名称が一致せず、調剤一つするにもかなりの時間をかけてしまいました。服薬指導の際には、緊張して声が小さくなってしまい、患者さんの立場に立って話を進めることができませんでした。精一杯実習に取り組んだのですが、ご迷惑をおかけしたことも多かったと思います。その度、薬剤師の先生方の優しく丁寧なご指導により、前向きに実習に取り組むことができ、徐々に効率的な調剤や、落ち着いた服薬指導ができるようになりました。薬剤師の先生方の日々様々な事柄を学ぶ姿勢に感銘を受け、薬剤師は生涯学びが必要だと改めて実感しました。いつも笑顔で業務に取り組み、患者さんを思う気持ちを拝見することで、私自身、患者さんを第一に考え、信頼してもらえる明るい薬剤師を目指そうと思いました。11週間、とてもあっという間でした。薬剤師の先生方や事務の方々のおかげで、毎日楽しく実習に励むことができました。

大学の講義では分からない、現場の薬剤師の役割や仕事を実際に体験することができたのは、とても貴重であり今後の人生の糧になると思います。とくりん薬局で実習ができ、素晴らしい薬剤師の先生方に出会えたことはとても誇りに思います。大変お忙しい中、実習を受け入れて下さり心より感謝申し上げます。

姫路獨協大学5年　巨勢 紀羽
（アシスト薬局 実習　指導薬剤師 糸数 理江）

私は、11週間アシスト薬局にて実習をさせて頂きました。

薬局実習では調剤業務や服薬指導だけでなく、病態・薬物治療についても深く学びました。実習初期は、薬剤名や位置、機械の操作がなかなか覚えられず、薬を間違って取ることもあり、調剤をするのにとても時間がかかりました。しかし、薬局のスタッフの方々が丁寧に教えて下さったので、徐々に覚えることが出来、間違いも減りました。処方解析では、今まではただ処方箋を見て薬を取るだけでしたが、どのような疾患なのかなど処方意図を考え、分からない問題に直面した時はすぐに調べるようになりました。当初はわからないことが多く、病態・薬物治療の知識も浅かったので、その都度調べることによりさらに知識が深まりました。また、服薬指導を行う前に処方箋と薬歴、患者さんの様子を確認することで、どのような質問や説明が必要なのか理解し、あらかじめ計画を立てることが出来ました。服薬指導では、初めはとても緊張し焦って上手く行うことが出来ませんでしたが、経験していくことで焦らずに患者さんと接することが出来るようになりました。しかし、積極的に話して頂ける状況を作ることは出来なかったので、今後の課題にします。

外部実習では、学校薬剤師や卸の見学、ＯＴＣ薬実習、在宅医療など多方面で活躍する薬剤師の業務について学びました。中でも印象的だったのは、在宅医療を通して地域に貢献する薬剤師の姿でした。在宅医療では、患者さんの状況やアドヒアランスを直接確認することが出来ました。患者さんの健康状況をよくするためには、アドヒアランスを向上させる必要があります。在宅を行っている患者さんは一人暮らしが多いので、話をすることを楽しみにしている方もいらっしゃいました。話をすることで、会話の中から様々な情報を得ることもできるので、在宅を行う上でコミュニケーションはとても重要だと感じました。コミュニケーションをすることでアドヒアランスの向上にも繋がると思いました。

実務実習を通して、学校では学ぶことの出来ない貴重な体験が出来ました。今回学んだことを二期の病院実習へ活かし、立派な薬剤師になれるよう日々の勉強も頑張ります。11週間大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

オリエンテーション

崇城大学5年　内山 さくら
（アシスト薬局 実習　指導薬剤師 仲宗根 辰弥）

私は、5月から2ヶ月半にわたりアシスト薬局で実習をさせて頂きました。実習の初めの頃は不安もあり緊張していましたが、薬剤師の先生方をはじめ薬局の方々が温かく迎えてくださったので、最後まで楽しく実習をすることが出来ました。処方せんの受付から患者さんへのお薬の提供まで、大学では経験できなかった貴重な体験ができ、2ヶ月半が短く感じるほど本当に充実した実習でした。アシスト薬局では浦添総合病院からいらっしゃる患者さんが多いので、様々な診療科からの処方せんを調剤することができ日々勉強の毎日でした。最初は処方せんを見ただけでは、どんな治療をしているのかわからず、自分の勉強不足を感じましたが、薬剤師の先生と代表的な疾患について考察し、また自分で調べることによって処方されている薬から病気を推測できるようになりました。一見ビタミン剤や軟膏が出されているだけと思っていた処方せんが、実はがん患者さんの副作用軽減のために処方されていたことはとても印象に残っており、単純な処方内容でも実は重い背景が隠れていることもあることを学びました。服薬指導では、ただ薬の作用や用法用量を説明するだけでなく、患者さんの気持ちや生活背景、副作用は出ていないかなど、短い時間で患者さんに確認すべきことはたくさんあることを学びました。また初めて来局された患者さんには副作用歴やアレルギー歴を必ず確認し、処方された薬に問題がないかを確認することも重要だと教えて頂きました。しかし、頭でやるべきことがわかっていても、最初の頃は実際に患者さんを前にするとうまくいかないことが多く、患者さんの不安な気持ちを感じとる余裕がなく焦っていたのを覚えています。薬剤師の先生に話しやすい雰囲気の作り方や聞き出し方を学び、服薬指導の回数を重ねることで、自分の課題を見つけることができたので、Ⅱ期の病院実習や今後薬剤師として働いた際に活かしたいです。

実習を終えて、現場の薬剤師の先生やスタッフの方々が患者さんを第一に考えて働かれている姿を見て、私の目指す薬剤師像が明確になりました。また薬剤師の先生から、患者さんの人生に寄り添い、日々の生活をサポートするのが薬局薬剤師の役割だということを学びました。患者さんから頼ってもらえる思いやりのある薬剤師目指して、これからの病院実習、大学での勉強により一層励みたいと思います。

最後に患者さんのために働くことのやりがいや、調剤の楽しさを教えて下さったアシスト薬局の薬剤師の先生の方々やスタッフさんの皆様、外部実習でお世話になった先生、実習中お世話になったすべての方々に感謝致します。この経験を忘れず、自分の目指す薬剤師像に向かってこれからも頑張っていきたいと思います。2ヶ月半本当にありがとうございました。

学校薬剤師について学ぶ

長崎国際大学5年　大城 心奏
（がじまる薬局 実習　指導薬剤師 照屋 林一郎）

実習が始まり、薬局の業務内容が思っていたよりも多いことに驚きました。実習が始まる前は調剤・監査・投薬のイメージでしたので、薬局で今販売されている商品に触れて、どんな薬が出るのか、一般名と商品名の照合、投薬の仕方を学ぶつもりでした。しかし、薬局ではそのほかにも、医薬品の在庫管理、点数の計算、法律の話も多く聞け、居宅訪問、学校薬剤師、ドラックストア - など薬局外の役割も多く体験させてもらいました。実習中に一番苦労したのが投薬でした。学校でOSCEを終えて実習に挑み、少しはできるのかなと思っていましたが、最初の投薬の時はガチガチに緊張して、引きつった顔で自分の言いたいことだけを言って終わっていた。今はどうにか何気ない会話ができるようにまではなったと思うが、薬の注意点を言い忘れたりや患者さんに説明不足なことを気づかないなどと、直さないといけないところは自分でもまだまだあると思います。最近では、あまり自覚がなかったが薬のことをわかってきたのか話すスピードが速くなっていると言われた。実習中に薬剤師さんの投薬をお手本にしようと聞くが人によって、簡潔に必要なことを確認するやり方や、時間をかけて背景をより聞き出そうとするやり方があり、今の自分は担当薬剤師のまねをするだけで精一杯になっている。薬剤師になってからにはなるがその中で自分の投薬を考えないといけないと思っている。

実際に薬局で処方箋に触れることで、どんな病気に対してこの薬が出ているのかを勉強することができた。薬局側も糖尿病や婦人科、小児は処方箋枚数が少ないからと他の店舗に見学させてもらうこともでき、様々な処方箋を見ることができた。処方箋解析をしながら、湿布などは70枚までだったり、眠剤、安定剤、新薬などの処方限度を知ることができたり、処方箋だけで多くのことを学ぶことができた。そのおかげで、疑義が必要なものも自分で少しはわかってきた。

実習前は薬事事務の存在もわからなかった。薬局は薬剤師しかいないと思ったが、事務との連携があって薬局がなりたっているのだと実感できた。実際に事務の方のほうが点数の計算に慣れているので、どんな加算があるのか、どんな計算をしているのか、保険や負担額の違いまで教えてもらった。

前期は薬局で薬剤師の現状を見ることができ、後期に病院で実習があるので、そのとき薬剤師の見方が変わるかもしれない。そのとき違いを比べられるといいかなと思う。

会営薬局医療センター前で夜間・救急について学ぶ

同志社女子大学5年　平良 佳穂
（レモン薬局 美里店 実習　指導薬剤師 谷澤 大輔）

この11週の薬局実習では、レモン薬局美里店だけでなく系列店舗へも実習に行かせてもらったり、薬局での実習をはじめとして学校薬剤師、OTC医薬品や漢方、薬局製剤、卸売り販売業の見学、在宅医療などの外部実習も行いました。

学校薬剤師や在宅医療の実習では実際に現場まで同行させてもらい、学校の授業で習うこと以上の事を実際に目で見ることによってすごく勉強になりました。外部実習を通して薬局や病院でだけでなく、薬剤師として多方面で活躍の場があるという事を知りました。

私の実習先は皮膚科と内科の門前ですが、別の店舗に行くことで他の診療科の処方も扱うことができました。診療科が異なると出る薬が全然違うのは当たり前ではありますが、相互作用や服薬方法など注意事項として伝えるべきことも全然違ってきて、自分の知識の無さを痛感しました。処方解析をするにしても、最初は全然検討もつかず先が思いやられていましたが薬剤師の先生方に教えてもらったり、調べていくにつれてはじめの頃よりは予測できるようになったかなと思います。

服薬指導では処方内容が同じだとしても、全ての患者さんに対して全く同じ説明ではなく、患者さんの反応や理解度によってそれぞれに合った説明が必要という事でした。それを見極めながら適した指導を行うというのは薬剤師の先生のやり取りを見ていると一見そこまで難しそうには感じなかったのですが、実際に自分が服薬指導をしてみると思ったより難易度が高かったうえに、患者さんからの質問にも答えられないことも多々ありました。そんな中すぐにフォローしてくださった薬剤師の先生方、実習生ということで優しく見守ってくれた患者さんには感謝でいっぱいです。服薬指導をしていくうちに、学生からおじいちゃんおばあちゃんの幅広い年代の患者さんから「頑張ってね」と声をかけてもらえる事も増えてきて、すごく嬉しくやりがいを感じました。

薬局実習はあっという間ですごく濃い11週でした。レモン薬局にて指導をしてくださった先生方、薬局職員の皆様、外部実習にてお世話になった先生方、本当にありがとうございました。この経験を生かして、2期での病院実習も頑張りたいと思います。

平成29年度 第Ⅰ期実務実習薬学生記念撮影

地域保健

なごみ会主催
第7回 県民健康フェア2017報告

日時：平成29年8月20日（日）12:00 ～ 16:00
会場：沖縄コンベンションセンター 展示場

地域保健委員会
委員長　笠原 大吾

去る8月20日（日）沖縄コンベンションセンターにおいて、第７回県民健康フェアが開催されました。今年も、昨年同様台風の影響もなく、天気上々の開催となりました。入場者数は、県医師会の発表で約1,000名と昨年よりは少ないようでありましたが、わが県薬剤師会のブースは、昨年を超える来場者で終日ごったがえしておりました。

本年より、なごみ会としてステージイベントを最小限にして、予算の節約と開催時間の有効活用を図りました。今後も開催にはいろいろな改善があるかと思います。

さて、われわれ県薬剤師会のブースは、昨年とほぼ同じ内容で臨みました。具体的には、問診を含めた“健康チェック”から“お薬または健康相談”、来場者への“アンケート”の記入・回収までの流れを、来場者1人につき1人の薬剤師が担当するという昨年と同様の方式で対応することにしました。すなわち、昨年4月より実施の“かかりつけ薬剤師制度”の要件の一つである“地域貢献”の実践を目的として、あらかじめ講習会に参加された薬剤師に当日は関わってもらう趣旨で参加者（指導者）を募りました。今年も、当日参加された約40名の薬剤師の多くから、忙しい中に充実感と来場者の満足感を感じたという評価をいただいております。さらに、測定等の待ち時間に、“かかりつけ薬剤師”、“健康サポート薬局”について来場者に周知を図ってもらいました。アンケートの結果にも、“かかりつけ薬剤師”、“健康サポート薬局”の知名度の低いことが如実に表れたことは、今後住民に対してわれわれ自ら積極的にアピールをしていく必要性をひしひしと感じた次第です。

また、いつもは長蛇の列となる“動脈硬化度測定機器”をもう1台購入して2台で測定したおかげで少しはブース内の混雑が緩和できたのではないかと思っています。

以下に参加された先生方の印象記を掲載しておりますので、ぜひお読みになってください。

最後になりましたが、当日は指導者として参加された会員の先生方ならびに準備からご協力いただいた県薬剤師会の事務局の皆様、本当にお疲れ様でした。

◘薬剤師会ブース健康とおくすり相談員（敬称略・順不同）

○伊佐　要一	○伊敷さゆり	○伊集　智英	○伊藤　夕紀	○上里美矢子
○上原　幸代	○江夏　京子	○江夏　恭範	○大城　賢治	○大城　　進
○大城なつき	○笠原　大吾	○神田　寛之	○金城　龍男	○金城　礼尽
○草壁　瑞恵	○具志堅睦人	○楠見　康夫	○古賀　　功	○國場　節子
○島袋さゆり	○城間　史子	○高木　英子	○高田　禎子	○中尾　滋久
○長谷川幸司	○林　　伸嘉	○福地　健治	○普天間公子	○眞榮城紀美子
○槇原　真紀	○松本　圭五	○三上まどか	○宮城　幸枝	○村田美智子
○盛本　直也	○安田　泰行	○山城　巨佳	○屋良　　愛	○吉田　洋史

＜県民健康フェア参加報告1＞

かんな薬局
大城 賢治

平成29年8月20日に宜野湾市コンベンションセンターで「なごみ会主催第7回県民健康フェア2017」が開催されました。今年も薬剤師会でブースを出すことになり、私の参加は今回で2回目となりますが、去年と同様A、B、Cの3チームに分かれ来客者に付き添うチーム、測定器の操作をするチームなどに分かれて約１時間交代で行動することになりました。薬剤師はおよそ40人ほどで薬剤師会ブースへの来場者は100人ほどだったそうです。測定は骨密度、HbA1c・血糖、体組成、動脈硬化度を行いました。

去年よりも来場者が多い印象で、来客者に付き添うチームにいた時も血糖測定担当者が他にまわっていることもあり付添いしながら測定する事もありました。

私が担当した来場者は70代後半女性で様々な測定で異常なく服用薬もないが毎年参加されてるという方や、60代男性で他のブースで頸動脈プラークが見つかり薬剤師会の測定でも動脈硬化度が高めであった方、70代半ば女性で健康に気を使っており、体脂肪だけがやや高いくらいで他は健康体である方、60代女性でアトピーが気になるが薬剤師会の測定では特に問題なかったため皮膚荒れの相談をされた方など健康意識が比較的高い方が来客されているように思われました。

去年は無かったのですが、今年はたまたま空いた時間があり、他のブースを周回したところ、測定できる項目が多いこともあるためか薬剤師会と看護協会のブースが特に活況を呈しているようにみえました。

普段、調剤薬局で勤めているだけではお会いすることのない層も多く来場していたようで、今後健康サポート薬局など国が掲げる地域医療推進を模索する中で参加させていただいた事で去年とはまた違った貴重な経験ができました。また来年参加できればと思います。

薬剤師会ブース　健康とおくすり相談員記念撮影（前半）

＜県民健康フェア参加報告2＞

宜野湾薬局
伊佐 要一

なごみ会主催第7回県民健康フェア2017に参加したので報告します。

今回は3つの班に分かれて、ローテーションで1班は案内役、1班は機械操作、残りの1班は休憩という内容でした。

案内役は来訪者1人につき薬剤師が1人付いて骨密度の測定、動脈硬化の測定、体組成計のインボディ、希望者はHbA1cの測定もして、その結果に応じて薬剤師が食生活や運動のアドバイス、その他サプリメントの相談などをする内容でした。

今回印象に残った内容としては、日光を浴びると痒みが出るからということでドラックストアから勧められたサプリメント（ビタミンB群、ビタミンC、ビタミンD）と年齢的に骨が心配だからということで飲んでいるサプリメント（カルシウム、ビタミンD）を両方飲んでいて、ビタミンDが過剰じゃないか心配という患者さんでした。どちらか1つをビタミンDが入っていないサプリメントに変えることを勧めたのですが、両方飲んで調子がいいと言うことで、ビタミンDの1日摂取量を調べてお伝えしました。

結果として1日量を超えない量だったので飲みすぎないように注意して、頭痛や吐き気などの高カルシウム血症の症状が出るようなら中止して受診するようにお伝えして終わりました。

他にも健康食品や、中性脂肪、コレステロールが高いということで食事や運動の相談もありました。

今回の健康フェアに参加してみて、自分が思っている以上に健康やサプリメントについて相談したい患者さんが多くいることを知って、健康サポート薬局やかかりつけ薬剤師を目指していかないといけないなと思いました。

＜県民健康フェア参加報告3＞

つつじ薬局ヨナ原
高田 禎子

今回、なごみ会主催県民健康フェアに初めて参加させて頂きました。開始早々、多数の来場者が薬剤師会ブースに並んで下さっているのを見て驚きと喜びを感じました。当ブースでは、お薬相談票を用いご本人から聞き取った服薬（サプリメント含む）状況、既往歴、家族歴、生活習慣に加え、動脈硬化度測定、骨密度測定、体成分分析、HbA1c測定のうち受けられた検査のデータをもとにお薬相談を行いました。薬剤師は時間帯によって測定機器担当とお薬相談担当が決められ両方を経験できる予定でしたが、お待ちの来場者が多くおられ、私はお薬担当をずっと行うことになりました。

お薬相談票を記入しながら各測定を行っていきますが、測定の列に並んでいる間に色々なお話を伺うことができました。膝を痛めたのを機に体重が増えてしまって困っておられるご高齢の方や家族の事情により毎週3回ほど外食をしている方などにお会いしました。お薬を飲んでいない方もおられ、お薬の相談はほとんどありませんでしたが、骨は大丈夫か？脂肪が付きすぎているのではないか？と御自身の健康に関心を持ち、今後どのような生活をしていけばいいのかを知りたいようでした。最後に、測定から得られたデータを分析し、その方の年齢や生活を考慮してアドバイスさせて頂きました。現状を分析し解決策を考えて差し上げることで、不安が和らぎ一歩踏み出せるお手伝いが出来ていたらいいな

と思いました。

今回は「かかりつけ薬剤師」「健康サポート薬局」を知って帰って頂くというのが大きな目標となっていました。皆さんご存知なかったので説明しましたが、少し理解しにくいようでしたので「保険薬局では、薬のことはもちろん、健康や介護などのご相談にも対応できるよう勉強していますので、薬局で気軽にご相談ください。」と締めくくりました。

普段の仕事の中で、患者様の中には「薬剤師は薬を売る人」と思っておられる方や「薬を飲めば好きなものを食べて面倒な運動もせずに健康になれる」と思って安易に薬に頼ってしまう方が結構いらっしゃると感じていました。県民の皆様が、このような健康フェアをきっかけに薬と正しく付き合えるように、また、健康に関する不安から解放されるように薬剤師をどんどん活用して頂けるようになれば嬉しいです。

＜県民健康フェア参加報告4＞

すこやか薬局 喜屋武店
金城 礼尽

今回、なごみ会主催県民健康フェアに初めて参加させて頂きました。薬剤師として地域活動に参加するのは初めてで、最初はいろいろと不安がありましたが、事前の打ち合わせ会では、当日使用される測定機器に関する説明もあり、また、体験もすることができたため、健康フェア当日は、安心して参加をすることができました。

健康フェア当日は、自身の想像以上に来場者が薬剤師ブースを訪れて頂いたため、私は、当初与えられていた1時間の休憩時間も、ブース内での活動に参加させていただきました。

測定機器においては、骨密度測定を担当させていただきました。装置は、「CM-300, FURUNO」で、かかとに超音波を通し、その通り抜けるスピードに対して、どの程度減衰したかを測定し骨量を計るというものでした。X線を使用していないため、妊婦の方にも安全で場所を選ばずに測定が行えるという特徴があります。実際の測定では、来場者の足を装置に固定する役と、装置につないだパソコンを操作する役の2名で行いました。測定終了後、来場者の方から笑顔で「お世話になりました」とお声を頂いた際、自身の中で「やって本当によかった」という悦びが湧き上がってくるのを感じました。

今回の経験は、今後、自身が薬剤師として地域貢献を行う上でいいデビューを飾れたのではないかと考えております。この企画をして頂いた関係者の皆様、ならびに参加者の方々、ご来場者の方々には、貴重且つ有意義な体験をさせて頂いたことを感謝申し上げます。

薬剤師会ブース　健康とおくすり相談員記念撮影（後半）

なごみ会主催　第7回県民健康フェア2017　スナップ写真
＜ステージイベント＞

大変好評であった沖縄Let'sプチ体操　会場が一体となった

ステージイベントの司会を務めた
島袋 さゆり氏（地域保健委員会）

＜薬剤師会ブース＞

体成分測定

動脈硬化測定

骨密度測定

Hba1c

こども調剤体験

広報ポスター

第7回
■主催／沖縄県医療保健連合（なごみ会）
■共催／（公財）沖縄県保健医療福祉事業団

2017 県民健康フェア

■日時：平成29年8月20日（日）12:00~16:00
■場所：沖縄コンベンションセンター展示場

あなたの健康はみんなの幸せ♡
―元気で長生きハッピーライフ―

入場無料

駐車スペースに限りがございますので、バス・タクシー等をご利用下さい。

ブースイベント
各ブースにおいて、医療相談、骨密度測定検診、フードモデルによる食事チェック、体力測定など、様々な企画をご用意して皆様をお待ちしております。

スタンプラリー
もらってからのお楽しみ！
景品プレゼント!!
ブースをまわってスタンプを5個あつめよう！ 数量限定!!

なごみ会
●沖縄県医師会 ●沖縄県歯科医師会 ●沖縄県薬剤師会 ●沖縄県看護協会 ●沖縄県栄養士会 ●沖縄県臨床検査技師会 ●沖縄県歯科衛生士会
●沖縄県歯科技工士会 ●沖縄県放射線技師会 ●沖縄県理学療法士協会 ●沖縄県柔道整復師会 ●沖縄県鍼灸師会 ●沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
●沖縄県精神保健福祉士協会 ●沖縄県作業療法士会 ●沖縄県言語聴覚士会 ●日本健康運動指導士会沖縄県支部

■お問い合わせ／TEL（098）888-0087（沖縄県医師会）

第7回 県民健康フェア2017イベント

ステージイベント

開会式	内容
12:00～12:10	主催者挨拶：安里　哲好（沖縄県医師会長・沖縄県医療保健連合会長・沖縄県保健医療福祉事業団理事長） 来賓祝辞：砂川　靖（沖縄県保健医療部長）
12:15～12:30	沖縄Ｌｅｔ'ｓプチ体操（日本健康運動指導士会沖縄県支部）

ブースイベント

●医師会
おきなわ津梁ネットワークを活用した保健指導
（健康保険証をご持参下さい）
AED・心肺蘇生体験（人数制限有）
パネル展示、次世代の健康づくり副読本等

●歯科医師会、歯科衛生士会、歯科技工士会
一緒にやってみよう!Do（どぅ）チェック歯科健診
知って得する妊婦のむし歯予防・歯周病予防
お口の細菌観察コーナー
相談：口腔ケア（乳幼児期～老年期）、在宅歯科、障害者歯科、かぶせもの、入れ歯などの補綴物
体験：口唇力測定、フッ素洗口体験、むし歯リスク検査
展示：パネル、歯科用グッズ

●薬剤師会
患者のための薬局ビジョンに関すること
（かかりつけ薬局・薬剤師・健康サポート薬局）
相談：健康チェックとお薬相談会
展示・実演：一般（こども）向けのくすりの正しい使い方
展示：薬剤師の仕事について

●看護協会
健康相談（血圧測定・体脂肪測定）
キッズナース体験（白衣体験）
レッツママ体験（妊婦体験・赤ちゃん抱っこ体験）

●栄養士会
展示：パネル展示　相談：栄養相談、他
フードモデルを活用した、パソコンによる食事バランスチェック（SATシステム）

●臨床検査技師会
頸動脈エコー検査（先着100名）
臨床検査展
・ミクロの世界体験（血液細胞・がん細胞）
・口の中の細菌検査体験（グラム染色）、血液型について

●放射線技師会
放射線被ばくに関して、医療における各種検査に関しての相談
骨密度測定検診（無料）

●理学療法士協会
足の機能、予防について、パネル展示、相談コーナー

●作業療法士会
何でも相談コーナー、自助具の展示および
体験コーナー、パネル展示

●言語聴覚士会
相談：飲み込み、ことば、子どもの発達等に関して
展示：言語聴覚士の仕事内容のパネル

●鍼灸師会
展示：鍼灸に関する情報　体験：鍼灸施術

●精神保健福祉士協会、医療ソーシャルワーカー協会
医療ソーシャルワーカーの職能紹介、社会福祉クイズ
精神保健及び医療に関する相談、医療福祉相談、
がん相談、患者会等紹介、幻覚のバーチャル体験

●柔道整復師会
展示：パネル（ボランティア活動）
体験：テーピング実技
（メディカルテーピング、スポーツテーピング）
相談：整（接）骨のかかり方

●日本健康運動指導士会 沖縄県支部
体力測定（握力・柔軟性・俊敏性・10m速歩・バランス）
相談：体力測定結果に基づいて
体験：沖縄Let'sプチ体操と各種健康体操

学薬部会

平成29年度学校薬剤師部会総会・講習会報告

日時：平成29年7月2日（日）総会 13:30 ～ 14:20・講習会 14:30 ～ 16:00
会場：沖縄県薬剤師会館　研修室

みさと虹薬局
田仲 周子

沖縄県薬剤師会館研修室において平成29年度学校薬剤師部会総会が開催されました。

平成28年度の事業報告、決算・監査報告などがあり、その後、平成29年度の事業計画（案）、予算（案）などの報告がなされました。決算・予算（案）で繰越金の違いが指摘されましたが、検討の結果、前年度未払い金を今年度に入れたことが判明し、修正されました。会員も増え、事業資金・事業計画もより充実した内容になっていると思います。

以下に、平成29年度事業計画を報告します。

①学校薬剤師としての資質の向上のための講習会・研修会の実施
②「全国学校保健調査」の実施ならびにデータ解析
③学校への学校環境衛生検査未実施項目の実施への働きかけ（空気検査など）
④組織強化、試験検査センターへの検査委託の推進
⑤関係団体への協力と連携の推進
⑥学校指導要領に基づいた“くすり教育”の充実
⑦学校薬剤師能力のＰＲ（部会外での研修会における職能紹介等）
⑧なごみ会主催県民健康フェア「健康とおくすり相談会」への参加
⑨幼保連携こども園への薬剤師の配置
⑩県薬ホームページ“学薬の頁”の充実と県薬会報“学薬だより”への投稿
⑪第16回九州地区健康教育研究大会における会員発表
⑫沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会40周年記念誌の発行

と、前年度より1事業増え、より具体的な内容となった気がします。更にこれまでの活動の名残の古い試薬等が廃棄処分となることになり、その費用が少なからずかかることになります。費用の捻出に皆様のご協力もお願いしたいとのお話もありました。会計・監査の役員の交代も承認されました。

第1講習は、試験検査センター主任技師の小泉宝之氏による水質検査（採水時・方法）、照度検査、騒音測定、空気検査、ダニまたはアレルゲン検査、などについて検査キッド、器具を用い具体的な手技など、更に検査結果の記入方法など、分かり易く講演していただきました。学校薬剤師としての仕事が初めてなので実際に検査をするときは上手くやれるか心配な面があります。

第2講習は、学校薬剤師部会副部会長の知名博樹氏による「学校環境衛生における提起怨嗟・日常点検について」と題し、学校環境衛生基準の概要、各検査の目的、留意点、基準などを資料に基づき、説明がなされました。

改めて、こども達が学校で安全に衛生的に過ごすための教育環境を守る大事な役割を痛感しました。学校薬剤師の職務として実際に学校に出向いて色々な検査を実施して初めて職務を遂行したとなるわけですが、執務記録も必ず記載し、添付して保存してもらうようにと伝達事項もありました。

学校薬剤師として新参者ですが、宜しくお願いいたします。

女性薬部会

女性薬剤師部会主催
第22回漢方講座報告

日時：平成29年8月6日（日）10:00 ～ 11:30　　会場：沖縄県薬剤師会館 ホール
演題：「漢方における気の概念～理気剤について～」
講師：那覇市立病院 外科　友利 寛文

同仁薬局
喜納 徹太郎

今回、初めて女性薬剤師部会の漢方講座に参加させていただきました。漢方における気の概念というテーマで那覇市立病院の友利寛文先生から理気剤と漢方の副作用について講演していただきました。

漢方の副作用と聞くと甘草による偽アルドステロン症が有名ですが、甘草は1日5g（グリチルリチンとして200g）が上限で、長期にわたり摂取することでNa貯留による低カリウム血症で頭痛、吐き気、不整脈、重症になると意識消失を起こすことが有名ですが、甘草の主成分となるグリチルリチンはスナック菓子や弁当などにも多く用いられていて、自覚症状がないまま摂取している可能性があることにも注意が必要であること。そして黄連解毒湯などに含まれる「オウゴン」という成分による間質性肺炎（空咳、発熱、息切れなど）の頻度が意外に高いことや、葛根湯や小青竜湯に含まれる麻黄の成分のなかにあるエフェドリンはα受容体作動薬であるため頻脈や排尿困難を起こすこと、前立腺肥大のある高齢の方で、風邪に葛根湯や麻黄附子細辛湯を服用して排尿困難が悪化していることがあるかもしれないことなど詳しく解説していただきました。

漢方の気の概念～理気剤について～では、「気」とはエネルギーであり、エネルギーの巡行が不調になることで身体の調子が悪くなること。気のめぐりが悪くなる状態で息が吸えない・抑うつ・喉にものがへばりついた感じの症状がでることを「気鬱」といい厚朴や紫蘇葉などの生薬が有効であること。気が下から上へ逆流する「気逆」はのぼせ、頭痛、動悸などの症状があり桂枝や黄連が有効であること、気の量が不足しているエネルギーが衰えた状態で疲れやすい・食後に眠たくなるなどの症状は「気虚」で人参や黄耆などの生薬が有効であるなどの患者の「気」の状態に合わせた生薬の選び方をお話していただきました。

中医学と日本漢方（和漢）では症例から治療に使う生薬は同じでも、基本的には概念から細かな治療に至るまでの経路や考え方が違うこと。ほかにも「虚実」の意味が中医学と日本漢方では違い、日本漢方の場合、体力が無くてひ弱なら「虚」、体力があってがっちりしていれば「実」ですが、中医学での虚実は、気・血・水というエネルギーが足りなければ「虚」、これらが滞ってめぐりが悪い状態を「実」＝停滞というのだそうです。

他にも熱が胃に留まり食べすぎてしまう胃熱という症状には胃腸の熱をとってくれる黄連解毒湯が有効であること、怖い夢をみる人には甘麦大棗湯が効果的であること、痛風の急性発作には越婢加朮湯が有効であることなど具体的な症例からの漢方薬の使い方を分かり易く講演していただきました。今まで漢方の勉強をする機会があまりなかったのですが、この講演会を機に漢方について勉強していきたいと思いました。

講師の友利寛文氏を囲んで

女性薬部会

平成29年度 第2回「妊婦・授乳と薬」研修会報告

日　時：平成29年7月9日（日）10:00 ～ 12:10
会　場：沖縄県薬剤師会館 ホール
講　師：こくら虹薬局　宮城 奈津子
テーマ：「妊婦・授乳婦サポートのために」

「妊婦・授乳と薬」研修会報告1

中部薬局
玉城 仙子

女性薬剤師部会主催の平成29年度第2回「妊婦・授乳と薬」研修会が前回に引き続き、こくら虹薬局の宮城奈津子先生の講師のもと、今回は6症例の具体的な対応方法を教えていただきましたので報告いたします。

各症例とも一連の流れがありました。

① ご本人の状態、状況を把握する。何が問題となるのかを踏まえること
② 処方内容
③ 薬剤の資料探し
（添付文書と文献は2種以上で検索）
④ 服薬指導

本人に共感する。検索結果やこれまでの情報・知識に基づいて指導。医師疑義紹介後、変更の際の対応など。それでは、流れに沿って症例を見ていきましょう。

症例1　省略

症例2　場面設定：本人22歳、夫24歳
子5か月（体重6.5kg）副鼻腔炎あり
粉ミルクと授乳混合（授乳回数5 ～ 7回/日）
妊娠でやめていたタバコを1日5本喫煙中
以降、喫煙後は粉ミルクを使用している
（旦那さんも喫煙）
服薬で授乳続けているが心配で断乳を考慮中
処方：オーグメンチン配合錠250S
3錠/3　3日分
カロナール200mg　2錠　発熱時
資料探し：
① 添付文書
オーグメンチン、カロナール：
授乳婦に関する記載なし
オーグメンチン　Tmax　1.5hr　T1/2　1hr
カロナール　Tmax　0.46（±0.19）hr
T1/2　2.36（±0.28）hr
② 文献「妊娠と授乳」
③ 文献「妊婦・授乳婦の薬」
④ 文献「母乳と薬ハンドブック」

薬については特に問題となる内容はなかった。
服薬指導：
○薬の影響を考え、断乳を考えることについて
→今はご自身も体調が悪いのにお薬を飲んだ時の母乳によってお子さんの影響が心配ですよね。（共感）
→今までも多くの授乳婦さんに使っているお薬ですので、お母さんが服用して授乳を続けることによる赤ちゃんへの悪影響がでることはないと考えられます。（よく使用される薬なので心配はいらないと説明）
→5か月のお子さんには母乳栄養がまだ必要な時期、今まで通り混合で授乳を続ける方がお母さんにとっても、お子さんにとっても良い。
○オーグメンチン、カロナールの影響について
→オーグメンチン、カロナールは赤ちゃんが風邪を引いた場合にも使われ乳児に使うことができる成分です。母乳からお子さんへ移行したとしてもほんのわずかであり、悪

影響が出る可能性は低い。
○タバコを吸っていることについて
→妊娠中はお子さんのことを考えて禁煙をがんばりましたね。現在はタバコの影響を考えて喫煙した後には母乳を控えているのですね。（現状を把握したうえで共感）
→喫煙後　30分以内には母乳への移行。
1～2時間ほどで母乳へのニコチン量は半分に減っていきますので、なるべく時間を空けた方がよいでしょう（理想は90分以上）。しかし、赤ちゃんが喫煙後すぐにミルクを欲しがる際は粉ミルクより母乳をあげた方が良いと言われています。（母乳の利点を把握しておく。第一に禁煙を薦めるが、喫煙していても人工乳より母乳を選択。子供がたっぷり飲み終えるまでは吸わないようにする）
タバコの害は母乳だけでなく、環境にもあります。受動喫煙など成長に影響を与えるので周囲の協力や防煙に配慮してください。

症例3　省略

症例4　場面設定：本人29歳、夫30歳
現在3か月の女の子（体重5kg）
完全母乳：授乳回数6～8回/日
産後ストレスによる心療内科受診
服薬で母乳をあげるのが心配
処方：エビリファイ錠3mg　0.5錠/1　寝る前
資料探し：
①　添付文書
授乳中の婦人に投与する場合には授乳を中止させること「ヒトで乳汁移行が認められる」
②　文献「妊娠と授乳」
限られた情報では15mg/日以下の母乳の使用では乳汁中濃度は低く、生後3か月までの観察で乳児に悪影響は見られなかったと報告されているが更に多くのデータが必要である。
③　文献「母乳とくすりハンドブック」
ほとんど研究されておらず、現時点では安全性を示す情報が見当たらないため、他の抗精神病薬の使用を推奨。乳児に有害作用を及ぼす可能性があり、授乳婦へ使用する場合は注意。
服薬指導：
○服薬することで母乳をあげられないことにショックを受けていることについて
→今まで母乳で育てたいと頑張ってきたのに急に半日は粉ミルクをあげるように言われショックですね（共感）。
○エビリファイの母乳、赤ちゃんの影響について
→今回のお薬は15mgという多い量で毎日服用しても母乳へでるお薬の量はほんの少しと言われています。処方された服用量でお子さんへの悪影響が出るとは考えにくい。
○服用後、半日の粉ミルクへの切り替えについて（本人の希望を医師に伝える。処方医へエビリファイの母乳移行について説明する）
→医師確認後、母乳を続けるかは選んでもらっていいと確認できた。お薬の効果がとても長いものなので、服用後授乳時間をあけるというのは母乳へあまり影響しないと考えるので、時間帯は気にしなくていいです。（添付文書、インタビューフォームよりの情報）
○周りの協力について
→お母さん自体が体調悪い時は他の家族がお子さんを抱っこしてお世話し、粉ミルクをあげてくれればいいですよ。お母さんが精神的に安定している方が、お子さんに与える影響がよいため、授乳のために服薬を中止する必要はまったくないですし、むしろ中止にすべきではない。
○母乳を中止する際の対応
＊こころのケア
→早期に授乳を止めなくてはならない母親の辛い気持ちに共感
＊乳房トラブルの対応
→突然の授乳中止により乳腺炎などのトラブルになりやすいことを説明。必要なら治療をすすめる。（母親により、急激なホルモンバランスによりうつ病を発症することもあり、主治医のフォローが必要）知識とし

て「母乳栄養中に注意すべき薬」を把握しておく。

症例5

場面設定：本人28歳、夫23歳
喘息治療の経緯あり
１か月前から咳症状あり
妊娠25週で以前の服用薬使用に不安
処方：アドエア250　60吸入用
　　1キット　1日2回　1吸入
　　プレドニン錠5mg　6錠/1　朝　3日分
資料探し：
①　添付文書
アドエア：妊娠または妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること(妊娠中の投与に関する安全性は確立していない)。
プレドニン：妊婦または妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険を上回ると判断される場合にのみ投与すること「動物試験（ラット、マウス、ウサギ、ハムスター）で催奇形作用が報告されており、また、新生児に副腎不全を起こすことがある」
②　文献「妊娠と授乳」
吸入ステロイド、β2刺激薬配合剤
妊娠中にＬＡＢＡ
　　(サルメテロール、フォルモテロール)
ＩＣＳ（フルチカゾンプロピオン酸エステル、ブデゾニド）を使用した喘息妊婦を対象にした研究サルメテロール暴露群385例とフォルテモール暴露群162例、フルチカゾンプロピオン酸エステル暴露群3190例とブデゾニド暴露群608例で低出生体重、早産との関連について比較したところ、ともに有意差は認められなかった。
プレドニン（妊娠中期・後期）
☆妊娠時期により変わる
現在わかっているステロイドによる胎児毒性は発育不全である。ステロイドの胎児毒性を考える際には胎盤通過性の違いが重要な因子になる。プレドニゾロンは胎盤にある11β-HSD2で殆ど不活化されるために胎児への移行性はわずかである。ステロイドパルス療法に使われるメチルプレドニゾロンコハク酸塩では30 ～ 70％とそれ相応のメチルプレドニゾロンが胎児に移行することを示す研究報告がある。
③　文献「妊婦・授乳婦の薬」
プレドニゾロン　総合分類　妊婦　要注意
④　文献「妊娠と薬」
プレドニン　奇形発生の危険度が高い絶対過敏期に本剤を服用した71例中69例は奇形などのない健常児を出産した。2例にみとめられた奇形はファロー四徴症と心房中隔欠損であった。相対過敏期に服用した5例はいずれも奇形などのない健常児を出産している。限られた情報ではあるが、本剤暴露群の出産結果は国内における自然奇形発生率を上回る変化とは考えられない
アドエア（サルメテロール･フルチカゾン）
β刺激薬の吸入を使用した喘息妊婦259例とβ刺激薬の吸入を使用してない妊婦295例を比較した研究で先天奇形の発生頻度の上昇はβ刺激薬の使用の有無に関係なかった。妊娠中に喘息治療の1つとして吸入β刺激薬の使用を支持すると結論している。奇形発生の危険度が最も高い絶対過敏期に本剤を吸入した30例はいずれも健常児を出産した。また相対過敏期に本剤を吸入した4例はいずれも健常児を出産した。喘息を合併し、妊娠中に吸入ステロイドを使用していた妊婦396例の出産結果が報告され、選定上の発生頻度は一般の妊婦と比較して高くはなかった。ブデゾニドが最も安全性が高いといわれる。
服薬指導
〇妊娠中の薬に対する不安について
→お薬使うことで赤ちゃんへの影響がないか心配ですよね（共感）。
→現在は妊娠25週に入り、赤ちゃんの奇形には影響ないと考えられている時期です。
→今回処方されているお薬は、赤ちゃんへ届きにくい性質のお薬なので妊婦さんでも使

えると考えられるお薬です。
○治療への不安について
→今、お母さんが喘息発作によって息苦しくなることで、お腹の赤ちゃんにも酸素がいきにくくなってしまう状況の方がよくありません。しっかり治療をして喘息発作がないようにしていきましょう。
＊気管支ぜんそくについて
妊娠前の喘息が重症であればあるほど悪化しやすく重症例の70%は悪化する。軽症例は20%以下にとどまる。→妊娠前から妊娠を想定して長期管理を考えるべき。
(妊婦喘息における長期管理)
第一選択は吸入薬で、経口剤、貼付剤の全身薬は次の選択。妊婦でも通常の長期管理と大きく変わらない。重症例の内服薬のステロイドはプレドニゾロン、メチルプレドニゾロン（胎盤で失活しやすく児へ移行しにくい）を用い、1日量を最大でも60mg以下とする。
症例6　省略
医師への疑義で変更があった場合
○投薬中止の場合
→処方医と相談の結果、妊娠中の母体と胎児の安全のため、投薬を中止してしばらく様子を見ることになりました。
→病状や自覚症状について何か変化があった場合は、すぐに受診してください。
○処方薬が変更の場合
→処方医と相談の結果、妊娠中の母体と胎児の安全のため処方が変更になりました。
→本剤は医師が妊娠を確認したうえで処方した薬で、母体の健康のために有用で、胎児への悪影響が少ないと考えられるお薬です
→自分の判断で服薬を中止すると、母体の健康を損ね、胎児にも悪影響を及ぼすことになりかねません。
→指示された用法、用量通りに服用して、勝手に変更しないでください。
以上、前半講義の内容を報告しました。
妊娠中、授乳中の服薬指導は本人と子を守るという、よりデリケートな対応が求められます。今回の講義で、参考になることが多々ありました。この流れに沿った服薬指導で患者さんに寄り添える薬剤師になりたいと思います。
講師の宮城先生､ありがとうございました。

「妊婦・授乳と薬」研修会報告2

宜野湾薬局
伊佐 要一

妊娠・授乳とくすりの勉強会に参加したので、後半部分の報告をしたいと思います。

＜乳児摂取量と乳児相対摂取量＞
まず、母親が薬を服用している時の母乳からの乳児の薬物摂取量と、乳児相対摂取量が以下の式で表されます。
☆乳児摂取量
＝乳汁中の薬剤濃度（mg/mℓ/kg)/日×
体重当たりの推定哺乳量
＝(母親の平均血中濃度×M/P)×
体重当たりの推定哺乳量（mℓ/kg)/日
※M/P＝母乳中の薬物濃度/血漿中の薬物濃度
☆乳児相対摂取量（RID)
＝乳児摂取量（mg/kg/日)/
母体投与量（mg/kg/日)×100
このRIDが10%未満であれば授乳OKとの判断になるそうです。
乳児が摂取する量が、母親が摂取する量の1/10程度であれば用量依存の作用は無視でき、ましてや毒性レベルにはならないと考え

られているのと、乳児はクリアランス機能が未発達でRIDは乳児の暴露量を過小評価する可能性があるが、計算式ではバイオアベイラビリティを100％とし血中濃度をCmaxと考えているため悪く見積もっているということでRIDが10％未満であれば、まず大丈夫と考えられているそうです。

例として、添付文書では授乳を避けることとなっているタミフルが挙げられていました。

以下、計算の流れを記載します。

条件

・成人がタミフル75mgを内服した時の最高血中濃度：360ng/mℓ
・オセルタミビルのM/P比（計算値）：6.8
・4か月の乳児の体重：5kg
・母親の体重：50kg

参考値

・離乳食開始前（15日目～5か月）母乳の摂取量はほぼ一定で780mℓ/日（体重換算では150mℓ/kg）
・離乳食開始後（6～8か月）：600mℓ/日
・離乳食開始後（8～11か月）：450mℓ/日

5kgの乳児の1日哺乳量　150mℓ×5＝750mℓとして、乳児摂取量
＝(母親の平均血中濃度×M/P)×
　　体重当たりの推定哺乳量（mℓ/kg)/日
＝(0.36μg/mℓ×6.8)×750mℓ＝1836μg/日＝1.8mg/日

母親の1日投与量150mg、体重が50kgであるとすると、乳児相対摂取量（RID)
＝乳児摂取量（mℓ/kg/日)/
　　母体投与量（mg/kg/日)×100
＝(1.8mg/5kg/日)/(150mg/50kg/日)
＝0.12×100＝12%

結果は12％となりましたが、RIDは平均血中濃度をCmaxで計算するなど悪く見積もっているため、この場合は授乳可と判断するそうです。

また、アモキシシリンのRIDの計算についても例題として解きました。

・成人がアモキシシリン250mgを内服した時のCmax（IFより）：3.68μg/mℓ
・アモキシシリンのM/P比：0.014～0.043→今回は悪いほうの0.043で計算
・5kgの乳児
・母親の1日投与量750mg。体重50kg。

以上の条件で計算するとRID＝0.15％となります。

M/P比のデータが無い場合は、薬物の酸性・塩基性、pKaから算出する方法もあるそうです。

・酸性薬物

$$\frac{M}{P}=\frac{1+10^{(\mathrm{pH母乳}-\mathrm{pKa})}}{1+10^{(\mathrm{pH血漿}-\mathrm{pKa})}}$$

・塩基性薬物

$$\frac{M}{P}=\frac{1+10^{(\mathrm{pKa}-\mathrm{pH母乳})}}{1+10^{(\mathrm{pKa}-\mathrm{pH血漿})}}$$

以上の式で求めることができます。

この値が1より大きいと母乳に移行しやすいことを示しています。

RIDはMMM(Medication and Mothers'Milk)などの書籍にも記載されているそうで、参考にする書籍やM/P比から計算する場合と酸性・塩基性とpKaから算出した場合とで違う値が出ることがあるので、複数の方法で確認するのがよいとのことでした。

＜授乳婦への薬剤選択ポイントのまとめ＞

授乳婦への投与可能な医薬品を選ぶ時

○乳児に適応のある薬剤を選ぶ。
○母乳中濃度のピークの時間をさける。
○服用前に授乳・搾乳をする。
○服用は、乳児が最も長時間睡眠する前に服用する。
○グルクロン酸抱合を受ける薬は服用を避ける。（新生児は脱抱合を受けやすく腸管循環で血中濃度が上がりやすくなるため）
○データが不明な薬の服用を避ける。

啓発・普及活動

琉球新報社「こども新聞」こども記者から取材を受ける

日時：平成29年7月21日（金）15:00 ～ 16:30
場所：会営薬局医療センター前

「薬剤師の仕事」を取材させてほしいとの依頼が、琉球新報社編集局社会部よりありました。

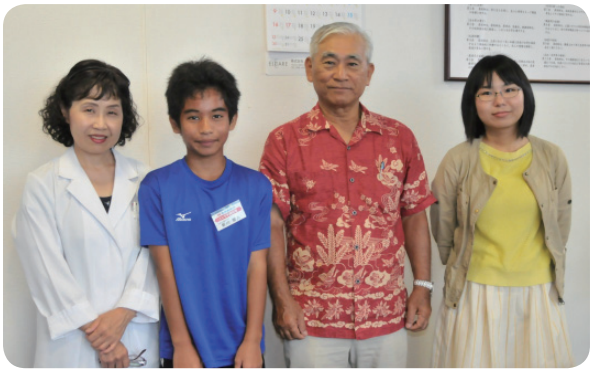
同社は、教育界と新聞社が手を携えて展開している「ＮＩＥ」（Newspaper　In Education＝教育に新聞を）運動の一環として、小学生記者による「琉球新報社こども新聞」を毎年9月1日に発行されています。1998年にスタートして今回で20回目の発行とのことです。こども達に記者体験を通して文章表現への興味を抱かせると共に、世の中の仕組みや出来事を知る喜び、取材を通した人との出会いの素晴らしさなどを経験してもらうことが目的とのことです。紙面には、政治、経済、社会、スポーツ、地域、教育、娯楽面など多くの分野が掲載されています。

こども記者は、那覇市立曙小学校6年生の新川黎人君で、お父様の薦めもあり、「自分は薬剤師を取材したい」と、琉球新報社のこども新聞の記者に応募したとのことです。

取材当日は、新川君と琉球新報社の宮城美和記者が訪れ、会営薬局医療センター前にて薬事情報センターの吉田典子氏が取材に対応しました。新川君からの多くの質問にも丁寧に答えられ、終始ほのぼのとした雰囲気の中で取材は行われました。調剤室での薬剤師の仕事も見学され、また、取材後は亀谷会長を訪問されました。

（報告：事務局　大城喜仁）

こども記者の新川 黎人 君(左)
琉球新報社の宮城 美和 記者(右)



取材対応：吉田典子（薬事情報センター）
亀谷浩昌会長

啓発・普及活動

宜野湾市初任教員研修会：職業人講話

日時：平成29年7月25日（火）14:00 ～ 16:30
会場：宜野湾市はごろも学習センター
講師：松尾 はつよ
対象：宜野湾市初任者教員17名

標記研修会は、「みんなでグッジョブ運動（沖縄県産業・雇用拡大県民運動）」の一環として、宜野湾市教育委員会が、子供達が医療産業に対する興味、関心を高める取り組みとして、初任教員向けに職業人講話を委託会社であるケイオーパートナーズと企画して開催しました。

薬剤師会からは、人材不足の現状や働く上で必要な能力などを伝え、かつ、薬剤師職の理解を促すために、職業人講話に薬剤師の講師を派遣していますが、派遣講師の中でも職業人講話を多くされてきた本会会員の松尾はつよ氏に、今回の宜野湾市初任教員研修会で職業人講話をして頂きました。

松尾氏のこれまでの職業人講話の経験から、子ども達へ伝えてきたことや、働くためにはコミュニケーション能力や会話をすることが大切であること、また、薬の効果や副作用を知るために説明書が読めないといけないことから国語力が必要なこと、仕事上グラフを見ることも多いため算数や数学も必須であ

ること等、学校の中で子ども達が学んでいる教科の大切さについても触れたことにより、教員自身が学校の中で教えていることが社会へ繋がっていることを実感する良い機会になったとの報告を受けました。

今後も、小中高校生はもちろん、教育関係者への職業人講話を引き続き行っていきたいと思います。

（文：事務局 大城喜仁）

啓発普及活動

「グッジョブ・miniスクール」における薬剤師職能の啓蒙活動について

日時：平成29年7月8日（土）13:00 ～ 14:00・14:10 ～ 15:10
会場：那覇市ぶんかテンブス館

万年堂薬局 平良店
新垣　梓

上記日程で、小学生対象のお仕事体験イベント「グッジョブ・miniスクール」が開催されました。本取組は、みんなでグッショブ運動推進月間の特別イベントとして企業や産業団体、教育機関、行政等、地域の大人たちが連携し、沖縄県の雇用情勢を全国並みに改善するため、県民が一丸となって取り組む運動を目的に開催されています。当日会場では、「お仕事・ものづくり体験」など14もの体験が用意され、那覇市内の小学生及び保護者を中心に、延べ648名が来場されました。（沖縄県商工労働部 雇用政策課 雇用企画より）

これまでに開催されたグッジョブ・サマースクールと同様に、参加の小学生には白衣を着てもらい、大人用の白衣の袖を折り曲げて裾を引き摺りながら歩き、薬剤師の話に耳を傾ける子ども達は、見ていてとても微笑ましいものでした。

午後1時開始の授業と午後2時10分開始の2コマで、約30名が参加してくれました。

まず、上里美矢子先生が薬剤師の仕事紹介を行いました。その後、小学生は7人ずつ2つのグループに分かれ、2つの体験を行いました。

体験コーナーは次のとおりです。

①くすりの実験（鉄剤とお茶の相互作用、カプセル服用時の注意点）　担当：新垣 梓

鉄剤シロップとお茶を混ぜ、色の変化を視覚的に確認し驚いていました。また、カプセルが少量の水では指にくっついてしまうことを初めて知った様子でした。2つの実験を通して、薬は「適量の水」で飲むことが大切だと学んでいました。また、実際に吸入デモ器を使った吸入力チェック体験はピーピーと音を鳴らすことが出来、楽しそうにしていました。

②一包化　担当：石川 有美子

模擬処方箋とカラーコーティングのミルクチョコレートを用いて一包化を体験してもらいました。色の異なるチョコレートを、模擬処方箋通りに朝・昼・夕と分けて分包しました。子ども達にとって、見慣れない大きな機械を使っての体験はかなり本格的な作業となりました。一包化されて出てきた時の子ども達のキラキラした顔がすごく印象的でした。

子ども達からの「楽しかった」や「薬はちゃんと水で飲む」、「（調剤の際に）薬を間違ってはいけない」等の声を聴くことが出来、子ども達が体験を通し、将来の夢や進路として薬剤師への憧れやきっかけを伝えることが出来たのではないかと思います。今後の啓発・普及活動の励みになる良い一日となりました。

左より、新垣梓氏、上里美矢子氏、石川有美子氏

吸入力チェック体験

一包化体験

◘啓発薬剤師　○新垣 梓　○石川 有美子　○上里 美矢子（五十音順・敬称略）

啓発・普及活動

しごとミュージアム2017参加報告

日時：平成29年7月11日（火）13:00 ～ 19:00
会場：沖縄コンベンションセンター 展示場

去る7月11日（火）に開催された主に高校生を対象に仕事紹介をする全国専修学校各種学校総連合会主催の「しごとミュージアム」に、薬剤師ブースの出展をしました。今回で6回目の参加とのことです。薬剤師職能啓発の一環として、広報委員会と青年薬剤師部会が協働で企画、運営しているとのことで、事務局では大城課長と長嶺さんが担当されており、私は初めての参加でしたが、大変有意義な日になりました。

開催期日が薬学生の実務実習期間中ということもあり、薬学生実務実習受入委員会の協力を得て、4年前から薬学生も同ブースにて啓発活動をして頂いているとのことです。実務実習指導薬剤師の新垣紀子先生と西川裕先生が見守る中、薬学生はブースに訪れた高校生に薬学科への進路、どのような学習をすればよいのか等、丁寧に相談を受け付けていました。高校生との年齢も近いことから話し易く、楽しくされていたのが印象に残りました。

主催者側からの情報では、今年は高校生だけでも約2,600人の参加があったとのことです。薬剤師ブースには80余名が訪れ、69名から「薬剤師のイメージについてのアンケート」を得ることができました。

（沖縄県薬剤師会事務局　宮城 豊英）

＜啓発活動者＞
薬剤師：〇新垣 紀子　〇西川　裕
薬学生：12名

しごとミュージアム

県内の高校生および若年者を対象に、コンピュータ・情報、美容・理容・ファッション、語学・旅行、ホテル・ブライダル、公務員・法律、保育・幼児教育、建築・土木・インテリア、自動車・航空・機械整備、調理・栄養、医療・福祉・介護など200以上の様々なジャンルの仕事を紹介するイベント。全国専修学校各種学校総連合会は7月11日を“職業教育の日”と制定しており、沖縄県専修学校各種学校協会は、仕事に就くために必要な専門的技術や技能・知識を教授する職業教育機関として同フェスタを主催。沖縄県が全国ワーストの失業率や新規高卒者の無業者数（率）が全国平均の約3倍で就職内定率も全国ワーストとなっていることから、若年者の就業意識の啓発と各分野の職業を体験学習する機会として開催している。

月例相談会

第145回健康とおくすり相談会報告

日時：平成29年6月11日（日）13:00 ～ 16:00
会場：サンエー那覇メインプレイス
担当：那覇地区薬剤師会

いしみね薬局
山内 優香

地元沖縄へ10年ぶりに帰省し、薬局薬剤師として働き始めて早4ヶ月が経ちました。勤務先での業務にも慣れてきたので、沖縄県の薬剤師の取り組みを知るべく、また、他の施設の薬剤師の方々のお考え、指導スキルを学ばせて頂きたく、今回の相談会への参加を決意しました。当日は薬剤師の先生方、里帰り実習に来ている薬学生で行い、新参者の私は実習生の方々と混じり、測定器の使用方法から学ぶこととなりました。

病院、薬局、ドラッグストアのそれぞれで勤めた経験がありますが、検査値をデータとして見ることはあっても、自ら機器を操作し測定するのは初めての経験でした。今回使用した機器は動脈硬化測定器、体成分分析、血圧計の3つで、回数を重ねていくうちに操作も慣れてゆきました。その他にも、薬剤師会本部には血糖値や骨密度測定器があり、これらの検査値に対する需要は高いと思われるので､今後扱えるようにしておきたいと思います。

会場はメインプレイスの駐車場階ロビーでの開催で、目立たない場所であるにもかかわらず大盛況で、列ができるほどでした。来場の方々は高齢者のみならず、幅広い年齢の方が測定されていました。医療保険制度の整った日本では、ご自身の健康は病院任せといった方が多い印象がありましたが、意外とセルフメディケーション、ご自身の健康状態を把握しておこうという姿勢が普及してきているようです。大部分の来場者は、血圧が少し高め、筋肉量が平均以下、体脂肪が平均以上、血管年齢はおおよそ基準範囲内といった結果が多く見られ、基本的な生活習慣病に対する指導を行うことが多かったです。とはいえ、生活指導というのは実際とても難しいもので、教科書通りの正論を唱えるだけでは、その方のやる気は削がれてしまいます。それぞれの生活スタイルや環境、性格など考慮し、その方の立場になって考えていかなければいけません。また、普段の業務では薬についての指導をメインに行いますが、今回、薬の説明をすることはほとんどありませんでした。そうなると、栄養学、スポーツ科学など様々な分野の知識が必要であり、生活指導の奥深さを再認識しました。

また、健康意識のある方々はこのような会にも積極的にご参加下さいますが、それを遠目に見ながら座っている方、過ぎ去っていく方々の中には肥満・メタボリックシンドロームであると見受けられる方も多く、本当に指導が必要な方というのはあまり寄り付かない傾向にあるのではないかと感じました。そういった方々に対してなるべく声がけをして周り、気軽に参加できるようにフレンドリーな姿勢で取り組みました。メインプレイス等の商業施設での開催は、このような方々に対しても手を伸ばせるチャンスができ、大変意義のあるものであると感じます。医療施設の中だけでなく、街に出ていくことは大変重要であると身をもって実感しました。特に沖縄はメタボリックシンドローム該当者、予備軍割合が全国ワースト1位という結果も出ており、県全体で検診等々力を入れていく必要があるようです。

もう一点、今回印象深かった事は、実習生

の参加があった事です。フレッシュで親近感の湧きやすい学生がいることで場が明るくなり、ルーティーンワークに慣れてしまっている我々にも刺激となります。また、薬学部のない沖縄は、就職先としてのアピールがしづらいのではないかという印象があります。実習を通して、沖縄の薬剤師の積極的な取り組み、質の高さ、地域の方々との繋がりの深さを見せることで、学生のモチベーションアップへとつながり、ここで学びたい、働きたいと思わせることができるのだろうと思います。今後、私も日々自己研磨に勤め、そのように思わせることのできるかっこいい先輩薬剤師となれるよう勤めていこうと思います。

今回、会場でお世話になった薬剤師・実習生の皆様、本当にありがとうございました。

◘健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

○吉田　洋史　○山内　優香　○森方さゆり　○橋　美喜子　○西川　裕
○橋本美津子　○中村仁奈子　○新垣　紀子　○渡具知一枝　○山道　峻也

月例相談会

第146回健康とおくすり相談会報告

日時：平成29年8月27日（日）13:00 ～ 16:00
会場：サンエー那覇メインプレイス
担当：那覇地区薬剤師会

アイワ薬局 安謝店
糸満 竜樹

平成29年8月27日に開催された那覇地区薬剤師会主催の「第146回健康とおくすり相談会」（以下健康相談会）へ参加致しましたので報告させて頂きます。今回の健康相談会は、サンエー那覇メインプレイスの4階フロアで、8月27日（日）13時～ 16時　相談員の薬剤師7名と薬剤師会のスタッフ2名で行われました。参加された相談者は20名でした。

当日は、機器測定のブースと相談・面談のブースで2か所に分かれ、相談者は先に、機器測定のブースに案内し測定を行いました。その後、相談・面談のブースへ案内、そこで「お薬相談票」をもとに生活習慣等の聞き取りをしながら測定結果の説明および、健康相談を致しました。

用意された測定機器は、3種類あり、相談員の薬剤師5名で操作を行いました。測定機

器の種類は、「体成分測定」「動脈硬化度測定」「血圧測定」でした。参加された相談者の方々も、「動脈硬化度測定」というのは、あまりやってもらったことがないようで、皆様この測定を目当てに参加されていたような印象があります。「体成分測定」も体重・筋肉量・脂肪量・基礎代謝などが数値で表示されるため、測定結果を説明して欲しいという声が多くありました。「血圧測定」は、いつもより高めの数値が出ている方が多いようで、普段の血圧も聞きながら、対応しました。

13時のスタート時は、ぱらぱらと相談者の方がいらっしゃる程度でしたが、14時頃からは行列も出来て、自分は主に測定機器ブースで相談者を対応しながら、「体成分測定」結果のデータの説明をしたり、「血圧測定」後の数値の相談を受けたり、「お薬相談票」を聞き取りしながら書き込んで、相談・面談ブースに案内したりしているうちに、あっという間に16時の終了となったなと思っています。私個人として、健康相談会への参加は2回目で慣れないことも多く、少し戸惑いながらの参加でしたが、他の相談員の方々のサポートのおかげで、無事に終了することが出来ました。

当初は、相談会へ参加することが目的でしたが、実際に参加してみて、健康相談のニーズの高さを感じました。実際に機器を使って測定をする相談会であることも、魅力の一つだったのかもしれません。「何が測定できるわけ？」と聞かれ、「体重や筋肉量、血圧、血管年齢です」と答えると、「普段から気になっているんだよね～」「面白そうだからやってみるね」といった感じで、相談者の行列が出来ました。次の測定を待っている間にも、「体成分測定の結果を説明してよ」とお願いされたり、「色々分かるんだね」と楽しそうな感じの相談者が多かった印象あります。

お薬相談票に沿って聞き取りを行うことでも、食生活や運動習慣などが、詳しく聞けて、普段の投薬時の説明とは勝手は違いますが、今までの経験の中で得た情報をもとに、拙いながらもアドバイスが出来たのではと思っています。今後は定期的に参加をし、食事・運動面での情報を普段から身に着け、相談・面談のブースで相談者対応ができるようにしたいなと思っています。

以上で、非常に簡単ですが、健康とおくすり相談会参加報告とさせて頂きます。当日準備して頂いた薬剤師会のスタッフの皆様、測定データの説明の仕方や相談者対応をご教授頂いた薬剤師の先生方に感謝致します。

◘健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

○川満　直紀　　○渡具知一枝　　○平良　博文　　○平良　栄子　　○糸満　竜樹
○仲宗根かおり　○上江洲美由紀

地区だより

平成28年度中部地区薬剤師会総会報告

日時：平成29年6月11日（日）14:00 ～ 16:00
会場：沖縄市福祉文化プラザ

平成29年6月11日沖縄市福祉プラザにおいて、平成28年度中部地区薬剤師会総会が開催されましたので報告致します。

当日は暑さが厳しく13名（委任状78名）と少ない参加人数となりましたが、総会からFAXコーナーの今後についてのディスカッションまで、提案も多く活気ある会となりました。

開会の挨拶に続き、伊佐常隆中部地区薬剤師会会長による会長挨拶がありました。

引き続き議長が選出され、平成28年度の活動経過報告・会計報告・会計監査報告が行われ参加者に承認されました。

次に、新理事選出が行われ満場一致で承認されました。

新理事は､伊佐常隆会長を筆頭に仲座方利･普久原隆両副会長と体制変更はなく、他の担当理事も継続する事になりました。

最後に新役員により、平成29年度事業計画と予算計画の発表があり、満場一致で承認されました。

総会終了後に、「FAXコーナーの今後について」ディスカッションを行いました。

中部地区は、近年FAXコーナーの利用者が減ってきており、このままでは運営自体が出来なくなる状況になってきております。中期的な事も視野に入れつつも、短期的な対策をどう講じていくかについて活発な意見が交わされ、その中から実現可能な内容について活動していく事が確認され終了しました。

平成27年度に中部地区の代表理事を拝命し、それまで地区薬剤師会の活動には殆ど参

中部地区代表理事
佐藤 雅美

加した事の無かった私が、地区薬と県薬剤師会とのパイプ役を努める事が出来ているのは、沖縄県薬剤師会や中部地区薬剤師会の理事の方々に暖かく教え導いて頂いたお蔭だと思っております。

中部地区薬剤師会は地区薬の中でも、家族的な雰囲気が残る希少？な会ではないかと感じています。月1回の理事会では、県薬の報告や地区の課題について話し合うのは勿論ですが、中部地区の分業の歴史知る諸先輩方からその当時の大変さや、力強い活動について教えて頂く事も少なくありません。

また、日々の業務での問題点を共有したり政治力の大切さについて確認したりと、時には寺子屋のような、また時には井戸端のような感じで活動を行っております。

諸先輩方が築いてきた事を土台に、これからの中部地区薬剤師会を考える時、地区理事会から会員へのタイムリーな発信が必要ではないかと感じています。それにより、理事だけでなく多くの会員が（例えばイベントの）企画～運営まで関われるような活気ある会に出来るのではないかと一人想像しながら総会の報告とさせて頂きます。

中部地区の全世代の薬剤師の集合知で、地域から愛され・頼られる薬局づくりを！

地区だより

第15回 北部地区薬剤師会定時総会報告

日時：平成29年6月24日（土）19:00 ～ 21:30
会場：ホテルゆがふいんおきなわ

平成29年6月24日（土）、19時よりホテルゆがふいんおきなわに於いて、第15回北部地区薬剤師会定時総会が行われ、平成28年度の事業経過報告・決算報告、平成29度事業計画・予算案等の報告議案が審議されました。

冒頭では浅沼会長より、これまでの感想とともに、「古紙回収事業及び不動在庫ネットワーク事業の継続、研修会は新たな試みとして独自で外部講師を招き、日々の業務に直結する内容の研修会や県立北部病院の薬剤部と共同でインスリン自己注射・血糖測定体験セミナーを開催。また、会営薬局においては、長年の課題であった設備充実と人材確保ができました。対外的な活動においては、理事を中心に薬物乱用防止協会に登録し、名護さくら祭りの仮装パレードに参加する等して北部地区薬剤師会のアピールを行いました。今後、薬局・薬剤師を取り巻く環境や北部の地域医療における課題を見据え取り組んでまいります。幾分、若い執行部で至らない点等多々あるかと思いますが、精一杯頑張っていきますので、今後共ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。」と挨拶されました。

平成28度事業経過報告では、これまで会員が地域医療の中で薬局・薬剤師の職能を通し地域貢献できるよう支援事業を行ってきました。

昨年度末、生産性向上設備投資促進税制を活用して会営薬局に導入した3つの調剤支援システムにおいて、業務の効率化、正確性の向上を図り、その分析を行いました。

また、広報活動においては、ホームページで当会の概要や活動状況及び各会員薬局の情報を掲載し、薬剤師だけでなく一般市民に幅広く北部地区薬剤師会の事業を紹介することが出来ました。前年に引き続き、「北部地区薬剤師会公式Facebook」を活用し、情報発信に取り組みました。継続して年2回、会報誌を発行し、当会会員や他地区の方にも活動状況を報告しました。

〔 式次第 〕

1. 出席人員確認・宣言
2. 開会の辞
3. 会長あいさつ
4. 議長選出
5. 議題
6. 閉会の辞

報告　第1号　平成28年度会務並びに事業経過報告
　　第2号　平成28年度会計監査報告
議案　第1号　平成28年度決算承認の件
　　第2号　平成29年度事業計画案の件
　　第3号　平成29年度予算案の件
　　第4号　役員選任の件
　　第5号　顧問承認の件
　　第6号　平成29年度借入金最高限度額承認の件

平成29年度事業計画では、地域医療の中で活躍できるよう今年度も「備蓄センター運営」「学術研修会等の開催」「古紙回収事業」「廃棄医薬品回収事業」「不動在庫ネットワーク事業」等の会員支援事業を継続して行います。会営薬局の薬剤師が定数確保出来たため、今年度は会営薬局を中心として新たな会員支援事業を模索します。昨年末に入職した会営薬局の薬剤師に認定実務実習指導薬剤師に必要な研修を受講させており、平成29年7月には会営薬局の当該指導薬剤師が誕生する予定です。更に8月及び2月には名古屋市立大学のアドバンストの実習（地域医療）の受け入れも予定しています。決議事項につきましては、審議の結果、議案の全て満場異議なしで承認され、議案4号 役員選任の件につきましても浅沼健一先生が再任し、新執行部案が承認されました。

また、総会終了後には懇親会が行われ、多くの会員の先生方が参加されて、和気藹々とした雰囲気で全日程を終了しました。

（報告・写真提供：北部地区薬剤師会事務局）

お知らせ

地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！

年々、地区（支部）、部会の活動が活発化しております。

ぜひ“おきなわ薬剤師会報”へ活動・状況報告等を投稿して下さい。活動報告以外の情報も歓迎します！

平成29年度沖縄県薬剤師会新入会員

（平成29年4月1日～平成29年9月末日入会分）

氏　名	施設名称	出身校
安次富　大	すこやか薬局 おもろまち店	北海道大学
新井　康之	JR九州ドラッグイレブン薬局 新都心おもろまち店	城西大学
新垣　裕章	新垣薬局 かねひで店	第一薬科大学
新垣　麻衣子	にしばる薬局	名城大学
新垣　優美絵	すこやか薬局 新川店	徳島文理大学
磯村　哲朗	福寿薬局	名城大学
植木　基彦	きずな薬局 桑江店	第一薬科大学
上原　大知	すこやか薬局 知花店	広島国際大学
上原　美佳	サン薬局	徳島文理大学
大形　智南美	JR九州ドラッグイレブン薬局 佐敷店	徳島文理大学
嘉数　達紀	ゆい経塚薬局	徳島文理大学
嘉数　麻里	アイン薬局 首里店	九州保健福祉大学
垣花　チエミ	ひかり薬局 宜野湾店	北里大学
笠原　哲	りんご調剤薬局 浦西店	城西大学
神山　ちや子	名護中央薬局 城店	城西大学
菊井　景子	㈱たいよう薬局	昭和薬科大学
喜納　徹太郎	同仁薬局	第一薬科大学
具志堅　佑樹	保険薬局プラネット	明治薬科大学
國吉　佳央梨	さわやか薬局	第一薬科大学
小濵　大	琉球クオール薬局 登川店	摂南大学
小山　秀幸	ぴぃぷる薬局 経塚店	星薬科大学
齋藤　譲二	豊見城薬局	北海道医療大学
佐久本　千秋	まごころ薬局 山内店	昭和大学
杉森　千里	すこやか薬局 田原店	昭和大学
鈴木　里史	いしみね薬局	帝京平成大学
平良　綾子	北山病院	名城大学
髙瀬　悟	うちどまり薬局	徳島大学
瀧　浩章	ヴァインドラッグあがり浜薬局	愛知学院大学
竹本　大次郎	JR九州ドラッグイレブン薬局 アクロスプラザ古島駅前店	熊本大学
田尻　卓也	すこやか薬局 大北店	城西大学
知念　利孝	アドベンチストメディカルセンター	福岡大学
渡久山　美智子	つつじ薬局	名城大学
名嘉　智紗	サンキュウファーマシー うむさ店	神戸学院大学
永井　賢作	那覇市立病院薬局	福岡大学
長尾　依里子	アイエス薬局 安里店	帝京平成大学
仲野　優子	ふく薬局 名護店	神戸薬科大学
新田　邦宏	すこやか薬局 おもろまち店	明治薬科大学
波多江　直也	アイン薬局 石垣店	明治薬科大学
春田　崇彰	㈱ダイコー沖縄	広島国際大学
比嘉　豊	すこやか薬局 高原店	九州保健福祉大学
福田　篤	ゆい薬局 真栄里店	日本薬科大学
福地　健太	おきなわ薬局店	徳島文理大学
福嶺　博子	合資会社　秀水	昭和薬科大学
細谷　基貴	メルシー薬局 かねぐすく	横浜薬科大学
又吉　辰磨	サンキュウファーマシー うむさ店	第一薬科大学
宮城　玲子	つつじ薬局	共立薬科大学
屋嘉比　沙都	屋嘉比薬局	第一薬科大学
安村　慶子	むるぶし薬局	北里大学
山内　優香	いしみね薬局	明治薬科大学
山口　博道	すばる薬局	昭和薬科大学
山里　美貴	ハープ薬局	昭和薬科大学
山城　あやの	ビオラ薬局	名城大学
山城　尚子	ことり薬局	福山大学

（五十音順、敬称略）

薬事情報おきなわ No.246
2017年 8-10月号 ： Vol.32 No.4
薬事情報センター TEL：098-963-8931
FAX：098-963-8937

薬価基準追補収載品目

●新医薬品　平成29年8月30日付

区分	販売名 （　）内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名：適応症・効能効果
内用薬	ビプレッソ徐放錠50mg （XR50）	50mg1錠	71.00	アステラス製薬	**クエチアピンフマル酸塩：**双極性障害のうつ症状治療薬（双極性障害におけるうつ症状の改善）（新効能、新剤形）
	ビプレッソ徐放錠150mg （XR150）	150mg1錠	188.60		
	カナリア配合錠 （カナリア）	1錠	300.30	田辺三菱製薬	**テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物/カナグリフロジン水和物：**選択的DPP-4阻害剤/SGLT2阻害剤　2型糖尿病治療剤（2型糖尿病　ただし、テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物及びカナグリフロジン水和物の併用による治療が適切と判断される場合に限る）（新医療用配合剤）
	オルミエント錠2mg （@/2）	2mg1錠	2,694.60	日本イーライリリー	**バリシチニブ：**ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害剤（既存治療で効果不十分な関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む））（新有効成分）
	オルミエント錠4mg （@/4）	4mg1錠	5,223.00		
	アメナリーフ錠200mg （MA211）	200mg1錠	1,469.70	マルホ	**アメナメビル：**抗ヘルペスウイルス剤（帯状疱疹）（新有効成分）
注射薬	スピンラザ髄注12mg	12mg5mL1瓶	9,320,424	バイオジェン・ジャパン	**ヌシネルセンナトリウム：**脊髄性筋萎縮症治療剤（脊髄性筋萎縮症）（新有効成分）
	ジフォルタ注射液20mg	20mg1mL1瓶	89,632	ムンディファーマ	**プララトレキサート：**抗悪性腫瘍剤（再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫）（新有効成分）
	ケイセントラ静注用500	500国際単位1瓶（溶解液付）	35,004	CSLベーリング	**乾燥濃縮人プロトロンビン複合体：**血漿分画製剤（静注用人プロトロンビン複合体製剤（ビタミンK拮抗薬投与中の患者における、急性重篤出血時、又は重大な出血が予想される緊急を要する手術・処置の施行時の出血傾向の抑制）（新有効成分）
	ケイセントラ静注用1000	1,000国際単位1瓶（溶解液付）	65,225		

＊識別記号の「@」は製薬会社のマークの代用としています。

Medical News

●新薬「ソリリス」副作用で妻死亡　夫が京大病院提訴へ（京都新聞 7月10日）

京都大医学部付属病院で重い副作用がある薬の情報が共有されず、妻が死亡したとして、夫らが京大や主治医を相手取り、1億8750万円の損害賠償を求めて京都地裁に提訴することが分かった。新薬「ソリリス」による死亡例は国内初。女性は、難病指定の「発作性夜間ヘモグロビン尿症」のため、2011年から治療を受けていた。16年4月、妊娠に伴い血栓症予防のため「ソリリス」の投与を開始。同病院で8月1日に長男を出産後も通院していた。同月22日、薬剤投与後に自宅で急激な発熱に見舞われ、産科に連絡したが、助産師が「乳腺炎と考えられる」とし、自宅安静を指示。しかし容体は悪化し、翌日髄膜炎菌敗血症で死亡した。

●NHK：「がん見落とし」報道　「検診の評価困難」がんセンターが指摘（毎日新聞 7月14日）

青森県が実施したがん検診の調査結果について、NHKは6月29日のニュースで「青森県が県内10町村の検診受診者を調査した結果、胃がんで40%、大腸がんで42.9%、子宮頸がんで28.6%がんが見落とされた可能性がある」と報じた。それに対し、国立がん研究センターは13日、「調査は予備的なもので、結果から検診の見落としを評価することは困難」との声明を発表した。

●2割以上は情報提供せず　医薬品の販売サイト（共同通信 8月7日）

厚生労働省は4日、一般用医薬品のうち、副作用リスクが比較的高い第1類を販売するインターネットサイトの23.2%が販売時に副作用などの情報提供を実施していなかったとする2016年度の調査結果を公表。調査は昨年10～12月に実施。508の販売サイトを覆面調査した結果、副作用や使用上の注意などに関する情報を提供していたサイトは76.8%、店舗販売では89.4%だった。

●健康食品で薬物性肝障害、国民生活センターが注意呼びかけ（読売新聞 8月16日）

同センターには2014年8月以降、全国の医師から「健康食品が原因で薬物性肝障害になった患者がいる」との情報が計9件寄せられた。特定保健用食品で重症になり、1か月以上入院したケースもあった。健康食品に問題はなく、摂取した人の体質が原因とみられる。同センターでは「発症はまれだが、劇症化すれば死亡の恐れもある。倦怠感や食欲不振など不調を感じたらすぐに摂取をやめ、医療機関を受診してください」としている。

●病院の8割、外国人の外来患者受け入れ…日本語で意思疎通「困難」65％（読売新聞 9月1日）

2015年度に外国人患者を受け入れた全国の医療機関は、外来患者79.7%、入院患者58.5%に上ることが、厚生労働省の調査で分かった。そのうち、日本語でのコミュニケーションが難しい患者がいたと答えたのは65.3%。使った言語（複数回答）は、英語が56.8%で最も多く、次いで中国語26.6%、日本語26.0%となった。一方、医療通訳を使ったことがあるのは12.7%だった。調査は昨年、救急患者を受け入れる病院など3761病院を対象に実施、1710病院が回答した。

●美容サプリメント指導へ（毎日新聞 9月5日）

女性ホルモン活性成分があるマメ科の植物「プエラリア・ミリフィカ」を原料とする美容サプリメントで、生理不順など健康被害が出ている問題で、厚生労働省は4日、「原材料の安全性が十分に確保されていない」と指摘。事業者が厚労省の健康食品安全性ガイドラインを順守できない場合、製品の取り扱いを中止するよう指導する方針を決めた。また、不正出血などのリスクを消費者に知らせるよう事業者に求める。近く自治体や関連業界に通知する。

●院外の技術料、院内の3.3倍－「見合うサービスなのか」（薬事日報 9月4日）

内閣府がまとめた「調剤・薬剤費の費用構造や動向等に関する分析－調剤技術料の形成過程と薬局機能」によると、外来薬剤費1000円当たりの技術料について、「院外処方は院内処方時の3.3倍」とのデータを示し、「高い技術料に見合うサービスが患者に提供されているのか」と疑問を投げかけた。分析は、医薬分業の背景にある外来投薬に係る技術料の費用構造を明らかにし、調剤技術料、薬局・薬剤師のあり方を検証するために行った。

●患者宅に医薬品郵送可能－薬局での服薬指導後に～経産省（薬事日報　9月22日）

経済産業省は、薬局事業者が患者の待ち時間を短縮する目的で、薬剤の調製前に薬剤師が患者に服薬指導を行い、その後、薬剤を郵送するなどのサービスを行っても、「調剤された薬剤に関する情報提供および指導等」を規定した薬機法第9条の3第1項には抵触しないとの見解を示した。経産省では、事業者が照会することができる「グレーゾーン解消制度」を運用。同制度を通じて所管大臣に法律上の取り扱いを確認した上で、規制の適用の有無を回答している。

●かかりつけ、6割が知らず－薬局への期待は「利便性」～健保連調査（薬事日報 9月27日）

健康保険組合連合会は25日、医療と医療保険制度に関する国民意識調査の結果を公表。薬局の利用状況について、かかりつけ薬局・薬剤師を持っている人は13.4%と少ないことが判明。かかりつけ薬剤師の仕組みを知らないとの回答は62.3%に上るなど、認知度の低さが浮かび上がった。調査は、全国の20 ～ 70代の2000人を対象にインターネット上で行ったもの。

●薬局ヒヤリ・ハット上半期～増える疑義照会で事故防止（読売新聞 9月29日）

日本医療機能評価機構は26日、2017年1 ～ 6月までに薬局で発生・発見したヒヤリ・ハット事例の集計報告を公表した。報告件数は2627件、特に疑義照会関連の割合が昨年7 ～ 12月の下半期からさらに増加し、33.7%と初めて3割を突破。薬局薬剤師が処方の誤りに気づき、疑義照会することにより、水際で事故を防いでいる事例が増加している傾向がうかがえ、約半数の事例で薬剤変更や薬剤削除につながっていることが明らかになった。

●調剤ミスか、60代患者死亡　京大病院、高濃度注射薬（共同通信 10月4日）

京都大病院は3日、薬剤師が通常の約700倍の高濃度の注射薬を調剤し、自宅で投与した60代の女性患者が死亡したと発表した。病院によると、薬剤師2人が8月28日、患者が自宅で使用するための注射薬「セレン注製剤」を、処方箋より高濃度で調剤。患者は自宅で点滴後の9月26日夜、背中に痛みを訴え、翌朝に同病院で処置を受けたが、亡くなった。患者の血液を調べると、738倍の濃度の薬が投与されていたことが判明した。

●医療機関が禁止薬物を処方　愛媛国体、県側は注意喚起（共同通信 10月10日）

愛媛国体で、参加選手が同県内の医療機関から禁止薬物を含む薬を処方、投与されたケースが3件あったことが9日、分かった。意図的ではなく、確認不足が一因とみられる。愛媛県体育協会は日本体育協会に状況を報告、医師会には注意喚起した。関係者によると2人の選手が大会前に受診した際、処方薬に禁止薬物が含まれていた。1人は事前に気付いて使用を控え、もう1人は摂取後に知り、本来は禁止されている薬の使用に関するTUE（治療目的の特例措置）を日本アンチ・ドーピング機構（JADA）に申請した。また、大会中救急搬送された選手に禁止薬物を含む痛み止めが投与され、現在JADAに申請しているという。

●早産予防薬で子にぜんそく　長期間の使用に注意（共同通信 10月11日）

国立成育医療研究センターのチームは、妊娠時に早産予防の目的で使われる子宮収縮抑制剤「塩酸リトドリン」を投与された94人と、投与されなかった1064人を比較。薬を使用した場合、子どもが5歳になった時のぜんそくの有症率が13.8%だったのに対し、使わなかった場合は9.2%と差が出た。同センターは、「使用が長期にわたる場合は注意すべきだ」と指摘している。

●カリウム誤投与防げ　看護協会がキャンペーン（共同通信 10月13日）

不整脈や心停止など重大事態を招く可能性のあるカリウム製剤の投与間違いが後を絶たないとして、日本看護協会が誤投与撲滅に向けたキャンペーンを始めた。医療機関に配布するチラシでは実際に起きた事例を紹介し、正確な知識や取り扱いに関するルールの必要性を指摘。特設サイトなどで、各施設が自らリスクを点検し、具体的な取り組みを進めるよう呼び掛けている。

医療事故情報収集等事業 医療安全情報　No.127　2017年6月

公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業
医療安全情報

2013年から2015年に提供した医療安全情報

No.127　2017年6月

2016年にも再発・類似事例が報告されています

◆2013年から2015年に提供した医療安全情報（No.74～109）のうち、2016年に再発・類似事例が報告されたタイトルおよび件数は以下の通りです。なお、報告件数が5件以上のタイトルのみ事例を掲載しています。

番号	タイトル	2016年の報告件数
No.77	**ガベキサートメシル酸塩使用時の血管炎（第2報）** 第1報：医療安全情報No.33	1件
No.78	**持参薬を院内の処方に切り替える際の処方量間違い**	2件
No.80	**膀胱留置カテーテルによる尿道損傷**	7件
	看護師は膀胱留置カテーテルを挿入した際、カテーテル内に尿の流出はなかったが、禁食のため膀胱に尿が溜まっていないと考え、バルーンに蒸留水を注入したところ、カテーテル内に血液が流出したため、抜去した。その後、泌尿器科医師が尿道損傷と診断し、膀胱瘻を造設した。	
No.82	**PTPシートの誤飲（第2報）** 第1報：医療安全情報No.57	8件
	準夜勤看護師は、PTPシートを1錠ごとに切り離したプロチゾラム錠を、一包化の薬包から出した薬剤と一緒に薬杯に入れ、患者に渡した。深夜勤看護師は、プロチゾラム錠のPTPシートの確認ができていないと申し送られた。翌朝患者にPTPシートがあるか確認した際、患者は「喉のあたりがちくちくする。」と話した。その後、X線、CT撮影で食道に異物らしきものが残存していることがわかり、内視鏡でPTPシートを除去した。	
No.85	**移動時のドレーン・チューブ類の偶発的な抜去**	8件
	術後、患者を手術台からストレッチャーに移動する際、看護師は患者の腹部の上に採尿バッグを置いたが、採尿バッグのチューブの位置を確認していなかった。患者を移動したところ、チューブが手術台のサイドレールに引っかかり、膀胱留置カテーテルが抜けた。	
No.87	**足浴やシャワー浴時の熱傷**	1件
No.89	**シリンジポンプの取り違え**	1件

医療事故情報収集等事業
医療安全情報

No.127　2017年6月

2013年から2015年に提供した医療安全情報

番号	タイトル	2016年の報告件数
No.90	**はさみによるカテーテル・チューブの誤った切断**	1件
No.92	**人工呼吸器の配管の接続忘れ**	2件
No.93	**腫瘍用薬のレジメンの登録間違い**	2件
No.94	**MRI検査室への磁性体（金属製品など）の持ち込み（第2報）** 第1報：医療安全情報No.10	3件
No.99	**胸腔ドレーン挿入時の左右の取り違え**	2件
No.101	**薬剤の投与経路間違い**	5件
	医師は、静脈内にオンコビン、髄腔内にメソトレキセートとキロサイドを投与する予定であった。患者の抗がん剤は薬剤部で調製され、静脈内投与の薬剤が入ったトレイと髄腔内投与の薬剤が入ったトレイが病棟に届いていた。髄腔内投与の際、看護師は、患者のトレイが1つしかないと思い込み、トレイ内の注射器に入ったオンコビンを準備した。医師は、看護師から差し出された薬剤を清潔な注射器に吸い、オンコビンを髄腔内に投与した。	
No.102	**口頭指示の解釈間違い**	1件
No.104	**腫瘍用薬処方時の体重間違い**	1件
No.105	**三方活栓の開閉忘れ**	3件
No.106	**小児の薬剤の調製間違い**	3件
No.108	**アドレナリンの濃度間違い**	1件
No.109	**採血時の検体容器間違い**	1件

◆他の再発・類似事例につきましては 、平成28年年報に掲載いたします。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
http://www.med-safe.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0252（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.med-safe.jp/

医療事故情報収集等事業 医療安全情報　No.129　2017年8月

公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業
医療安全情報
No.129　2017年8月

併用禁忌の薬剤の投与（第2報）

「併用禁忌の薬剤の投与」を医療安全情報No.61（2011年12月）で取り上げました。その後、類似の事例が9件報告されていますので再度情報提供します（集計期間：2011年11月1日～2017年6月30日）。この情報は、第44回、第49回報告書「再発・類似事例の発生状況」の内容をもとに作成しました。

添付文書上、併用禁忌（併用しないこと）として記載のある薬剤を併用した事例が再び報告されています。

併用禁忌の薬剤の組み合わせ		件数
イムラン錠（アザチオプリン）	フェブリク錠（フェブキソスタット）	3
ワーファリン錠（ワルファリンカリウム）	フロリードゲル経口用（ミコナゾール）	2
ワーファリン錠（ワルファリンカリウム）	ケアラム錠（イグラチモド）	1
リスモダン（ジソピラミド）	アベロックス錠（モキシフロキサシン）	1
エフピーOD錠（セレギリン塩酸塩）	ペチロルファン注射液※（ペチジン塩酸塩）	1
オーラップ錠（ピモジド）	クラリス錠（クラリスロマイシン）	1

※ペチロルファン注射液の有効成分にはレバロルファン酒石酸塩も含まれています。

◆ワーファリン錠とフロリードゲル経口用は、2016年10月に添付文書が改訂され、併用注意から併用禁忌に変更されました。

併用禁忌の薬剤の投与（第2報）

事例1

イムラン錠を内服している患者の尿酸値が高くなり、医師は、フェブリク錠を新たに処方しようと思い、オーダリング画面に入力したところ、併用禁忌のアラートが表示された。処方するためにはコメントの入力が必要であり、医師はコメントに「継続」と入力して処方した。保険薬局からの疑義照会はなく、患者はイムラン錠とフェブリク錠の内服を開始した。2ヶ月後、患者にめまい、ふらつき等の症状が出現した。ヘモグロビンが6.8g／dLに低下しており、イムラン錠とフェブリク錠を併用したことによる骨髄抑制であることが分かった。

事例2

患者に静脈血栓があり、循環器内科の医師はワーファリン錠3mgを処方した。ワーファリン錠を開始した2日後、口腔内カンジダ症のため皮膚科の医師がフロリードゲル経口用を処方した。薬剤マスタの最終更新は添付文書が改訂され併用禁忌になった月の前月であったため、処方時にアラートは表示されなかった。薬剤部からの疑義照会はなかった。患者はフロリードゲル経口用の使用2日目、PT-INRが測定不能となった。患者のヘモグロビンは4.3g／dLに低下し、内視鏡検査で胃噴門部からの出血を認めた。

事例が発生した医療機関の取り組み

・添付文書が改訂され新たに併用禁忌になった薬剤の情報を得た場合
**　○薬剤師は、各診療科に情報を周知する。**
**　○マスタ更新を速やかに行い、アラートを表示する。**
・医師は、処方時にアラートが表示された際、処方内容が適切か確認する。
・薬剤の保管棚に「併用禁忌あり」と表示して注意喚起する。
・薬剤師は、併用禁忌の薬剤が処方された際、疑義照会を行う。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
http://www.med-safe.jp/
※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0252（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.med-safe.jp/

公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業
医療安全情報

インスリン単位の誤解（第2報）

No.131　2017年10月

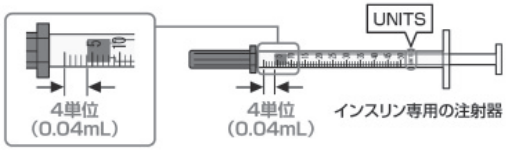
医療安全情報No.6「インスリン単位の誤解」（2007年5月）で、インスリン1単位を1mLと認識していたため100倍量を投与した事例を取り上げました。その後、類似の事例が3件報告されていますので再度情報提供します（集計期間:2012年1月1日～2017年8月31日）。

インスリンのバイアル製剤は、100単位／mLに濃度が統一されており、1単位は0.01mLです。

投与方法	投与すべき量	誤って投与した量
皮下注射	4単位(0.04mL)	4mL(400単位)
急速静注	2.6単位(0.026mL)	2.6mL(260単位)
持続静注	0.5単位(調製液0.5mL)／h	原液0.5mL(50単位)／h

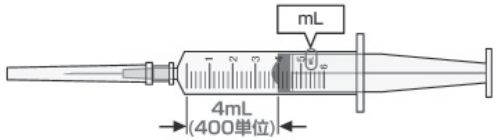
実際の4単位

○



事例1のイメージ

×



インスリン単位の誤解（第2報）

事例1

看護師は、スライディングスケールの指示でヒューマリンR注100単位／mL　4単位を皮下注射することを確認した。看護師は、インスリン専用の注射器があることは知っていたが、インスリンの4単位は4mLであると思っていたため、5mLの注射器にヒューマリンR注4mL（400単位）を準備し、皮下注射した。10分後にリーダー看護師に報告した際、100倍量を投与したことに気付いた。

事例2

後期研修医は、ヒューマリンR注100単位／mLを0.5単位／hで投与する際、1単位は1mLと思っていたため、「ヒューマリンR　持続静注0.5mL／h」の指示を出した。指示を受けた看護師は、「原液?」と思ったが、オーダ画面上でヒューマリンR注のみ処方されていたため、原液で良いと思い誰にも確認しなかった。看護師は、ヒューマリンR注の原液を20mLの注射器に吸い、シリンジポンプにセットして0.5mL（50単位）／hで開始した。約4時間後、患者の血糖値が30mg／dLに低下し、インスリンを過剰に投与していることに気付いた。

事例が発生した医療機関の取り組み

- **インスリンのバイアル製剤を使用する際は、専用の注射器を用いることを徹底する。**
- **インスリンのバイアル製剤のそばに専用の注射器を置く。**

総合評価部会の意見

- **インスリンのバイアル製剤は、1単位が0.01mLであることの教育を徹底する。**

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。
http://www.med-safe.jp/
※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0252（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.med-safe.jp/

7〜9 月に薬事情報センターに寄せられた質問から

はい、薬事情報センターです。

薬事情報センターでは、会員の方々を対象に、医薬品に関するお問い合わせや、文献入手サービスなどに応じております。どうぞお気軽に御利用ください。

［質問］ＴＶ番組で「使用後の容器を持ってきたら安くなるから再利用して」と言っていたらしいが、法的には問題ないでしょうか？（薬局）
[回答]使用薬剤料における薬剤容器の取り扱いについては、「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」（平成22年3月5日）（保医初0305第１号）の調剤報酬点数表：使用薬剤料の項で以下のように示されている。
『投薬時における薬剤の容器は、原則として保険薬局から患者へ貸与する。ただし、患者が希望する場合には、患者が実費を徴収して容器を交付しても差し支えないが、患者が当該容器を返還した場合は、当該容器本体部が再使用できるものについては当該実費を返還する。』
参考：保険薬局業務指針2016

[質問]オーグメンチン配合錠、アモキシシリン、ジスロマック（アジスロマイシン：AZM）の併用は問題ないですか。（薬局）
[回答] 日本化学療法学会の感染症治療ガイドラインでは、成人が罹患する市中肺炎*の治療法として、これらの併用療法をあげている。市中肺炎には細菌性肺炎とマイコプラズマをはじめとする非定型肺炎があり、それぞれ選択薬が異なるが、鑑別が明らかでない場合に､高用量ペニシリン系薬+マクロライド系薬またはテトラサイクリン系薬の併用治療を第一選択薬としている。推奨される治療薬として、AMPC/CVA（オーグメンチン）またはSBTPC（ユナシン）+AMPC、さらにAZM（アジスロマイシン）、CAM（クラリスロマイシン）、MINO（ミノマイシン）のいずれかを併用するとしている。オーグメンチンやユナシンにAMPCの経口薬を追加するのはAMPCの最高用量が1,000mgであることによる。ちなみに、レスピラトリーキノロン（ニューキノロン系薬）の使用は、耐性菌抑制の観点から第二選択薬とされている。
＊市中肺炎：医療施設または医療環境との接触が限られているか皆無の場合に発症する肺炎
参考：JAID/JSC 感染症治療ガイドライン-呼吸器感染症-、MSDマニュアル

[質問]HAM（HTLV-I関連脊髄症）に対するサラゾスルファピリジン投与の目的（薬局）
[回答]HAM では免疫調整作用を主とした治療法が選択される。ステロイド治療は短期的な有効性のみでなく、継続投与によって機能障害の進行を抑制する効果を有することが示されている。また、抗ウイルス作用を期待しての天然型インターフェロンαの長期投与による効果を確認したエビデンスは今の所ない。ご質問のサラゾスルファピリジンの投与については、髄液ネオプテリン値*が有意に減少したとの報告があることから、ステロイド治療に続いての使用やステロイド不適応の場合に用いられることがある。また、慢性関節リウマチなどの免疫性疾患での治療効果に基づき、マイルドな免疫調整作用が期待されている。副作用の肝障害には注意が必要である。
＊髄液ネオプテリン値：脊髄での炎症の活動性を反映していると考えられており、治療効果の判定に有用とされている。
参考：HAM診療マニュアル　第2版

［質問］ニコチン酸アミドの通常用量は200mg/日までだが、処方箋で1g/日と５倍量が処方されている。皮膚科ガイドラインでは適応外で水泡性類天疱瘡に使うとあるが、問題ありませんか。（薬局）
[回答]　水泡性類天疱瘡はそう痒を伴う水疱性病変が全身性に形成される慢性自己免疫性皮膚疾患である。高齢者に好発する。治療はステロイド内服が主体となっている。軽症の場合には、ニコチン酸アミドとミノサイクリン、ビブラマイシン等のテトラサイクリン系薬の併用が推奨されている。ニコチン酸アミドの投与量については、ガイドラインで500mg〜2000mg/日とされている。高用量では、心性不整脈、下痢、めまい・失神、筋痛、皮膚の掻痒等の報告がある。水疱性類天疱瘡の全国的な実態調査は行われていない。当該疾患自体が希少であるゆえ、今の所エビデンスレベルの高い臨床研究は少ない。
参考：類天疱瘡診療ガイドライン（日本皮膚科学会）、インタビューフォーム、

[質問]ピロリ菌除菌で４剤併用することはありますか？（薬局）
[回答]最近、台湾国立大学病院が行ったランダム化比較試験で、H.pylori除菌の第1選択は3剤療法よりビスマス+PPI+MNZ+TCの4剤療法が最適であるという結果を発表した。研究グループは、2013年7月〜2016年4月に9医療機関の成人のピロリ菌感染者1,620例を対象に無作為に3群に分けて試験を行い、除菌率では以下の結果が得られている。

1. ビスマス4剤療法群（クエン酸ビスマス1200mg+LPZ60mg+MNZ1500mg+TC2000mg/日）：90.4%
2. 3剤療法群（LPZ60mg+CAM1000mg+AMPC2000mg/日）：83.7%
3. 併用療法群（LPZ 60mg+AMPC2000mg, CAM1000mg, MNZ1000mg/日のいずれか）：85.9%

また、有害事象発生率については、ビスマス4剤療法群が67%、併用療法群が58%、3剤療法群が47%だった。ビスマス群の主な副作用はめまいや吐き気、黒色便である。日本では、亜硫酸ビスマスやTCを使用することは保険適応外となっている。（論文で使用されているクエン酸ビスマスは日本では未承認）
参考：Lancet 388(10058),2016、ピロリ菌除菌治療-最近の話題：日本医事新報(4844),2017等

＊前号のQ&Aに誤りがありましたので、下記の通り訂正致します。
P. 44右下部。ユンケルに含まれている動物性生薬（ハンピ、ゴオウ、シベット）はドーピング禁止薬ではありません。深くお詫び申し上げます。

沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口

8〜10月の「おくすり相談室」受付事例から

消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

[質問]ジスロマックでクラミジアを予防できますか？少量で飲みたいのですが。（女性）
[回答]ジスロマックは通常は短期間の服用で長期の効果が得られる抗生物質です。クラミジアに対しては少量では効果はなく、高用量で殺菌的に効果を現します。残念ながら予防効果については実証されておりません。クラミジアは放っておくと、他の感染症を引き起こしたり、不妊症の原因にもなるため、早期発見・治療が重要です。抗生物質は医師の指示のもと処方される薬剤です。自分の判断で服用することのないようにして下さい。

[質問]昨日体重10Kgの6か月の子に、上の子の坐薬を半分にして入れてしまった。200と書いてある解熱剤で上の子は15Kgで3/4を使っていた。大丈夫なのか心配になった。（女性）
[回答] お話から、使用された坐薬は解熱効果のあるアセトアミノフェンが成分のお薬と思われます。お薬手帳等で確認してください。お子様の体重で換算すると約1/2〜3/4位が適量となりますので、量的には問題はなかったと思います。しかしながら、兄弟でも病状など異なる場合もあり、薬剤の選択、服用量によっては副作用が出る可能性もありますので、お薬の使い回しはしないようにして下さい。

[質問]フルニトラゼパムを処方してもらったが、知り合いの医者に「フルニトラゼパムは強すぎて大変。自分の病院では出せない」と言われた。隣の薬局でも「こんなに強いのを飲んでいるの？」と言われ心配している。(男性)
[回答] 睡眠薬には寝つきを良くするタイプ、ぐっすり眠れるタイプなど色々な種類があります。フルニトラゼパムは夜中に何度も目が覚めたり、熟睡した感じがしないという方に処方されますが、不安や緊張を取り気分をリラックスさせる作用もあります。睡眠薬の中では作用時間が少し長めのタイプです。効果が長い分翌朝まで眠気が取れなかったり、ふらふらするなどの症状が出ることもあります。医師は色々な睡眠薬の中から強さや作用時間を考えて患者さんの症状に合ったお薬を処方します。症状に合わない睡眠薬を選んでしまうと、十分な睡眠がとれずかえって疲れが残ってしまうことにもなりかねません。

●安全性情報●

[質問]膀胱炎でバレオン200mgを1日2回で処方された。今朝2回目を服用したら、動悸と震えがあり、歩けない。昨晩も同じような症状で寝付けなかった。副作用ではないか？今日はクリニックが休みのため、連絡がつかない。（男性）
[回答] これらの症状は恐らくお薬の副作用によるものと思われますので、服薬を中止し速やかに医療機関を受診してください。

[質問]娘に頼まれてハワイにいる2歳の孫に「小児用エスエスブロン液エース」を送った。新聞報道があったので心配になった。（女性）
[回答]「小児用エスエスブロン液エース」には報道のあったコデイン類の一つ「ジヒドロコデインリン酸塩」という咳止め成分が含まれています。今年4月に米食品医薬品局（FDA）が12歳未満の小児には副作用の出る危険性があるため禁忌とした事に伴い、日本でも12歳未満の小児への使用に対し、2019年までは禁忌とせずに当面注意喚起などを行う方針を決定したところです。すぐに発売中止・小児に禁忌という段階ではありませんが、可能であればコデインを含有しない薬剤へ切り替えることを勧めます。

[質問]自分では自覚していなかったが、歯科で歯肉増殖症と言われ、服用中の薬が原因ではないかと言われた。飲んでるのはディナゲスト、サインバルタ、ガスモチン、メコバラミン、トラニラストですが、該当するものはありますか？（女性）
[回答]歯肉増殖症の原因となる薬剤としてはてんかんや高血圧、狭心症の薬が報告されていますが、サインバルタにも歯肉の腫脹が1例、炎症が2例報告されています。これらの症状が歯肉増殖症にあたるかについては判断が難しいようです。歯茎の腫れや痛みが生じる前に早めに処方医にご相談ください。

●ドーピング●

[質問]大会に薬（カロナール、アズノールうがい液、クロルフェミラミンシロップ、セネガシロップ、トーワチーム、フスコデ配合シロップ、葛根湯）を持っていきたいが、大丈夫ですか？（選手）
[回答]フスコデ配合シロップと葛根湯にはエフェドリンが含まれるため、競技内禁止物質となります。大会3日前までに服用を中止するようにしてください。可能であれば、日頃から禁止物質を含まない薬剤を選ぶようにしましょう。

●その他の質問●

・クエン酸第一鉄をもらった。磁石にくっつくの？
・外から帰ってきたらふらふらして、気分が悪い。体も熱いけど熱中症ですか？水を飲めばいいですか？
・薄毛のため、病院から保険適応外の育毛効果のある飲み薬4種と塗り薬をもらった。高いので毎日飲まなかったら前よりも髪が少なくなった。説明書には毎日飲まないと効果が現れないと書いてあるが、そんなことがありますか？
・ファムビル錠7日分とビダラビン軟膏をもらった。3割負担で7000円余り払った。高すぎると思って電話した。支払った金額はあってますか？

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

＊薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

【今月の特集】

◇医薬ジャーナル　53巻 7号
＊糖尿病の最新治療と総合戦略～薬物療法を中心に～
◇医薬ジャーナル　53巻 8号
＊安全で確実な不整脈治療
◇医薬ジャーナル　53巻 9号
＊先制医療が切り拓く新たな地平
◇エキスパートナース　33巻7月号
＊いま見直したい抗がん薬の副作用ケア
◇エキスパートナース　33巻8月号
＊感染対策　今のジョーシキ
◇エキスパートナース　33巻9月号
＊見た目でわかる消化器術後のドレーンの異常
◇きょうの健康　7月号
＊ひざの痛み
◇きょうの健康　8月号
＊認知症
◇きょうの健康　9月号
＊高血圧
◇月刊薬事　59巻9号
＊誰も教えてくれなかった 嚥下機能を考慮した薬物治療実践メソッド
◇月刊薬事　59巻10号
＊なぜ、いま禁忌を考えるのか？～くすりの適正使用を見つめ直す！
◇月刊薬事　59巻11号 (増)
＊腎臓病ガイドライン　総まとめ
◇月刊薬事　59巻12号
＊免疫チェックポイント阻害薬
◇産科と婦人科　84巻7号
＊産婦人科領域における難病を考える
◇産科と婦人科　84巻8号
＊女性の将来の健康のために
◇産科と婦人科　84巻9号
＊今日からできる最新の産婦人科ケア
◇総合診療　27巻7号
＊感染症を病歴と診察だけで診断する！ Part 3
◇総合診療　27巻8号
＊見逃しやすい内分泌疾患　このキーワード、この所見で診断する！
◇調剤と情報　23巻 9号 (臨増)
＊「あ、検査値が変わった」そのとき、薬のリスクは？
◇調剤と情報　23巻 10号
＊抗凝固薬Up to Date
◇調剤と情報　23巻 11号
＊対応に自信がもてる！ OTC薬の制度と副作用
◇調剤と情報　23巻 12号
＊認知症に関わろうと思いながら なかなか踏み出せずにいた薬剤師がそろそろ本気で一歩を踏み出すための実践書！
◇調剤と情報　23巻 13号
＊AYA世代がん患者のサポーティブケア
◇治療　99巻 7号
＊複雑困難事例集
◇治療　99巻 8号
＊皮膚のコモンディジーズとそのピットフォール
◇治療　99巻 9号
＊お父さんを診よう
◇日経ドラッグインフォメーション　236号
＊STOP ！ 調剤過誤　ミスを防ぐ50の工夫
◇日経ドラッグインフォメーション　237号
＊“調剤薬局”でOTC薬を売る
◇日経ドラッグインフォメーション　238号
＊GO ！ GO ！ 在宅
◇日経メディカル　595号
＊その肺炎　治す？ 治さない？
◇日経メディカル　596号
＊認知症は減らせる
◇日経メディカル　597号
＊「説明したのに敗訴」のなぜ
◇日本医事新報　4864号
＊高齢者の薬物治療における効果と有害事象
◇日本医事新報　4865号
＊ホルモン補充療法 (HRT) の変遷と現状
◇日本医事新報　4869号
＊検査値で見きわめる膠原病―検査値の意味を考える

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

◇日本医事新報　4870号
＊薬剤耐性問題から変わる感染症診療―抗菌薬処方のこれから
◇日本医事新報　4871号
＊震災時のエコノミークラス症候群―実態と課題
◇日本医事新報　4872号
＊TORCH症候群―母子感染における問題点
◇日本医事新報　4873号
＊外さない、見逃さない、脳卒中急性期診療
◇薬局　68巻8号
＊がん患者のココロを支える
◇薬局　68巻9号
＊臓器摘出・切除の晩期合併症 手術歴のある患者で考慮すべきポイント総まとめ
◇薬局　68巻10号
＊再考！服薬アドヒアランス

【今月の論文等】

■薬物療法■
►適応外使用の処方せんの読み方 (85) 特発性過眠症
月刊薬事59 (9) p.159
►適応外使用の処方せんの読み方 (86) 正常眼圧緑内障
月刊薬事59 (11) p.85
►適応外使用の処方せんの読み方 (87) タキサン系抗がん薬による末梢神経障害
月刊薬事59 (12) p.95
►知って納得！小児科医の処方意図　エピペンが処方されるのはどんなとき？
調剤と情報23 (13) p. 75
►かかりつけ薬剤師のための処方推論　大腸がん患者に対して牛車腎気丸を処方？
調剤と情報23 (10) p. 103
►かかりつけ薬剤師のための処方推論　抗菌薬が2剤処方…同時服用と説明していい？
調剤と情報23 (11) p. 121
►かかりつけ薬剤師のための処方推論　歯科よりアモキシシリン250mgを8Cap…1回分で処方！？
調剤と情報23 (13) p. 109
►鼻水がある乳児に抗ヒスタミン薬を出さない理由
日経ドラッグインフォメーション　236号p. PE018
►双極性障害患者の降圧薬を配合剤から単剤に変えた理由
日経ドラッグインフォメーション　237号p. PE021
►糖尿病のタクシー運転手にオングリザとセイブル
日経ドラッグインフォメーション　238号p. PE021
►ピロリ菌除菌療法におけるアモキシシリンの投与量・投与間隔の根拠は？
日本医事新報　4862号　p.59

■新薬■
►新薬くろ～ずあっぷ　エレルサ錠＋グラジナ錠
調剤と情報23 (10) p.33
►新薬くろ～ずあっぷ　ブリリンタ錠
調剤と情報23 (11) p. 59
►添付文書プラスアルファの情報使いこなし術　葉酸に関する知識を患者対応に活かす
調剤と情報23 (13) p. 59
►注目の新薬情報 (18) ジャクスタピッドカプセル
医薬ジャーナル　53巻7号p.165
►注目の新薬情報 (19) スインプロイク錠
医薬ジャーナル　53巻8号p.165
►注目の新薬情報 (20) ナルラピド錠・ナルサス錠
医薬ジャーナル　53巻9号p.165
審査報告書から見る新薬の裏側 [6] リフキシマR錠(リファキシミン)
月刊薬事59 (9) p. 86
►審査報告書から見る新薬の裏側［7］スインプロイク錠
月刊薬事59 (11) p.83
►審査報告書から見る新薬の裏側［8］インチュニブ錠
月刊薬事59 (12) p. 159

■安全性情報■
►薬が口腔内で反応して唾液が黒紫色になった患者
日経ドラッグインフォメーション　238号p. PE030
►連載・リスクマネジメント～院内での薬剤師の活動～ (116) 術前休薬基準の作成と運用
医薬ジャーナル　53巻7号p.131

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

►連載・リスクマネジメント～院内での薬剤師の活動～ (117) 腎機能の観点からの薬剤適正使用への取り組み～プレアボイド報告の解析より～
医薬ジャーナル　53巻8号p.125

►連載・リスクマネジメント～院内での薬剤師の活動～ (118) ハイリスク薬誤薬防止に対する取り組み
医薬ジャーナル　53巻9号p.125

►副作用・薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を読み解く (63)

1. 抗血栓薬で硬膜下血腫のリスクが上昇
2. ベンゾジアゼピン系薬の併用でオピオイドの過剰摂取のリスクが上昇
3. 妊娠中のノイラミニダーゼ阻害薬使用は有害な新生児転機のリスクを増加させない
4. レニン・アンジオテンシン系阻害薬による腎機能悪化が軽度でも心・腎臓リスクが増加
5. ミラベグロンの併用でトルテロジンの血漿中濃度が軽度に上昇
6. フルボキサミン併用でアトモキセチンの血漿中濃度が軽度に上昇

医薬ジャーナル　53巻7号p.160

►注目論文を読み解く (64)

1. ボリコナゾールの各種PPIsとの相互作用の予測
2. 免疫チェックポイント阻害薬による結合組織疾患
3. シスプラチンの耳毒性に及ぼす遺伝子多型の影響
4. エソメプラゾールの併用でセリチニブの血漿中濃度が顕著に低下
5. 経口ステロイドの短期投与でも敗血症，血栓症，骨折のリスクが上昇
6. アピキサバンはジゴキシンやアテノロールの薬物動態に影響を及ぼさない

医薬ジャーナル　53巻8号p.158

►注目論文を読み解く (65)

1. 認知症患者ではPPIsにより肺炎リスクが上昇
2. NSAIDs によりSSRI急性心筋梗塞のリスクが上昇
3. スタチンによる筋肉関連有害事象にはノセボ効果が認められる
4. エピガロカテキン-3-ガレート併用でロスバスタチンの血漿中濃度が軽度に低下
5. クロピドグレル併用でオメプラゾールの血漿中濃度がわずかに上昇
6. ダクラタスビル併用はメトホルミンの薬物動態・薬理作用に影響を及ぼさない

医薬ジャーナル　53巻9号p.158

■産科・婦人科■

►解決！妊婦の疑問・授乳婦の不安～抗生物質、鎮咳薬・妊婦
調剤と情報23 (10) p. 80

►解決！妊婦の疑問・授乳婦の不安～抗ウイルス薬・授乳婦
調剤と情報23 (11) p. 97

►解決！妊婦の疑問・授乳婦の不安～抗ウイルス薬・妊婦
調剤と情報23 (13) p. 81

■服薬指導■

►膣カンジダの再発に整腸剤を用いる理由
日経ドラッグインフォメーション　237号p. PE037

■漢方薬■

►肝・胆道疾患に対するエビデンス――茵蔯蒿湯、小柴胡湯
月刊薬事59 (9) p.124

►漢方薬の処方提案により発声ができるようになり嚥下状態が改善した一例
月刊薬事59 (9) p.76

►さまざまな疾患に対するエビデンス――当帰飲子、排膿散及湯、黄連湯、滋陰降火湯、白虎加人参湯、加味帰脾湯、柴胡桂枝乾姜湯
月刊薬事59 (11) p.162

►妊婦に対する漢方薬使用は安全か？
日本医事新報 (4869) p.63

■その他■

►白癬菌・ウイルスに熱水による洗濯・消毒用アルコール噴霧は有効か？
日本医事新報　4861号　p.61

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

循環器診療で知っておくべき“漢方薬の副作用”

日本医事新報　4875号

漢方薬による副作用を理解する上で、その構成生薬に伴う副作用を知ることのほうが実用的である。たとえば、葛根湯には、7種類の生薬が含まれているが、麻黄と甘草に注意が必要であると知っていれば、それらによる副作用だけを心配すればよいことになる。漢方診療において比較的多い副作用は、消化器症状（胃もたれ，下痢など）と皮膚症状である。特に、麻黄、地黄、当帰を含む処方で消化器症状の発生率は増加する。麻黄は、葛根湯や麻黄湯などに含まれ、多くの場合短期間の処方で終わることが多いが、肩こりに用いる場合や、小青竜湯を花粉症、アレルギー性鼻炎に対して用いる場合には長期にわたるため注意が必要である。肝機能障害、間質性肺炎の原因生薬としては、黄芩に注意が必要である。また，エキス製剤の多くは顆粒が乳糖でコーティングされているため、乳糖不耐症の人では下痢や腹部膨満感が出現する可能性がある。

島根大学医学部
北村 順

アルツハイマー病予防のためアルミ製調理器具・容器の使用を控えるべきか？

日本医事新報　4865号

水道水のアルミニウムの含有量が比較的多い地域ではアルツハイマー病の発症率が高かったといった疫学的研究結果や、アルツハイマー病患者の脳内にアルミニウムが蓄積していたという病理学的報告などから、アルミニウムへの曝露が同病のリスクを高めるのではないかという指摘は古くからなされています。
最近でも、南フランスでの65歳以上1925人を対象とした15年間の前向き調査（2009年発表）において、飲料水からのアルミニウム摂取量が多かった者は認知機能の低下が速く、認知症発症リスクと有意に関連していたという研究結果が報告されています。しかし、このような関連性を否定する報告も少なくなく、結果は一致していないため、アルミニウムの摂取がアルツハイマー病の原因となるか否かについて結論は出ていません。

国立精神・神経医療研究センター
功刀 浩

被疑薬を止められない薬疹で治療を継続

治療　8月号

代替薬がないため、薬疹や肝機能障害などを生じた後も原因薬を再投与し治療を継続したい場合がある。抗結核薬では患者の38％に皮疹が見られるが、殆どは軽症で、10％の患者で薬剤の減量や中止を要したとの報告がある。日本結核病学会ではイソニアジド、リファンピシンに対する減感作療法の試案を示している。それぞれ25mgから3日毎に50mg、100mg、　200mg、300mgと増量する方法であり、70-80％の高い成功率が報告されている。一方で減感作療法中Stevens-Johnson症候群進展型中毒性表皮壊死症の報告もあり、重症薬疹の既往のある患者へは禁忌と考えた方が無難といえる。ST(スルファメトキサゾール/トリメトプリム)合剤は、現在さまざまな脱感作療法のプロトコールがあるが、代表的なものとしてHIV患者に顆粒製剤0.005gから12時間おきに0.01g→0.02g→0.04g→...1.0gまで段階的に上げ、その後24時間ごとに1gずつ投与する方法(5日間)がある。抗結核薬と同様、減感作療法中にTENを発症した症例もあり慎重な対応が望まれる。

昭和大学医学部皮膚科
渡辺　秀晃

誤嚥性肺炎の治療・予防のための投薬

月刊薬事　7月号

肺炎で死亡する患者の95％以上が高齢者で、多くが誤嚥性肺炎と言われている。誤嚥性肺炎は口腔内や上気道に定着する微生物（常在菌）を下気道内に誤嚥することによって生じる。通常であればセフトリアキソンで治療可能である。口腔内が極めて汚い場合や、悪臭を伴う膿性痰が著明など嫌気性菌を強く疑う場合にはスルバクタム/アンピシリンを用いればよい。誤嚥性肺炎の再発予防に有効な薬剤としては、脳血管障害のため咳反射が低下した高齢者へACE阻害剤の投与、ドパミン遊離促進薬アマンタジン、嚥下反射の改善効果が推定されるシロスタゾール、嚥下反射時間を短縮させる半夏厚朴湯、嚥下機能を低下させるとされる葉酸の補充、PEG施行患者へはクエン酸モサプリドが報告されているが、それではポリファーマシーを助長することとなる。それらを投与する前にまず不要な薬剤の中止し、その後に症状に応じた適切な薬剤の投与を検討すべきである。

藤仁会　藤立病院
上田　章人

Book Information

日薬斡旋図書のご注文は事務局（代表：098-963-8930）までお願いします。
※日薬斡旋図書は会員価格で購入できます。
※会員価格のない書籍については定価での購入となります。
★印は県薬に見本があります。

★【日薬斡旋図書】麻薬・向精神薬・覚せい剤管理ハンドブック　第 10 版

【発行】じほう　【発行日】2017 年 9 月
【版型/頁】A5 判/約 1,750 頁　【定価】12,420 円（税込）【斡旋価格】11,180 円（税込）

麻薬等の乱用による弊害を防止し、麻薬が適正かつ円滑に患者に提供され、有益に活用できるよう、医療従事者、医薬品取扱者、麻薬等の研究者はもちろん、薬務行政担当職員等の方々へ向けた、手引書。平成 27 年改正、平成 28 年 4 月に施行された麻薬及び向精神薬取締法や、医薬品医療機器法によりその販売、所持、使用、購入、譲り受け等が厳しく規制されている指定薬物（いわゆる「危険ドラッグ」）に関する解説のほか、これら薬物の取扱い、管理、廃棄、輸出入等の実務について解説している。

★【斡旋図書】日本医薬品集　医療薬 2018

【監修】日本医薬品集フォーラム　【発行】じほう　【発行日】2017 年 8 月
【版型/頁】B5 判/3,600 頁　【定価】14,040 円（税込）【斡旋価格】13,300 円（税込）

【日薬斡旋図書】平成 29 年版　在宅医療 Q&A

【監修】日本薬剤師会　【発行】じほう　【発行日】2017 年 8 月
【版型/頁】A5 判/280 頁　【定価】2,592 円（税込）【斡旋価格】2,280 円（税込）

在宅医療における薬剤師の疑問に答える定番書籍。在宅訪問準備から訪問後の報告書、そして患者・服薬支援・多職種連携・体調チェック・薬のチェックなどのポイントまで、在宅医療の実務に即して解説。緩和ケアの知識では、オピオイドの使い分けから麻薬の取り扱い、認知症の基礎知識ではBPSD や抗アルツハイマー4 薬の使い分けなど、在宅初心者向けに必要な知識を集めた。

フォーミュラリー　-エビデンスと経済性に基づいた薬剤選択-

【編集】フォーミュラリー編集委員会　【発行】薬事日報社　【発行日】2017 年 9 月
【版型/頁】B5 判/241 頁　【定価】3,780 円（税込）

日本は少子高齢化が進み、今後も医療費が拡大し続けることが予想されている。医療費削減に向けた改革の一つであるといわれ、患者のための合理的・経済的な薬物治療にもつながる「フォーミュラリー」の概要や考え方、実践方法などについてまとめた。フォーミュラリーは単なる院内採用医薬品集ではなく、「医療機関における患者に対して最も有効で経済的な医薬品使用における指針」であるという真の意味を理解し、導入・実践するための参考となる一冊。

小児の向精神薬治療ガイド

【編集】稲田 俊也　【発行】じほう　【発行日】2017 年 6 月
【版型/頁】B6 判/280 頁　【定価】3,240 円（税込）

一般的な薬剤特性を要約し、日本人成人における標準的な使い方を明示。また世界の添付文書にみられる小児投与の際の留意点を国別に要約し、小児に対する使い方の留意点を紹介。エビデンスの少ないわが国の児童精神科領域の薬物療法に対して、日本人成人と海外小児の臨床エビデンスを即時に外挿して処方検討の手助けとなる有力な薬物療法支援ツール。

Book Information

日薬斡旋図書のご注文は事務局（代表：098-963-8930）までお願いします。
※日薬斡旋図書は会員価格で購入できます。
※会員価格のない書籍については定価での購入となります。
★印は県薬に見本があります。

カラー図解　よくわかる薬機法　-医薬品販売制度編-

【編集】株式会社ドーモ　【発行】薬事日報社　【発行日】2017年7月
【版型/頁】B5判/252頁　【定価】2,700円（税込）

「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」（薬機法）で定められた“医薬品販売”に関連する規制・制度にスポットをあて、分かりやすく解説。

向精神薬と妊娠・授乳　第2版

【編集】伊藤 真也、村島 温子、鈴木 利人　【発行】南山堂　【発行日】2017年7月
【版型/頁】B5判/250頁　【定価】3,780円（税込）

向精神薬の豊富な有効性・安全性情報、多岐にわたる症例解説など、精神疾患を持つ女性の妊娠・授乳への対応に必要な情報や知識をまとめた。また、改訂2版では、産褥精神病などの周産期特有の精神疾患の解説を加えた。

Dr. 林＆Ph. 堀の危ない症候を見分ける臨床判断 Part2

【著者】林 寛之、堀 美智子　【発行】じほう　【発行日】2017年8月
【版型/頁】A5判/112頁　【定価】2,160円（税込）

患者対応でよく遭遇するさまざまな疑問を、あの Dr. 林がクリアカットに解説。百戦錬磨の医師・薬剤師ならではの掛け合いを読み進めるうちに、命に関わる危険なサインの見分け方が身につく。「頭痛」や「腹痛」などを取り上げた Part1 に続き、Part2 では「発熱」や「めまい」などの初期症状や対策のコツを解説。

4ステップ 臨床力UP エササイズ ⑥腎機能編

【編著】勝見 章男、三浦 崇則　【発行】じほう　【発行日】2017年8月
【版型/頁】A5判/176頁　【定価】2,592円（税込）

要点解説＆理解度チェック問題で確実に力が付く、好評問題集シリーズ！第6弾は、病院・薬局ともに関心の高い「腎機能」。腎臓の構造や機能、腎機能低下を招く要因などの基礎知識から、腎機能に対する多角的な評価方法、患者に合わせた投与設計の考え方まで、「現場で必要なこと」を一冊に凝縮。4ステップで基礎から臨床応用へと徐々に力が身につけられる。

透析患者への投薬ガイドブック　改訂3版

【編著】平田 純生、古久保 拓　【発行】じほう　【発行日】2017年6月
【版型/頁】A5判/1,124頁　【定価】8,640円（税込）

投与設計のための基礎知識を最新の情報を基に解説した「総論」と、掲載薬剤数を大幅に増やし、薬物動態のパラメーターやエビデンスとなる関連論文をふんだんに盛り込んだ「投薬ガイドライン」が、臨床業務を協力にサポート。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1)医薬品情報の提供　(2)「薬事情報おきなわ」の編集・発行　(3)医薬品に関するお問い合わせ　(4)県薬ホームページの制作・管理　(5)消費者薬相談業務「おくすり相談室」　(6)医薬品 PL センター窓口業務　(7)ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象)　平日　午前：8時30分～12時　午後：1時～5時30分　（土・日・祝日休業）
(一般対象)　「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」
平日（月～金）午前：9時～12時　午後：1時～5時

※おくすり相談室・ドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の閲覧、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL：098-963-8931　　FAX：098-963-8937
沖縄県薬剤師会　薬事情報センター

＊　＊　海外文献から（JAPIC 医薬情報より）＊　＊

●重篤な薬物有害反応の影響:Australia の New South Wales における 10 年間の入院に関する集団ベースの研究　(Clin. Pharmacol. 83(2)416-(2017.2))

オーストラリアにおける 4 タイプ(皮膚,血液 骨髄,肝,腎)の重篤で特異的な有害事象の特定のために ICD-10 基準を適用し，有害事象発現の経時変化や入院期間,再入院,院内死への影響を評価した。New South Wales 州における 2000 年 7 月から 2 年間入院データの全数調査を使用した。その結果、皮膚タイプ以外の 3 タイプの有害事象の発現率は対照群に比べ有意に経時的に上昇した。入院期間については,全タイプの有害事象において 22%から 328%の有意な増加がみられた。再入院または死亡のリスクの有意な上昇は,一部のタイプの有害事象にのみ認められた。最も多く関与していた薬剤は,スティーブンスジョンソン症候群/中毒性表皮壊死融解症では hydantoin 誘導体,再生不良性貧血では immunoglobulin,血小板減少症では抗マラリア薬などだった。ICD-10 に基づく手法は集団レベルでの分析を支援するものであり，有害事象の経時的な影響や変化に対して重要な知見を提供できる。

＊「ICD」(International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems：疾病及び関連保健問題の国際統計分類。国際疾病分類ともいう。)：異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関（WHO）が作成した分類。「-10」は第 10 回目の改訂版の意。

●抗血栓薬（低用量 Aspirin，Clopidogrel，ビタミン K 拮抗剤，直接経口抗凝固薬）使用と硬膜下血腫リスクの関連性:ケースコントロール研究　(JAMA 317(8)836-(2017.2))

デンマークにおける調査。2000 年-2015 年の患者 10010 例(男 6548,女 3462;20-89 歳)を硬膜下血腫群,年齢,性別,暦年をマッチさせた一般の 400380 例を対照群として,抗血栓薬の使用について調査した。主要評価項目は,硬膜下血腫発生率,抗血栓薬の年間使用率とした。硬膜下血腫群 10010 例のうち 47.3%が抗血栓薬を服用していた。低用量 aspirin(調整オッズ比 1.24),clopidogrel(調整オッズ比 1.87),直接的経口抗凝固薬(調整オッズ比 1.73),ビタミン K 拮抗薬(VKA)(調整オッズ比 3.69)の使用は,硬膜下血腫のリスク増加と関連していた。VKA と抗血小板薬併用のリスクは最も高く,低用量 aspirin との併用では調整オッズ比 4.00,clopidogrel とでは調整オッズ比 7.93 であった。この期間の硬膜下血腫発生率の増加は,抗血栓薬使用率の増加と関連していると考えられた。

●専門病院の入院患者における抗真菌薬の全身療法による薬物有害反応（注射部位反応，低カリウム血症など）：横断的レトロスペクティブ研究　(J. Clin. Pharmacol. 56(12)1507-(2016.12))

抗真菌薬全身療法を受けた患者 183 例の診療記録を調査した。抗真菌薬は ATC 分類の第 4 レベルに基づき分類、ADR の因果関係について,Naranjo アルゴリズムを用いて分類した。薬物相互作用については DRUG-REAX ソフトウェアで評価した。記述統計学および単変量,多変量ロジスティック回帰分析によりデータを解析した。その結果、計 53 例(29.0%)が,抗真菌薬が関与した ADR を少なくとも 1 件経験しており,96 件の ADR が検出された。主な ADR は,注射部位反応 24 例(25.0%),低カリウム血症 22 例(22.9%),腎毒性 18 例(18.7%),肝毒性 15 例(15.6%)であった。amphotericin B deoxycholate および voriconazole の使用は,重大な臨床的影響を及ぼす ADR と関連していた。ADR のうち 11 件(11.4%)は薬剤相互作用に関連しており,fluconazole と ondansetron,prednisone,sulfamethoxazole+trimethoprim,tramadol との相互作用が多く認められた。ADR の発現に関し,腫瘍の診断,入院期間,多剤併用との関連が明らかとなった。

沖縄の方言

調剤薬局やえやま
金城 智史

私、このような姓ですが、兵庫県の出身です。石垣にきて早4年半。来る前はとりあえず職場の契約期間の2年間だけは住んでみようと思ったのですが、気が付いたら4年以上の月日が経っていました。初めは、食べ物であったり、うちなータイムであったり色々驚く事もありましたが、やはり方言が特徴的であり、同じ単語なのに、内地と意味が違うことに戸惑う事があります。いくつか例を出してみると、

私：「今日は忙しかったね」
同僚：「だからさー」
私：「……。ねぇ、だからなんなの？」
同僚：「なにもないよ！」

方言で最初に違和感を覚えたのは「だからさー」です。今でこそ何も思わないのですが、だからさーで会話が終わると、その続きはないのかとツッコんでいました。最近は自分でもだからさーを使えるようになり、同僚からもお墨付き（？）をいただいています。

業務中認識の違いで、たまに相手を混乱させる事もあります。

同僚：「この件について疑義紹介してもいいですか？」
私：「いいですよ。疑義しましょうね。」

しかし、しばらくしても疑義する気配がなかったので、

私：「さっきの件、疑義したの？」
同僚：「してません。」
私：「？？？　疑義するって言わなかった？」
同僚：「してくれるんじゃないんですか？」

とほほ…。「しましょうね。」という表現は、私の感覚では相手に対して○○しましょうという感じなのですが、沖縄では自分がするということになってしまい、「疑義しましょうね」と言った私が疑義すると捉えてしまったようです。ただ今でも「しましょうね」の使い方を失敗してしまうので、「○○さん、疑義しましょうね」と主語をつけるようにしています。

一番びっくりしたのは、人から初めて「お前死なすぞ」と言われたときです。俺そんなひどいことしてないけど…と思ったのですが、この表現は相手を殺すという意味ではなく、懲らしめるみたいな表現なのですね。知らない人はびっくりしますので、内地では「死なすぞ」は使わないほうがいいです。

あと、買い物に行って帰る際に、おばーから「あとからねー」と何回も言われました。その時はあとから何かがあるのかなと思ったのですが、結局なにもありませんでした。

沖縄の方言を学ぶことは楽しいですので、今後もいろいろマスターしていきたいと思っています。それでは皆様、あとからね～

次号には、名古屋万理菜 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

第33回　暮らしの中の薬草学
身近な薬草を知ろう

女性薬剤師部会　狩俣 イソ

ムラサキオモト

学　　名　Rhoeo discolor Hance
科　　名　ツユクサ科
属　　名　ムラサキオモト属
使用部位　葉、花、根茎根塊
有効成分　フラボノイド、アントシアニン
サポニン、カロテノイド、テルペノイド、
クマリン、ステロイド、ビストール

ムラサキオモトの特徴

メキシコ、西インド諸島原産で、高さ20 ～ 60cmの不耐寒性の常緑性多年草。沖縄では野性化している。短縮した茎の先から披針形の葉を多数出し、葉脚は茎を抱く。葉は茎の先端に集まってつき、斜めに広がり長楕円披針形で長さは15 ～ 25cmで幅4cm、先はとがり、やや多肉質で、表面は緑、裏面は紅紫色で美しい。開花期は7 ～ 8月。葉と葉の間から2枚の苞葉が出て、それに包まれるようにして花が咲く。がく片、花弁ともに3枚で、花弁は白色か淡紫色。雄しべは6個で、花糸には細毛がある。種子はよくでき、よく発芽するが、寒さに弱く15度以下での越冬は難しい。

ムラサキオモト属

ムラサキツユクサに似ていてムラサキツユクサ属に入れていたが、花序のつき方が異なっているため、ムラサキオモト属が新設された。ツユクサ科のムラサキオモト属は世界に一属一種しかいない。変種としては、葉の両面とも緑のミドリムラサキオモトや葉に淡黄色の縞のある斑入りムラサキオモトなどがある。

ムラサキオモトの名前の由来

葉がオモト(ユリ科)に似て、葉の裏面が紫色であることからこの名となる。紫金蘭、紫錦蘭の名称は、葉裏の色から園芸愛好家の間から出たもので、漢名ではない。沖縄では、首里のアカウムト、石垣島のオンバンウムトゥがあるが、ウムトはオモトの沖縄方言。学名のレーオデスカラーのレーオは人名に由来する。デスカラーは葉の表面が緑、裏面が紫と二色であることに由来する。ヨーロッパには1783年ごろに入ったようだが、仏名も独名も二色の意味を持つ名前になっている。英名はBoat-Lilyで、苞をボートに見立て、白い花が咲き、葉の外観がユリ科に似るところからきている。

ムラサキオモトの歴史

文化年間に渡来：斎藤月岑著『武江年表』(1878年）によると文化13年（1816年）の項に「紫おもと初めて渡る（おもとと号すれどもリロ(シュロソウ)の種類にはあらず、始めは高価を以てひさぎたり。寒を恐るる故唐むろにて養う)」と記されている。 小笠原諸島には明治8年（1875年）に入っている。

『草木図説』の解説:飯沼慾斎は『草木図説』(1856 ～ 1862年）7巻にムラサキオモトの精細な図をのせ、解説している中で「この草琉球産にして性最畏寒、冬蔵密ならざれば育しがたし」と記している。最も寒さをおそれるので、冬は囲いなどしないと生育が難しいという。江戸後期のこの頃、すでに沖縄地方では､野生化しているところもあった。

ムラサキオモトの薬効伝承

肺炎、血便、血尿、咳、痰、百日咳、肺結核、下痢、腸炎、消化不良、打身、虫下し、ブリヤキ・タリニツ、便秘、痔、腹痛、赤痢、火傷

参考：日本大百科全書、沖縄の薬草百科、
世界大百科事典亜熱帯植物資源データベース、薬草カラー図鑑

ムラサキオモト抽出液配合のＯＴＣ

ムラサキオモト抽出液はウィルス・細菌が原因となり起こる急性の下痢や精神的緊張（ストレス）による下痢、腹痛の伴う吐き気、嘔吐、悪寒に効果的である。長年、下痢や腹痛の特効薬として医薬品販売されている。副作用もなく安全性が高いので清涼飲料水もある。

ムラサキオモト抽出物の化粧品及び薬剤、特に皮膚科、への使用

ムラサキオモト抽出物には、ケラチノサイトの分化の促進、フリーラジカルの作用の防止、グリコアミノグリカンの合成を促進する作用を有することが確認された。

ムラサキオモト抽出物配合クリームは、皮膚の水和を促進、柔軟性・張りを促進、光沢を与え、皮膚老化を防止する。塗布後3日目で皮膚に潤いがでて、きめ細かくなり、皺・小皺が消失する。

また魚鱗癬、乾癬に罹った皮膚の治癒を行うことが可能である。　参考：asta・muse

ムラサキオモトエキス含有ペット用入浴剤

ムラサキオモト抽出エキス含有のペット用入浴剤は、ペットを入浴させることで雑菌の繁殖の抑制・除去ができ、ペットの皮膚や毛を清浄に保つことができる。ムラサキオモトエキスには、殺菌や整腸作用を発揮する成分が含まれているため、飲んでしまっても、腹痛や下痢の心配はない。ムラサキオモトエキスが皮膚や毛に残っていても、皮膚がかぶれるなどの問題はない。またアントシアニジンによる抗酸化作用が期待できる。血行が良くなる、代謝が良くなるなどの効果が期待される。体表面に付着したアントシアニンによって皮膚や毛の紫外線によるダメージを低減することも期待できる。

参考：生命科学関連特許公開　特許公報情報

ムラサキオモト抽出エキス成分

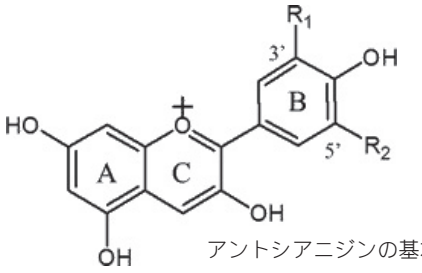
ムラサキオモト抽出エキスは、ポリフェノール（フラボノイド・アントシアニン）、サポニン、カロテノイド、テルペノイド、クマリン、ステロイドなどを含有する。

参考：KKオムネズ

アントシアニンの効能効果

・視覚機能を改善する効果
・眼病予防効果：白内障・緑内障の予防効果
・メタボリックシンドロームを予防する効果
・花粉症予防効果（ヒスタミンを減少させる）

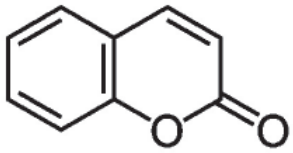
アントシアニンはアントシアニジンに糖や有機酸が結合したもので、長時間の加熱や長期間の保存に弱いため、アントシアニンの働きや効果を保つためには、安定した形で摂取することが重要である。またアントシアニンは体内に吸収されると、24時間以内に尿と一緒に体外へ排出されるので、毎日続けて摂ることも重要である。



アントシアニジンの基本構造

クマリン（ラクトンの一種で芳香族化合物）

・ラットに、クマリンを10mg/kgを投与したところ、血中および網膜中の酸化ストレスの指標物質MPO濃度が減少したことから、クマリンが抗酸化力により血液・網膜保護作用を持つことが示唆された。
・クマリン化合物に鎮痙作用（痙攣を抑える働き）を有する働きがあることが確認された。
・肝細胞（HSC-T6細胞）に、オカゼリ果実に含まれるクマリンを投与したところ、肝臓の線維化が抑制されたことから、クマリンが肝臓保護効果を持つことが示唆された。
・オカゼリ果実に含まれるクマリン誘導体は、抗アレルギー作用を示したことが確認された。


クマリン

フランスのウビガン社が人工合成のクマリンを元に1882年に香水を調合することに成功し、「フジェール・ロワイヤル」と名付けて発売し、人工合成材料による香水の製造が始まった。

タバコの香料として用いられるが、発がん性が生じるとも指摘されている。

参考：農研機構、わかさの秘密

投稿

すこやか薬局主催
すこやか薬局　ベビーフェスタ2017報告

日時：平成29年9月10日（日）10:30 ～ 15:30
会場：すこやかの森ヴィラ北谷

すこやか薬局
安次富　大

「パパとママ、お子さんの心身の健康と成長をサポートしたい！」の思いの下、この度初開催に至った上記イベントについて報告します。

実施内容として会場には①健康サポートコーナー（検体測定、骨密度、貧血、血圧・脈波、体組成・肺機能の測定、乳がん触診モデル体験コーナー）②管理栄養士による栄養相談コーナー③アロマコーナー（アロマスプレー作成､アロマ香袋作成）④講話会（各テーマ:女性と健康、ベビーサイン、女性と栄養）⑤リラクゼーションコーナー⑥子供コーナー（寝相アート、はいはいレース、ヨーヨー釣り、ポップコーン、子ども薬剤師体験）⑦健康商品販売⑧協賛企業のブースが設置されました。

開催に先立ち、各店舗におけるポスター掲示、TV番組出演、CMを通じた告知もあり、生憎の雨天にも関わらず、お子さん含め総計300名の方が来場されました。

来場者にお話を伺い「本来の目的は子供コーナーだったけど、空いた時間で栄養相談や自分の数値を知ることができました」「薬局にはあまり行かないけど、TVで告知を見て来ました」「長女が薬剤師に興味があったので子ども薬剤師体験に連れてきて、次女や三女も体験できたことで興味が湧いたみたい」との声をいただきました。テーマを健康に縛らず、多くの方が興味を持ち、気軽に来られるようなテーマを含めた複数のブースを併設した強み、薬局に来ない方でも広く知れる広告媒体を用いたことにより、気軽に相談できる相手、場所としての薬剤師・管理栄養士、薬局というイメージを与えられたことが伺えます。

日本薬剤師会が提唱する健康サポート薬局の在り方として、定期的なイベント開催が要求される中で､今後の大きな助力となる経験、成果が得られたことをここに報告します。

最後に、今回のイベント開催あたり、助力いただいた協賛企業各社、各自治体、県薬剤師会にこの場を借りて感謝申し上げます。

検体測定の様子

子ども薬剤師体験前の説明

開催日　：2017.9.10(日)
開催場所：すこやかの森ヴィラ北谷

2017 ベビーフェスタ開催報告

＼多くのご参加ありがとうございました／

こども薬剤師体験

まずは、薬剤師はお薬を用意するまでに、たくさんのお仕事があることをお勉強しました。

白衣を着て、いざ実践！！（みんな白衣が似合っていました♡）

お菓子を使って、調剤の体験をしました！
自分たちで用意したお薬（お菓子）の飲み方の説明（服薬指導）もしましたよ！

講話会

ベビーサイン講師のわたなべ先生をお迎えしました。おしゃべりできない赤ちゃんとうまくコミュニケーションがとれるって、素敵ですね❤

はいはいレース

大白熱の赤ちゃんはいはいレース♪
赤ちゃんよりも、パパ・ママ・ご家族が大盛り上がり（笑）

寝相アート

「かわい～～～♡」の声が飛び交っておりました♪
ハロウィンバージョンも大好評でしたよ～♪

健康セルフチェックコーナー

パパ・ママ・ご家族様の、血糖値、HbA1c、骨、貧血などのチェックをしました。結果を基に薬剤師からアドバイス。家族の元気が、赤ちゃんの笑顔ですよね☆

アロマ・販売・栄養相談

アロマコーナーも大人気♪アロマミストや香り袋作成を体験(^^)　その他、管理栄養士による栄養相談や、すこやか薬局おススメ商品も販売しました！

足型測定・ヨーヨー釣り

ミズノさんにご協力頂き、足型測定を実施。足圧も測れて、その人にあったおすすめインソールを教えて頂きました👣

ヨーヨー釣も子供たちに大人気でした♪

全部ご紹介できないのが残念ですが、その他にも催し物はたくさんありましたよ～！

来年も開催しま～す！！

来年も是非お越しください！お楽しみに～♪

薬連だより

平成29年度
沖縄県薬剤師連盟評議員会報告

日時：平成29年6月18日（日）13:00 ～ 13:25
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

沖縄県薬剤師会通常総会に先立ち当連盟評議員会が開催され、司会進行は姫野耕一副幹事長が務めた。

始めに亀谷浩昌会長からの挨拶では、昨年7月の参議院議員選挙での藤井もとゆき氏が当選したことへの感謝の意を表した。また次期参議院議員選挙においての日本薬剤師連盟の組織内統一候補者に本田あきこ氏に決定したことで、当連盟も本田氏の活動を全面的に支援し、地区薬剤師会および会員の皆様にも強力なお力添えを賜りたいこと等を述べた。

報告第1号　平成28年度会務経過報告では、吉田久子幹事長より、昨年度は、藤井もとゆき必勝のために､薬局訪問はもちろんのこと、各医薬品卸、各企業団体等への訪問を精力的に取り組んだことや沖縄選出の国会議員に薬局・薬剤師の現状を知ってもらうために勉強会を開催したこと等を報告した。

吉田 久子 幹事長

姫野 耕一 副幹事長

事務局次長
山城 英人

次に報告第2号 平成28年度会務並びに会計監査報告を友利弘一監事が報告した。

議案に入り、議案第1号 平成28年度決算承認の件を山里勇会計担当が説明した。

議案第2号 平成29年度活動計画案は、吉田久子幹事長より、1. 県薬連盟及び支部の組織の強化。2. 次期参議院議員選挙の組織統一推薦候補者本田あきこ氏に対し、積極的に支援活動を行う。3. 若手・女性薬剤師の集いを開催し、薬剤師職能と政治の関わりについて、その重要性の啓発を行い、政治連盟への積極的な参画と活動を強化する。4. 薬剤師問題を理解し、活動してくれる議員および候補者への支援活動を行う。ことを提案した。

議案第3号 平成29年度予算案の件を山里勇会計担当が説明した。

最後に、議案第4号 沖縄県本田あきこ後援会設立の件では、吉田久子幹事長より、今後本田あきこ氏を全面的に支援していく上での活動組織として後援会の設立が必要であることを説明した。

各議案について満場一致で了承され、評議員会は終了した。

薬連だより

本田あきこ オレンジ日記
都道府県訪問の旅

日本薬剤師連盟
副会長　本田 あきこ

日本薬剤師連盟副会長の本田あきこです。今月から、「本田あきこ　オレンジ日記」とのタイトルで、私の連盟活動を中心に近況をお伝えすることに致しました。

3月22日の定時評議員会において、組織内統一候補として決定いただいてから7か月以上が経過しました。評議員会の翌日に日本薬剤師連盟の副会長を拝命し、直ちに地元熊本県から九州各県の訪問活動を開始しました。九州ブロックでは、原則各県4日間をかけて、出来る限り多くの会員の方々と直接お目にかかれるよう訪問活動をさせていただきました。

九州訪問を終えてからは、本年中に全ての都道府県の役員の皆さんにお目にかかり、挨拶を終えることとし、10月末現在40の都道府県を訪問することができ、残り7県となっています。訪問活動の状況は､連盟の機関紙「ＰＯＷＥＲ！」の紙上でお伝えしておりますので、ご覧いただければ幸いです。

これまでの訪問先では、皆様に温かく迎えていただいておりますことに心から感謝申し上げます。訪問先の会合では、政治を目指す契機となった、薬学6年制に関する国会における議論を間近で見聞きしたことに加えて、熊本薬剤師会勤務となって間もなく発生した熊本地震の復興対策に参加し、被災者への医薬品供給等に携わったことなどをお話しし、私の役割は、薬剤師同志の絆が更に深まるよう汗をかくことだと認識していることなどをお話しさせていただいています。

私のイメージカラーをオレンジ色としていただきましたので、毎日の服装に必ずオレンジ色を入れるよう心がけています。また、訪問先でお会いする皆様にも、オレンジ色のネクタイやスカーフを付けていただいている方々が急速に増えているように感じており、そのたびに感激しております。

これからも、出来るだけ多くの皆さんとお会いできるよう頑張る所存です。ポスター、名刺型資料も新しいものを作成する予定です。今後とも、本田あきこへのご支援をお願い申し上げます。

1　Facebookページ「本田あきこの部屋」を公開しました。
https://www.facebook.com/Honda.Akiko.Room/
2　本田あきこのホームページを開設しました。
https://www.honda-akiko.jp/
3　本田あきこメールマガジンを開始しました。
右のＱＲコードから登録をお願いいたします　⇒

薬連だより

国会レポート
衆議院解散・総選挙

自由民主党組織運動本部本部長代理
参議院議員・薬剤師
藤井 もとゆき

穏やかな秋空の下、聞き慣れた行進曲が流れ運動会を楽しむ児童や生徒の元気な声が響いています。

シーズン終盤を迎えたプロ野球は、セ・パ両リーグの優勝チームが決まり、10月18日から始まるクライマックスシリーズ、その後の日本シリーズへと日本一を懸けた戦いが続き、更に26日には来季の新戦力を占うドラフト会議が開かれます。プロ志望を表明した早実高校の清宮幸太郎選手に注目が集まっていますが、他にも多くの有望選手がリストアップされ、東大4年生の宮台康平投手もその1人です。また畑岡奈紗選手の樋口久子さん以来40年振りの連覇で盛り上がった日本女子オープンゴルフ選手権、この大会の総合3位でローアマチュアに輝いたのは、我が母校、岡山操山高校2年生の小倉彩愛選手です。高校、大学の後輩達の活躍振りを嬉しく感じるのと同時に、将来に向かって大きな飛躍を遂げてくれるものと期待しています。

さて、皆さんご存じのとおり、安倍首相は28日に召集された臨時国会の冒頭で衆議院を解散し、衆議院議員選挙は10月10日に告示、22日に投開票が行われることとなりました。25日の会見で首相が述べたように、急速な少子高齢化が進むわが国において、ロボット、IoT、人工知能等の最先端イノベーションを活用して生産性を高めていくことは、成長戦略の柱となるものであり、医薬品や医療機器等の医療関連産業の発展も持続的経済成長への重要な要素の一つとなっています。また、現役世代が抱える子育て、介護への不安を解消し、安心して暮らせる社会を築いて行くには、高齢者に対する医療・福祉・介護・年金に必要な財源を確保するのと同時に、子育て支援等の少子化対策にも資源を投入することにより、全世代型の社会保障制度を作り上げていくことも重要な政策の柱となります。このため、首相は再来年の消費税10%への引上げに際し、借金の返済に充てるとしていた4兆円余りの一部を少子化対策に回すことを提案し、今般の総選挙で国民の判断を仰ぐとしています。

10日からの選挙戦を前に、昨年の都知事選挙、今年の都議会議員選挙とブームを巻き起こした小池東京都知事が代表となって、新しく希望の党を立ち上げ、前川代表率いる民進党は、名を捨てて実を取るとして希望の党への合流を表明したものの、枝野氏の新党立ち上げで分裂の様相となっていますが、どの様な与野党対決の構図となったとしても、わが党の政策を国民にしっかり訴えて、理解を深めていくことが何よりも大切であると思います。

先ずは、自民党所属の薬剤師議員の仲間である、松本純先生、とかしきなおみ先生には、何としても国政に戻ってもらわなければなりません。22日の投票日まで、お二人の勝利のために全力を挙げて応援するとともに、組織運動本部の本部長代理として、自民党候補者全員の当選を目指して頑張って参りたいと思います。

藤井もとゆきホームページ　**http://mfujii.gr.jp/**

転載記事

こども新聞って何？

こども新聞は日本新聞教育文化財団が提唱するNIE（Newspaper In Education＝教育に新聞を）活動の一環で、琉球新報社が1998年から毎年9月に発行しています。今年で20回目となります。県教育委員会も後援しています。

小学5、6年生のこども記者49人が政治や暮らし、経済、スポーツ、芸能、地域の話題などさまざまな分野をこども記者の視点で取材し報道します。今年のテーマは「切り開こう沖縄のみらいロード」です。

記者体験を通して感じ、学んだことを、これからの勉強や地域、各活動に生かしてほしいと願っています。

こども新聞の記事は琉球新報ホームページにも掲載しています ▶ ryukyushimpo.co.jp

平成29年9月1日(金)
琉球新報こども新聞

新川 黎人

那覇市立曙小6年　緊張したけど取材をしてみると、インターネットでは調べられなかったことがいろいろ聞けてよかったです。記事を書く時は順番を考えるのが難しかったです。でも書き終えた時はとてもうれしかったです。

思いこみで説明しない

患者に薬について説明する薬剤師の吉田典子さん＝7月21日、南風原町の県薬剤師会館

薬剤師 吉田さん

【那覇市立曙小6年・新川黎人】薬剤師の仕事について学ぶため7月21日、南風原町の沖縄県薬剤師会・薬事情報センターに勤めている吉田典子さん(54)に話を聞いた。

吉田さんは午前8時半から午後1時半まで薬局で働き、午後2時からは沖縄県薬剤師会・薬事情報センターで、薬の飲み方などの問い合わせを電話で受けているという。

薬局の薬剤師には調剤、監査、投薬の三つの仕事がある。調剤は患者の処方箋を見ながら薬を作っていく。監査は作った薬に間違いがないか、別の人が確認する。投薬は患者に説明して薬を渡すことだ。吉田さんは「薬を渡す時にも患者の表情を見て作った薬で大丈夫か確認する」と話した。吉田さんは「思い込みで患者に説明しない。自分自身の生活リズムを整え健康を保ち、適切な判断ができるようにしている」と心掛けていることを話した。

吉田さんが所属する沖縄県薬剤師会は薬局やドラッグストア、病院で勤務する約1160人の薬剤師から成る。薬剤師会は職能向上のために生涯学習をし、薬の正しい使い方を教える活動をしている。

薬剤師たちは毎日勉強をしながら患者に気遣いの心を持って対応している。

※発行元の許可を得て掲載しています。

転載記事

なごみ会が20日 県民健康フェア

宜野湾・コンベンション

県内の医療や保健、福祉の17団体でつくる県医療保健連合（通称・なごみ会）は20日正午から午後４時まで、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで、第７回県民健康フェア2017を開く。

フェアでは、なごみ会の傘下団体ごとにブースを設け、医療や健康に関する相談や食事のチェック、骨密度測定検診などを実施する。

各ブースでもらえるスタンプを５個集めると、景品プレゼントがある。入場無料。

なごみ会に所属する県医師会や県歯科医師会、県薬剤師会、県看護協会の役員、関係者らが２日、那覇市天久の琉球新報社を訪ね、多くの県民の参加を呼び掛けた。

県医師会の白井和美理事は「医療関係団体がそれぞれの強みを生かし、テーマを持ち寄って工夫して取り組んでいるフェアだ。幅広い年齢層の県民に足を運んでほしい」と語った。

問い合わせは県医師会☎098（888）0087。

（右から）県医師会の白井和美理事、県薬剤師会の笠原大吾常務理事、県歯科医師会の米須敦子副会長、県看護協会の西平恵美さん（ナースセンター）＝２日、那覇市天久の琉球新報社

平成29年8月8日(火)　琉球新報

あす宜野湾で健康フェア

17団体が体験ブース

第７回県民健康フェア2017（主催・県医療保健連合）が20日正午から宜野湾市の沖縄コンベンションセンター展示場で開かれる。

医師会や歯科医師会、薬剤師会など県内17団体がブースを設ける。専門家による健康相談や職業体験、虫歯リスク検査、ナース体験、食事バランスチェックなど子どもからお年寄りまで各年代の健康に関する情報を提供する。

各団体のブースを巡るスタンプラリーでは景品ももらえる。

県民健康フェアへの来場を呼る（左から）県看護協会の西さん、県歯科医師会の米須敦県薬剤師会の笠原大吾さん、会の白井和美さん＝沖縄タイ

県医師会の白井和美理事身の健康チェックと、子は職業を知るきっかける。親子で気軽に訪れてと呼び掛けている。

平成29年8月19日(土)　沖縄タイムス

食事や体操 楽しく健康

宜野湾で県民フェア開催

【宜野湾】第７回県民健康フェア（主催・県医療保健連合）が20日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンター展示場であった。体力測定や薬、口腔ケア相談、健康・食事チェックなど県内の医療保健関係17団体がブースを用意。親子連れや夫婦、友人同士など多くの来場者が体験や相談を通して、健康について学んだ。

日頃の食事の栄養バランスを測定するコーナーや歯科相談、薬相談のブースには列ができるほどにぎわった。体力測定をした那覇市の川上昇秀さん(79)は妻の麻子さん(75)に誘われて初めて来場。ウオーキングなどの運動をしているといい、「年齢より７歳若いという結果が出てほっとした。これからももっと頑張らないとね」と目を細めた。

口の中の細菌観察や手洗い体験をした久田設子さん(73)＝うるま市＝は「日頃から健康に気を付けないと、という自覚が芽生えるから助かりますね。来年も来たい」と感想を話した。

健康体操などを体験する来場者＝20日、宜野湾市・沖縄コンベンションセンター

平成29年8月22日(火)　沖縄タイムス

※発行元の許可を得て掲載しています。

転載記事

茶のみ話

内間小の平和学習

狩俣 イソ(65)

慰霊の月、浦添市立内間小学校の平和学習で紙芝居の朗読を受け持つ機会を得た。体育館に行くと、先生方が大きな花器に月桃を生けていた。金色の輝きを白いはなびらで包み大きな葉を伸ばして、美しい。1945（昭和20）年3月末の米軍上陸から沖縄戦終結まで、月桃の花は県内各地に咲いて、戦闘が激しくなるにつれ、艦砲射撃で吹き飛び、火炎放射に焼かれたに違いない。

プロジェクターで映し出された絵に合わせて、お話を読んだ。浦添前田に住む8歳のひろこちゃんが体験したウチナーのイクサ。戦争体験者は、戦争のことを思い出すこともつらく、語ることもできずにいる方が多い。戦後70年余を経てやっと口を開いた戦争体験を、知名正男さんが聞き取り、ウチナーグチを交えた作品に仕上げ、まじきなたいきさんが絵を描き、紙芝居が出来上がった。実体験の重みがあるが、重くなり過ぎず胸に染み入る秀作である。

紙芝居の後、知名さんによる戦争の映像・解説があった。浦添は激戦地で、2人に1人が亡くなったこと、4戸に1戸が一家全滅したことなどが説明された。

音楽の先生のタクトで児童たちの合唱「平和の鐘」が体育館に響いた。素晴らしい歌声と懸命に歌う姿に、目が潤む。児童の代表が「平和がずっと続くように家族や友達を大事にし、勉強に励みたい」と結んだ。校長、教頭、先生方の平和学習への熱い思いを伺い、平和を伝えつなぐことの大切さを認識した時間であった。

（浦添市、薬剤師）

2017・8・24　沖縄タイムス

会員の狩俣イソ氏の投稿文です。

季節感 空気感を詠む

県現代俳句協会「沖縄歳時記」発刊

「沖縄歳時記」を発刊した県現代俳句協会の（左から）宮里晄さん、嘉陽伸さん、岸本マチ子さん、親泊仲真さん＝沖縄タイムス社

県現代俳句協会が10年以上掛けて編集した「沖縄歳時記」（文學の森・3024円）がこのほど刊行された。協会会員から有名な俳人まで約250人の9000以上の例句を収録。2800の沖縄の季語を網羅した沖縄の季節感に即した歳時記となっている。

嘉陽伸会長は「沖縄だけでなく、本土の方にも大いに読んでもらいたい」と話している。県内の主要書店で販売している。

「しんしんと肺碧きまで海のたび」という鹿児島県出身の篠原鳳作の代表句は宮古島と那覇を結ぶ船上で詠んだもの。97歳で現役の金子兜太さんの句も入った。

編集に当たった理事の岸本マチ子さんは「斬新で充実した歳時記。俳句を詠まない人でも楽しめる1冊に仕上がった。沖縄の歴史から現状までよく絡まっている」と話す。

宮里晄事務局長は「長い年月がかかり、本当に日の目を見るのかと思ったこともあった。よく出版できた」と感慨深げ。理事の親泊仲真さんは「沖縄の空気感がはっきり表れた本に仕上がった」と話した。

平成29年7月3日(日) 沖縄タイムス

会員の宮里晄子氏が紹介されています。

※発行元の許可を得て掲載しています。

平成29年6月

1木○ 新規個別指導　那覇第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏、川満常務理事
　○ 平成29年度第3回幹事会(臨時)　県薬会議室
2金○ 平成29年度第1回沖縄県がん診療連携協議会　琉球大学医学部管理棟　亀谷会長
　○ 平成29年度第1回在宅医療委員会　県薬研修室
3土○ 平成29年度第46回沖縄県病院薬剤師会総会・学術発表会・特別講演会　ロワジールホテル那覇
4日○ 認定実務実習指導薬剤師養成・更新講習会　県薬研修室　我喜屋常務理事、國吉直子氏
　○ 薬剤師のための在宅支援プログラム(フィジカルアセスメント講習会)　おきなわクリニカルシミュレーションセンター
　○ 第1回日本腎臓薬物療法学会認定セミナー　第一薬科大学(福岡)
5月○ 九州厚生局より来訪　県薬会長室　亀谷会長
　○ 平成29年度第1回広報委員会　県薬会議室
6火○ 沖縄県障害福祉課より来訪　県薬会長室　山城次長
　○ 平成29年度未来の産業育成事業第1回合同会議　沖縄県立博物館・美術館　大城課長
　○ 糖尿病治療について考える～ザファテック錠発売2周年記念～　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　共催：武田薬品工業(株)
　○ 平成29年度第2回地域保健開局委員会　県薬研修室
7水○ 月次会計監査　県薬会議室　仲程みちの税理士、事務局前原・上原
　○ 社会保険診療報酬支払基金幹事会　社会保険診療報酬支払基金沖縄支部　亀谷会長
　○ 平成29年度第4回幹事会　県薬会議室
　○ なごみ会主催県民健康フェア第4回実行委員会　沖縄県医師会館　中尾滋久氏、事務局長嶺
8木○ 沖縄県立中部病院長・事務局長訪問　沖縄県立中部病院　亀谷会長、江夏副会長、伊佐中部地区薬剤師会長、山城次長
　○ 平成29年度沖縄県薬物乱用防止協会臨時理事会　県薬研修室　前濱副会長
　○ 平成29年度沖縄県薬物乱用防止協会研修会　県薬ホール　前濱副会長
　○ 平成29年度沖縄県薬物乱用防止協会総会並びに表彰式　県薬ホール　感謝状受賞者：前濱副会長、笠原理事、知名博樹氏
　○ 新規個別指導　那覇第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏・川満常務理事
　○ **平成29年度第1回臨床薬理学研修会**　県薬ホール　亀谷会長、阪本崇彰(講師)
9金○ 関節リウマチ診療地域連携講演会2017　豊見城中央病院　共催：小野薬品工業(株)
　○ 沖縄脂肪酸フォーラム　ロワジールホテル那覇　共催：持田製薬(株)
10土○ 平成29年度第3回理事会　県薬研修室
11日○ 平成29年度第4回学校薬剤師部会役員会　県薬部会室
　○ **第145回健康とおくすり相談会**　サンエー那覇メインプレイス　担当：那覇地区薬剤師会
　○ 中部地区薬剤師会総会　沖縄市福祉文化プラザ
12月○ 沖縄県薬業連合会監事監査　県薬会議室　亀谷会長、久保田・上間両監事、山城次長
13火○ 平成29年度沖縄県警察官友の会役員会・警察本部長講話・情報交換会　サザンプラザ海邦村田常務理事
　○ 沖縄タイムスより来訪(取材)　県薬会長室　亀谷会長、盛本直也氏、大城課長
14水○ 沖縄県薬業連合会代表者会議　沖縄都ホテル　亀谷会長、山城次長

15木○ 新規個別指導　那覇第一地方合同庁舎　仲真薬局長・川満常務理事
○ 糖尿病療養支援実践セミナー第15回コメディカル勉強会　中頭病院
○ 中部地区研修会「臨床薬剤師育成研修会」（株)ダイコー沖縄
16金○「沖縄子どもの未来県民会議」平成29年度第1回総会　県庁　亀谷会長
○ コンベンションリンゲージより来訪　県薬会長室　亀谷会長、山城次長、大城課長
○ 八重山地区研修会「八重山地区疼痛診療セミナー」　アートホテル石垣島
18日○ **沖縄県薬剤師会第76回通常総会・懇親会**　県薬ホール
○ 平成29年度第4回理事会(臨時)　県薬会長室・会議室
19月○ 健康おきなわ21 第1回「タバコ(COPD)分野委員会　県庁　勝連貴子氏（地域保健開局委員）
20火○ 医薬分業対策委員会(小委員会)　県薬会議室
21水○ 地域ケア会議(那覇市金城)　西川常務理事
○ 平成29年度第1回薬学生実務実習受入委員会　県薬研修室
22木○ 新規個別指導　那覇第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏・照屋林一郎氏
○ 八重山地区研修会「下肢静脈瘤 in 八重山」 ANAインターコンチネンタル石垣リゾート
○ 南部地区研修会「平成29年度第1回他職種連携グループワーク研修会」 南部地区医師会館
講師：荒井理事
23金○ 沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊　ひめゆりの塔構内　長田紀昭氏、神村相談役、吉田理事、大城課長
24土○ 日本薬剤師会第89回定時総会(25日迄)　ホテルイースト21　亀谷会長、江夏副会長
○ 沖縄県インフェクションコントロール研修会　沖縄県医師会館
○ 平成29年度沖縄県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動6.24ヤング街頭キャンペーン　イオン名護店前（北部)、北谷町美浜多目的広場（中部)、パレットくもじ前（那覇)、マックスバリューとよみ前店(南部)、サンエーショッピングタウン宮古島店前(宮古)、サンエー石垣店前他1ヵ所（八重山）
○ 北部地区薬剤師会総会　ホテルゆがふいん
25日○ 日本薬剤師会第89回定時総会　ホテルイースト21
○ 平成29年度第3回南部地区薬剤師会研修会　県薬研修室
○ 平成29年度第5回学校薬剤師部会役員会　県薬部会室
○ 沖縄県病院薬剤師会第9回沖縄抗HIV薬勉強会　沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
26月○ 平成29年度第2回医薬分業対策委員会　県薬会議室
27火○ 管理者会議　県薬研修室
28水○ 中部地区研修会「糖尿病の明日を考える会 in 中部」 ヒルトン沖縄北谷リゾート
29木○ 月次会計監査　県薬会議室　仲程みちの税理士、事務局前原・上原
○ 個別指導・新規個別指導　那覇第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏・川満常務理事
○ 平成29年度第1回地域医療支援病院運営委員会　豊見城中央病院　亀谷会長
○ 職業紹介所責任者継続講習会　中野サンプラザ(東京都)　大城課長
30金○ 沖縄県薬業連合会理事会・総会　ダブルツリー byヒルトン那覇首里城　亀谷会長、江夏・前濱両副会長、山城次長・上原美也子

30金○ 沖縄県薬業連合会懇親会　ダブルツリー byヒルトン那覇首里城　亀谷会長、江夏・前濱両副会長、山里・村田・川満各常務理事、山城次長、事務局上原

平成29年7月

2日○ **第45回沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会総会**　県薬研修室　亀谷会長
○ **平成29年度第1回学校薬剤師部会講習会**　県薬研修室　小泉主任検査技師(講師)
3月○ 平成29年度第2回九州山口各県代表者会議　福岡県薬剤師会館　亀谷会長、江夏副会長
4火○ 平成29年度第5回幹事会　県薬会議室
5水○ 沖縄県保健医療部衛生薬務課との打ち合わせ　県庁　亀谷会長、神村相談役、山城次長
6木○ 新規個別指導　那覇第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏・川満常務理事
○ 浦添市医師会設立25周年記念式典・祝賀会　ラグナガーデンホテル　亀谷会長
7金○ 日本医薬品卸勤務薬剤師会沖縄県支部理事会・総会・研修会・懇親会　(株)琉薬
○ 八重山地区研修会「八重山地区学術講演会」　アートホテル石垣島
○ STOP HYPERTENSION in OKINAWA　ザ・ナハテラス　共催：大日本住友製薬(株)
8土○ **グッジョブ・miniスクール**　那覇市ぶんかテンブス館　新垣梓氏、上里美矢子氏、石川有美子氏、事務局大城課長・前原・上原美也子・宮城
○ 平成29年度第5回理事会　県薬研修室
9日○ **平成29年度女性薬剤師部会第2回「妊娠・授乳とくすり」研修会**　県薬ホール
10月○ 早世対策に関する沖縄県医師会との意見交換会　県薬会議室　亀谷会長、笠原常務理事、石川清和医師、崎間敦医師、糸数公沖縄県保健医療部保健衛生統括監、島袋富美子看護協会専務理事、平良医師会課長、大城課長
11火○ 生涯学習フェスタ「しごとミュージアム」21017　沖縄コンベンションセンター展示棟　西川常務理事、新垣紀子氏、実務実習薬学生、事務局大城課長・長嶺・宮城
12水○ 日本薬剤師会都道府県会長協議会　日本薬剤師会　亀谷会長
○ 中部地区研修会「平成29年度中部地区医師会糖尿病医療ネットワーク委員会第1回勉強会」中部地区医師会館
13木○ 平成29年度沖縄県学校保健会理事会及び文部科学大臣賞推薦審査会　八汐荘（那覇市）　亀谷会長
○ 一包一話集編集会議　てらす薬局　神山朝喜氏、大城課長
14金○ 沖縄県第1回在宅医療ワーキンググループ　沖縄県医師会館　荒井理事
15土○ 第14回沖縄小児内分泌研究会　ダブルツリー byヒルトン那覇首里城　共催:JRCファーマ(株)
16日○ 第57回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in 九州・福岡(17日迄)　福岡大学薬学部棟　池田武俊、仲間聖氏、福地健治氏
○ 平成29年度国際交流ボランティア事業医療通訳ボランティア養成講座　沖縄県国際交流・人材育成財団　講師：阪本崇彰氏
○ 平成29年度第6回学校薬剤師部会役員会　県薬部会室
○ **平成29年度新任・新人薬剤師研修会**　県薬ホール　亀谷会長
17月○ 平成30年度地域医療介護総合確保基金（医療分）についての打ち合せ会　県薬会議室　亀谷会長、笠原・西川各常務理事、荒井・吉田各理事、名嘉紀勝氏、山城次長、大城課長
19水○ 沖縄電力訪問(災害時対応について)　沖縄電力　亀谷会長、山城次長
○ 第1回沖縄県小児医療ワーキンググループ　沖縄県医師会館　荒井理事

19水○ 平成29年度第3回医薬分業対策委員会　県薬研修室　亀谷会長
20木○ 薬剤師確保事業に関する衛生薬務課との打ち合わせ　県庁　山城次長、大城課長
○ 新規個別指導・個別指導　沖縄県庁　社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏
○ 平成29年度第1回南部地区健康おきなわ21推進連絡会議　南部保健所　新垣理事
○ 中部地区研修会「平成29年度中部地区医師会糖尿病医療ネットワーク委員会推奨講演会」中部地区医師会館
○ 心房細動の早期発見と治療を考える in 南部　沖縄県医師会館　共催：第一三共(株)
○ 平成29年度第1回医療保険委員会　県薬会議室　亀谷会長
○ 中部地区研修会「臨床薬剤師育成研修会」（株)琉薬
21金○ 平成29年度第1回沖縄県後期高齢者医療制度運営懇話会　沖縄県後期高齢者医療広域連合　江夏副会長
○ 琉球新報こども新聞からの取材　会営薬局医療センター前　亀谷会長、吉田典子（薬事情報センター)、大城課長
22土○ 沖縄県第1回在宅療養セミナー（シンポジウム）　琉球大学医学部臨床講義棟　講師：荒井理事
○ 北海道医療大学薬学部同窓会沖縄支部主催薬事研修会　ダイワロイヤルネット那覇国際通り　亀谷会長
23日○ **平成29年度第1回健康サポート薬局A・B研修会**　県薬ホール　講師：西川・笠原各常務理事、松本圭五氏
24月○ 沖縄県医療費適正化計画検討委員会(第2回)　県庁　亀谷会長
25火○ 職業人講話(宜野湾市初任者研修会)　宜野湾市はごろも学習センター　講師：松尾はつよ
○ 沖縄労働局より来訪　県薬会議室　山城次長
○ 薬局ビジョン事業打合せ会議　県薬会議室　亀谷会長、川満・笠原各常務理事、伊佐中部地区会長、山城次長・大城課長
○ なごみ会主催県民健康フェア事前打合せ会議　県薬研修室
26水○ 故大田昌秀元沖縄県知事県民葬　沖縄コンベンションセンター展示棟　亀谷会長、神村相談役、事務局宮城
○ なごみ会主催県民健康フェア第5回実行委員会　沖縄県医師会館　笠原常務理事
○ 平成29年度第1回財務委員会　県薬会議室　亀谷会長
○ 平成29年度第2回医療安全対策委員会　県薬研修室　亀谷会長
27木○ 月次会計監査　県薬会議室　仲程みちの税理士、事務局前原・上原
○ 新規個別指導　沖縄県庁　社会保険医療担当：仲真良重氏・川満常務理事
○ 北部地区薬剤師会学術研修会　北部地区薬剤師会館
28金○ 沖縄県慢性期医療協会薬剤部会研修会　県薬ホール　共催：沖縄県慢性期医療協会薬剤部会、(株)ツムラ
30日○ 認定実務実習指導薬剤師養成・更新講習会　県薬研修室　浅沼健一氏、兼城崇氏
○ 平成29年度日本薬剤師会薬局実務実習担当者全国会議　日本薬剤師会　佐藤理事、宮城幸枝氏

平成29年8月

1火○ めんそーれ沖縄県民運動推進協議会総会・表彰式　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　亀谷会長、山城次長
○ 平成29年度第6回幹事会　県薬会議室
2水○ なごみ会主催県民健康フェアPR　沖縄タイムス・琉球新報社　笠原常務理事、事務局長嶺
3木○ 新規個別指導　那覇第一地方合同庁舎　仲真薬局長・川満常務理事
○ なごみ会主催県民健康フェアリハーサル　県薬ホール　笠原・村田各常務理事、中尾滋久氏、松本圭五氏、盛本直也氏、福地健治氏、島袋さゆり氏
○ 健康サポート薬局研修会反省会　県薬会議室　笠原・西川各常務理事、盛本直也氏、松本圭五氏、大城課長、事務局宮城
4金○ 平成29年度第2回沖縄県がん診療連携協議会　琉球大学医学部管理棟　亀谷会長
○ 第8回沖縄疼痛研究会　沖縄県医師会館　共催：協和発酵キリン(株)
5土○ 八重山地区研修会「トータルケアセミナー in 八重山」 ANAインターコンチネンタル石垣リゾート
○ **第12回沖縄県薬剤師会青年薬剤師部会総会・情報交換会**　那覇市内　亀谷会長(あいさつ)
6日○ **平成29年度女性薬剤師部会第22回漢方講座**　県薬ホール
○ 平成29年度第7回学校薬剤師部会役員会　県薬部会室
7月○ 一包一話集打合せ会　パレット久茂地　豊平峰雲氏、新垣正次氏、神山朝喜氏、大城課長
8火○ 第16回九州地区健康教育研究大会(講師派遣)　佐賀県アバンセ　上原卓朗学薬副部会長
9水○ 勝山病院薬局長来訪　県薬会議室　亀谷会長、比嘉伸秀(薬局長)、大城課長
○ 社会保険診療報酬支払基金幹事会　社会保険診療報酬支払基金沖縄支部　亀谷会長
○ 行政薬剤師部会との情報交換会　県薬会議室　亀谷会長、阿部義則氏、中村章弘氏、大城課長
○ なごみ会主催県民健康フェアリハーサル　県薬ホール　笠原常務理事、事務局長嶺
10木○ **平成29年度第2回臨床薬理学研修会**　県薬ホール　亀谷会長、阪本崇彰(講師)
11金○ 健康サポート薬局A研修会　大濱信泉記念館　笠原常務理事(講師)
12土○ 平成29年度第6回理事会　県薬研修室
13日○ **平成29年度調剤報酬請求業務および共同指導・個別指導における指摘事項講習会**　浦添市てだこホール　亀谷会長
15火○ (株)アトル代表取締役社長渡辺紳二郎氏来訪　県薬会長室　亀谷会長
○ 平成29年度第1回健康づくり推進協議会　全国健康保険協会沖縄支部　我喜屋理事
○ 地域医療介護総合確保基金新規事業についての検討会議　県薬会議室　亀谷会長、江夏・前濱各副会長、川満・笠原・西川各常務理事、荒井・吉田各理事、仲真薬局長、山城次長・大城課長
16水○ 沖縄県保健医療部衛生薬務課より来訪　県薬会長室　亀谷会長、大城課長
○ 平成29年度第2回薬学生実務実習受入委員会　県薬会議室
17木○ 第80回那覇地区薬剤師会臨床講座　県薬研修室
○ 中部地区研修会「臨床薬剤師育成研修会」 (株)琉薬
18金○ 平成29年度沖縄県公務員薬剤師会退職者激励会・懇親会　ダイワロイネットホテル沖縄県庁前　亀谷会長、大城課長
20日○ **なごみ会主催第7回県民健康フェア2017**　沖縄コンベンションセンター展示棟　亀谷会長

21月○ 薬学生病院見学　ハートライフ病院・宜野湾記念病院・琉球大学医学部附属病院　伊佐桃佳(薬学生)
○ 平成29年度健康長寿おきなわ復活県民会議幹事会　県庁　笠原常務理事
22火○ 平成29年度第1回感染症ケースカンファレンス　中頭病院
○ 平成29年度第1回薬事情報センター委員会　県薬会議室　亀谷会長・吉田典子(DI)・平良恭子
○ 平成29年度第2回学術研修委員会　県薬研修室　亀谷会長
23水○ 地域ケア会議(浦添)　浦添市社会福祉センター　笠原常務理事
○ 南風原町教育委員会主催職業人講話関係者情報交換会　南風原町中央公民館　新垣紀子
○ 中部地区研修会「平成29年度中部地区医師会糖尿病ネットワーク委員会推奨講演会」 中部地区医師会館
○ 那覇地区薬剤師会浦添支部会議及び研修会　(株)琉薬
24木○ 個別指導・新規個別指導　那覇市第一地方合同庁舎　仲真薬局長・宮城幸枝
○ 平成29年度第4回医薬分業対策委員会　県薬研修室
27日○ 第10回熟年の集い　ダブルツリー byヒルトン那覇首里城　亀谷会長
○ **第146回健康とおくすり相談会**　サンエー那覇メインプレイス　担当：那覇地区薬剤師会
28月○ 平成29年度沖縄県禁煙協議会総会　沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ　前濱副会長・勝連貴子地域保健委員
○ 平成29年度健康長寿おきなわ復活県民会議　県庁　亀谷会長
29火○ 月次会計監査　県薬会議室　仲程税理士
○ 管理者会議　県薬研修室
30水○ 薬剤師職能PRビデオ撮影　会営薬局医療センター前・他　大城課長
○ 平成29年度第2回琉球大学漢方医学研究会　琉球大学医学部基礎研究棟　共催：(株)ツムラ
○ 専門職向け地域ケア会議研修会　沖縄県福祉センター西棟　笠原常務理事
○ 平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)についての打ち合せ会　県薬会議室　亀谷会長・笠原・西川各常務理事・荒井・吉田各理事・名嘉紀勝
31木○ 薬剤師職能PRビデオ撮影　県内各所
○ 平成29年度独立行政法人日本スポーツ振興センター学校安全業務運営会議　沖縄県南部合同庁舎　知名博樹学薬副部会長
○ 個別指導・新規個別指導　那覇市第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏
○ 膠原病マネジメントセミナー　ザ・ナハテラス
○ Okinawa Health Promotion Academic Meeting　沖縄県医師会館　共催:武田薬品工業(株)
○ 平成29年度第1回災害対策委員会　県薬会議室

平成29年9月

1金○ 薬剤師職能PRビデオ撮影　沖縄県立南部医療センターこども医療センター、会営薬局医療センター前、県内各所　大城課長
○ くすりと健康フェアPR活動(那覇市自治会)　那覇市小禄支所・那覇市首里支所　山城次長、大城課長、事務局宮城
3日○ 平成29年度第8回学校薬剤師部会役員会　県薬部会室　亀谷会長
○ 平成29年度名城大学薬学部公開講座　県薬研修室

4月○ 薬学生実務実習　2期開始(9/4 ～ 11/19)
○ 琉球大学医学部附属病院藤田次郎病院長訪問　琉球大学医学部附属病院　亀谷会長、山城次長
○ 琉球大学石田肇医学部長訪問　琉大病院　亀谷会長、山城次長
○ 薬学生オリエンテーション　県薬研修室　講師：佐藤理事、宮城幸枝氏、兼城崇氏
6水○ 平成29年度第1回沖縄県自殺対策連絡協議会　県庁　村田常務理事
○ 職業人講話　沖縄市立球陽中学校　講師：糸嶺達氏
○ 社会保険診療報酬支払基金幹事会　社会保険診療報酬支払基金沖縄支部　亀谷会長
○ 薬剤師資格証発行に係る実務説明会　日本薬剤師会　事務局松堂
○ くすりと健康フェアPR活動(那覇市自治会)　那覇市真和志支所　山城次長
7木○ 個別指導・新規個別指導　那覇市第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏・照屋林一郎氏
○ 平成29年度第2回地域医療支援病院運営委員会　豊見城中央病院　亀谷会長
○ くすりと健康フェアPR活動(那覇市自治会)　なは市民協働プラザ　事務局長嶺
○ Care AF in 中部　ザ・ビーチタワー沖縄　共催：バイエル薬品(株)
○ 平成29年度第7回幹事会　県薬会議室
○ 九山大会発表についての打ち合せ会　県薬研修室　佐藤理事氏、宮城幸枝氏、上間秀子氏
8金○ 沖縄県議会文教厚生委員会への参考人出席　沖縄県議会　亀谷会長、山城次長、大城課長
○ 宮古地区研修会「宮古地区学術講演会」　ホテルアトールエメラルド宮古島
○ 睡眠と生活習慣病フォーラム　沖縄県医師会館　共催：MSD(株)
○ 経口抗がん剤の実践を学ぶ会　ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城　大鵬薬品工業(株)
9土○ 平成29年度日本薬剤師会学校薬剤師部会「学校環境衛生検査技術講習会」(10日迄)　帝京大学板橋キャンパス　上原卓朗・知名博樹各学薬副部会長
○ 平成29年度第7回理事会　県薬研修室
10日○ **平成29年度第1回医薬分業対策委員会主催講演会**　県薬ホール　講師：尾崎淳子氏
○ **平成29年度医薬分業対策会議**　県薬研修室
11月○ くすりと健康フェアPR活動(那覇市自治会)　なは市民協働プラザ　山城次長
12火○ 沖縄県医療審議会　県庁　亀谷会長
○ 平成29年度第3回地域保健委員会　県薬研修室
○ 行政との情報交換会　県薬会議室　亀谷会長、江夏・前濱各副会長、(保健医療部)砂川靖部長・阿部義則参事、(衛生薬務課)新城光雄室長・中村章弘主幹、大城課長
○ 平成29年度第1回在宅医療委員会　県薬会議室
13水○ 沖縄県「第2回在宅医療ワーキンググループ」　沖縄県医師会館　荒井理事
○ 中部地区研修会「平成29年度中部地区医師会糖尿病医療ネットワーク委員会第2回勉強会」中部地区医師会館
14木○ 個別指導・新規個別指導　那覇市第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏
○ ～八重山地区～脳卒中勉強会～　アートホテル石垣島　共催：ファイザー(株)
○ Diabetes&Incretin Seminar in 沖縄　沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ　共催：大日本住友製薬(株)
15金○ 沖縄県病院薬剤師会学術講演会　沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

16土○ 薬剤師生涯学習担当者会議　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　外間副会長
○ 災害対策協議会　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　吉田理事
○ 医療安全対策連絡協議会　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　吉冨理事
○ 平成29年度第2回九州・山口地区実務実習調整機構総会　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　我喜屋理事・宮城幸枝
○ 医療保険協議会　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　川満常務理事・仲真良重
○ 九州山口薬剤師会事務職員協議会　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　山城次長
○ 九州山口若手薬剤師連絡協議会　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　西川常務理事、上原理事
○ 学校薬剤師協議会運営委員会　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　前濱副会長、村田成夫学薬部会長
○ 試験検査センター運営連絡協議会　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　小泉主任検査技師
○ 平成29年度第2回九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関運営委員会　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　我喜屋理事、仲真良重、宮城幸枝氏
○ 在宅医療推進協議会　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　荒井理事
○ 大会運営委員会　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　亀谷会長、江夏・外間・前濱各副会長
17日○ **第78回九州山口薬学大会（18日迄）**　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）
18月○ 九山大会シンポジウム5「臨床検査値を活かした処方監査と服薬指導」　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　西川常務理事（シンポジスト）
○ 九山大会シンポジウム6「調剤をとりまく環境」　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　仲真良重（座長）
○ 第78会九州山口薬学大会シンポジウム9「急げ！改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習」　シーガイアコンベンションセンター（宮崎県）　宮城幸枝氏（シンポジスト）
19火○ 沖縄県「第2回小児医療ワーキンググループ」　沖縄県医師会館　荒井理事
○ 平成29年度第1回認知症対応力向上研修開催前打合会議　県薬ホール　中尾滋久氏、新垣比奈子氏（沖縄県高齢者福祉介護課）、遠藤一博氏（北中城若松病院医師）、清水幸子氏・比嘉直美氏（那覇市地域包括支援センター）、大城課長
20水○ 平成29年度第1回薬剤師に知っててもらいたい細菌検査セミナー　那覇市立病院　共催：沖縄県病院薬剤師感染症分科会
21木○ 個別指導・新規個別指導　那覇市第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏
○ 中部地区研修会「平成29年度中部地区医師会糖尿病医療ネットワーク委員会第3回勉強会」中部地区医師会
○ 機能性消化管疾患を考える会　ザ・ナハテラス　共催：アステラス製薬（株）
○ 骨とリウマチフォーラム in 沖縄　ダブルツリー byヒルトン那覇首里城　共催：第一三共（株）
○ 中部地区研修会「臨床薬剤師育成研修会」　（株）琉薬
○ 健康サポート薬局事業関連打合せ会議　県薬会議室　亀谷会長、笠原・西川常務理事、盛本直也氏、松本圭五氏、中尾滋久氏、大城課長、事務局宮城
22金○ 職業人講話　アメラジアンスクール・イン・オキナワ　講師：松尾はつよ

23土○ **平成29年度第1回地区薬剤師会会長会議**　県薬研修室
24日○ **平成29年度第2回健康サポート薬局A･B研修会**　県薬ホール
○ 平成29年度第9回学校薬剤師部会役員会　県薬部会室
○ 沖縄県病院薬剤師会精神科分科会勉強会　沖縄県医師会館　共催：大塚製薬(株)
25月○ 薬学生実務実習(学校薬剤師について)　県薬研修室　講師：知名博樹氏
○ 琉球大学医学部への薬学科設置の要望書提出　文部科学省　文部科学大臣林芳正氏、西銘恒三郎衆議院議員(同行者)、亀谷会長、山城次長
26火○ 琉球大学医学部への薬学科設置の要望書提出　内閣府庁舎　内閣府特命担当大臣江﨑鐵磨氏、西銘恒三郎衆議院議員(同行者)、亀谷会長、山城次長
○ 琉球大学医学部への薬学科設置の要望書提出　財務省　財務副大臣うえの賢一郎氏、西銘恒三郎衆議院議員(同行者)、亀谷会長、山城次長
○ 琉球大学医学部への薬学科設置の要望書提出　厚生労働省　厚生労働大臣加藤勝信氏、西銘恒三郎衆議院議員(同行者)、亀谷会長、山城次長
○ くすりと健康フェアPR活動　FM沖縄　盛本直也氏、大城課長
○ 平成29年度第2回広報委員会　県薬会議室
27水○ 平成29年度生涯学習担当者全国会議　日本薬剤師会　外間副会長、中尾滋久氏（学術研修委員会）
○ 女性の健康サポートセミナー　県薬ホール
○ なごみ会主催県民健康フェア第6回実行委員会　沖縄県医師会館　笠原常務理事
28木○ 月次会計監査　県薬会議室　仲程税理士
○ 個別指導・新規個別指導　那覇市第一地方合同庁舎　社会保険医療担当：仲真良重氏・吉田理事
29金○ 八重山地区研修会「血管合併症を考慮した糖尿病治療を考える会」 ANAインターコンチネンタル石垣リゾート
30土○ 中部地区研修会「沖縄県中部地区不眠症治療学術講演会」 EMウェルネスリゾートコスタビスタ沖縄
○ **平成29年度第1回青年薬剤師部会主催講演会**　県薬ホール　亀谷会長
○ **青年薬剤師部会主催情報交換会**　県薬研修室　亀谷会長

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成29年6月

1木○ 次期参議院議員通常選挙の日本薬剤師連盟組織内統一候補者　本田あきこ氏「全国キャラバン」薬局等訪問　南部地区　亀谷会長、本田あきこ氏、安東日薬連盟副会長、山城次長
9金○ うるま市長来訪　県薬会長室　亀谷会長
18日○ 沖縄県薬剤師連盟評議員会　県薬ホール
19月○ 那覇市議会議員選挙対策各種団体実務者会議　自民党県連　山城次長
23金○ 参議院議員藤井基之氏　県内視察(沖縄全戦没者追悼式出席後)　沖縄科学技術大学院大学(OIST)・西普天間跡地・他　藤井基之参議院議員、神村顧問、山城次長

平成29年7月

29土○ 沖縄振興セミナー「活用！国家戦略特区」 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー　亀谷会長、前濱総務

平成29年8月

24木○ 衆議院議員宮﨑政久氏来訪　県薬会長室　亀谷会長、山城次長
28月○ 衆議院議員ミヤザキ政久女性の集い　ラグナガーデンホテル　新城総務
○ 衆議院議員ミヤザキ政久激励の集い　ラグナガーデンホテル　亀谷会長、山城次長

平成29年9月

7木○ 衆議院議員比嘉なつみを囲む集い　モーリアクラシック沖縄迎賓館　江夏副幹事長、新城総務
23土○ 全国幹事長フォーラム2017　クロスウェーブ船橋　石川副幹事長
24日○ 全国幹事長フォーラム2017　クロスウェーブ船橋　石川副幹事長
27水○ 平成29年度臨時評議員会　スクワール麹町　亀谷会長
29金○ ミヤザキ政久選対本部事務所開き　ミヤザキ政久選対本部事務所　亀谷会長、新城総務、山城次長
○ コクバ幸之助事務所開き　コクバ幸之助事務所　神村顧問、大城課長

訃報

生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

具志堅 博一 先生（享年79歳）　平成29年 8月 3日ご逝去
上原 盛和 先生（享年52歳）　平成29年 8月15日ご逝去
中村　優 先生（享年84歳）　平成29年10月12日ご逝去

会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
（香典・生花等の手配があります）

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしくお願いします。

【連絡先】県薬事務局（前原・大城）：098-963-8930

誌上ギャラリー（裏表紙）について

上：「山旅スケッチ（上高地）」水彩 by 小那覇 幸子（おなは薬局）

中央：「ダイバー泣かせの貿易風」photo by 吉冨 弓江（(株)琉薬） 撮影地：ニューカレドニアアンスヴァタビーチ
ニューカレドニアは午後から貿易風が吹くので、ダイビングができない！でもウインドサーファーにとっては楽しみな風のようです。

下：「アダン」photo by 伊集 智英（くはら薬局）

編集後記

6月に常務理事の任期を全うして3か月余り。幹事会や理事会に出席することがなくなり、県薬剤師会の動向や情報に疎くなってしまった。が、会報誌掲載予定の報告記事等の校正ゲラをチェックしていると、手に取るように県薬の動きが理解できるのだ。いま、会報誌の重要性を再認識している。改めて、正確にかつ分かりやすい内容をお届けしたいと鼻息を荒くしている。（クララ）

熟年の集いで、橋の下先生の「一包一話」が本になると発表された。ファンの多い「一包一話」の事、みんな欲しいと思っているはず。話として面白いだけではなく、当時の薬局を取り巻く状況の記録として､沖縄の薬局、薬業界の資料としても重要である。熟年の集い後のある日､開局前の薬局に一人の女性が。「一包一話が販売されると聞いたけれど、どのように購入するのですか？」退会された薬剤師の方でしたが､「一冊予約でね」と帰っていかれた。発行を心待ちにしている先輩方が沢山いらっしゃるはず。資料として、昔沖縄を知らない若い薬剤師にも読んでほしい一冊である。（TOMO）

比嘉光龍さんをお招きした熟年の集いで、『ふぃーじゃ（比嘉）さん』を『ふぃーじゃー（ヤギ）さん』と呼び大変失礼をいたしました。会にて自分の姓は沖縄の方言で「いじゃしちゃ」になることを初めて知った。呼ばれた時に振り向く練習中です。（いさ吉）

最近健康サポート薬局に関連する話題が多くなってきたように思う。県薬剤師会では昨年・今年と2回の合計で200余名の方々が「健康サポート薬局　技能習得型研修A・B」を受講されているが、現時点で登録されている健康サポート薬局（健サポ薬局）は2件だけである。技能習得型研修に続いて知識習得型研修を終了しても、健サポ薬局になるためのほんのスタートラインについたに過ぎない。届出書添付書類をザッと見ても、とても手が出そうもない｡まず気になるのが業務手順書(省令手順書･健康サポート業務手順書）の作成、要指導医薬品の基本的な薬効群（14薬効・48品目）の供給及び衛生材料･介護用品の備蓄、薬局独自の健康相談（月1回ぐらい）及び健康保持増進支援への取組等々数え上げたらきりがない。しかし、健サポ薬局2件のうち1件は一人薬剤師の薬局であると聞いて皆さん！勇気がわいてきませんか。今後は県薬でも健サポ薬局届出推進に向けての実務的は取組が必要と思われる。すでに健サポ薬局の看板を上げている先輩薬局からもぜひ教えを乞いたいものである。参考までに平成29年8月31日時点の健サポ薬局届出状況は全国で479件、大阪府が一番多く48件､九州では福岡県16件、熊本県15件と続く。全国の薬局数約55000軒と比べて決して多いとはいえない数に戸惑ってしまうのだが・・・（ピアナ）

私の薬局グループの各管理薬剤師は、受け入れた実務実習生向けに『PowerPoint資料』を作成して講義を行っている。題材は各々に任せているが、やはり実習生が興味を引く題材を選別しなければならない。講義が1～2時間の長丁場となるので、途中で飽きられることが無いよう、私としては所々に笑いとなる『ネタ』を仕込んでおきたいのが本音である。そこで最も使いやすいのが、自分や職員の画像だ。但し、内輪ウケにならないように上手く活用するには、普段から実習生とのコミュニケーションが必須となってくる。また、実習生にも『PowerPoint資料』を作成してもらい、実習最終日に職員に向けて発表してもらっているので、ここで何か生かされれば幸いである。最後に、画像を引用されて犠牲になった職員へ・・・ゴメンナサイ。。　（ごり）

長らくお休みをいただきました、広報委員の松です。個人的事情でお休みしている間にも､広報委員会はめまぐるしい変化を遂げ(?)優秀で若手の人材が入っていました。わずかながらにも、先輩として、広報委員会の鉄の掟を伝授しようかとも考えましたが、すでに、委員長のハートをワシ掴みにしているようで、その必要もないようです･･･。今回の委員会では、沖縄県薬剤師会の周年事業についても話がもたれましたが、この周年事業について、他の団体業種と比べてみても、県薬剤師会はずば抜けて、歴史があることをみなさんご存じでしたか？（自分は知りませんでした。）話し合いでは、昔の薬剤師の話も出ていましたが、もしかしたら、この歴史の積み重ねの中に、今後の薬剤師の活路となるようなヒントが眠っているかもしれません･･･。

（松）

運動会シーズン到来の10月。子供たちがお遊戯の練習をしている光景がよく見られるようになった。滝のような汗を流しながらも、一生懸命リズムに合わせて踊る姿は微笑ましい限りである。私も最近、親戚の子供と遊ぶ機会が増えるようになったが、ひたすらジャンケンを繰り返したり、架空のぶどう拾いをエンドレスで行ったりと、子供の集中力の高さには驚かされるばかりだ。ほんとに見習いたい･･･！ この様に子供たちが元気に運動し、よく食べ、良く学ぶことが出来るのも健康あってのものなのだと実感すると共に、その健康を守っている世のお母さん・お父さん方には心から尊敬の念を抱く。　（りな）

沖縄県薬剤師会

〒901-1105　沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10　http://www.okiyaku.or.jp　e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

■事　　務　　局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932　■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937
■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946　■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932
■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原241-1　TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567
■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1　TEL 098-856-4160 FAX 098-856-3415

おきなわ薬剤師会報 第289号　平成29年10月31日発行

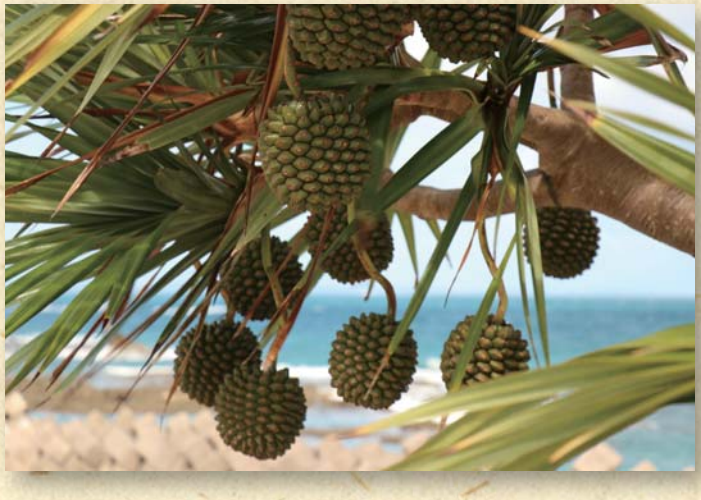
◇次号は、平成29年12月中旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会　会長　亀谷浩昌
編　集：広報委員会　委員長／宮城敦子　委員／前濱朋子・池間記世・鈴木一徳・石川恵市・伊敷松太郎
伊差川サヤカ・座覇里奈　久米島通信員／山城晶　宮古地区通信員／前里由紀子
八重山地区通信員／金城智史　事務局／大城喜仁
印　刷：有限会社 Skill

誌上ギャラリー

（会員作品）

お気軽にご投稿下さい。



定価四〇〇円（会員の購読料は含会費）